

公募研究シリーズ

28

非自発的孤立・無縁 ゼロ社会創成のための セーフティネット設計

青木 恵子

大阪大学
社会経済研究所
特任研究員

赤井 研樹

東京大学大学院
工学系研究科技術経営戦略学専攻
特任研究員

全労済協会

発刊にあたって

本報告誌は、2010年度の全労済協会公募委託調査研究テーマ「絆の広がる社会づくり」で採用となった、「非自発的孤立・無縁ゼロ社会創成のためのセーフティネット設計」の研究成果です。

日本社会では、人々は労働に参加することによって社会・経済的に自立し、また社会保障制度等によって守られてきました。しかし、近年、ワーキング・プアのように労働参加によっても生活に必要な物資が得られず、社会制度にもアクセスすることができない状態の人々が生じ、いわゆる「社会的排除」の問題が強く指摘されるようになってきました。

当初、社会的排除の問題は、社会的に不適応に陥った個人の問題だと思われていました。

しかし、グローバル競争の激化や雇用柔軟化により失業が長期化し、非正規雇用が拡大するなど雇用は不安定化し、長期雇用を前提とした社会保障制度の枠組みから脱落する人々が増大したことで、社会全体に広がる不安定な状態を指すようになってきました。

個人の自由な活動は、社会における人々の相互依存関係に依拠し、お互いに支え合う義務を負っているといえます。この意味で社会的排除は、経済的な貧困や労働市場からの離脱にとどまらず、社会的な権利と義務の相互関係からの脱落も指しています。本研究では、自ら望んでなるわけではない孤立や無縁の状態を防ぐことを目指し、協働作業の実験やアンケート調査等から人が孤立化する傾向を探り、それを防止し自立を促すための様々な施策の効果について検証を行っています。

まず、孤立に陥る原因について社会的な環境からの影響を調査し、次に人が潜在的に持っている社会的なつながりに対するコスト意識について金銭的な評価を行っています。協働作業の実験結果から、協働相手を探したり報酬の分配を相談する手間が複雑になるほど、独りでの作業を好む等の傾向が見られます。

また、非自発的な孤立や無縁の状態にある人々を救い、潜在的にその状態に陥る可能性がある人々を防止するために英国で実施されたセイビング・ゲイトウェイ（低所得者向けの預貯金口座に政府が給付を行うことで貯蓄の促進を図る施策）やチャイルド・トラスト・ファンド（誕生から18歳までの非課税貯蓄口座）等の施策、さらにベーシックインカム（最低限の生活をおくるための資金を政府が全国民に無条件に定期的に支給する）構想について、その期待をアンケートにより検証しています。今後日本においては、貯蓄奨励を図り、自助努力の動機づけになるような自立助長政策が必要ではないかと思われます。

本報告誌が、社会からの孤立・無縁に陥る人々の状況と、自立と防貧の施策のあり方について、多くの皆様にご理解いただく一助となれば幸いです。

「公募委託調査研究」は、勤労者の福祉・生活に関する調査研究活動の一環として、当協会が2005年度から実施している事業です。勤労者を取り巻く環境の変化に応じて毎年募集テーマを設定し、幅広い研究者による多様な視点から調査研究を公募・実施することを通じて、広く相互扶助思想の普及を図り、もって勤労者の福祉向上に寄与することを目的としています。

当協会では研究成果を「公募研究シリーズ」として順次公表しています。

第1章	イントロダクション	1
第2章	孤立の選好	5
2.1	イントロダクション	5
2.2	調査デザイン	5
2.3	調査結果	10
2.4	まとめ	10
第3章	孤立の対価：コミュニケーションからの離脱	11
3.1	イントロダクション	11
3.2	調査デザイン	11
3.3	調査結果	13
(1)	実験の結果	13
(2)	アンケートの結果	14
(3)	実験とアンケートの比較	16
3.4	まとめ	16
第4章	孤立の対価：協働作業からの離脱	18
4.1	イントロダクション	18
4.2	調査デザイン	18
4.3	調査結果	21
(1)	孤立の対価	21
(2)	協働作業のパフォーマンス	22
4.4	まとめ	23
第5章	孤立・孤独と信頼・互恵の相関	24
5.1	イントロダクション	24
5.2	調査デザイン	24
5.3	調査結果	25
(1)	実験の結果	25
(2)	アンケートの結果	26
(3)	実験とアンケートの比較	26
5.4	まとめ	26
第6章	孤立・孤独と生活習慣および社会心理との相関	28
6.1	イントロダクション	28
6.2	調査デザイン	28
6.3	調査結果	29
6.4	まとめ	32
第7章	集団への所属の対価	33
7.1	イントロダクション	33
7.2	調査デザインと推定モデル	34

(1) 調査デザイン	34
(2) 推定モデル	35
7. 3 調査結果	36
(1) 集団所属の対価	36
(2) 孤立・孤独・幸福・不安・信頼	40
(3) 低所得者政策への反応	40
7. 4 まとめ	41
第8章 孤立抑止のための社会福祉制度	43
8. 1 イントロダクション	43
8. 2 調査デザイン	43
8. 3 調査結果	45
(1) セイビング・ゲイトウェイとチャイルド・トラスト	45
(2) ベーシックインカムと貯蓄率	46
(3) ベーシックインカムと貯蓄優遇政策のポリシー・ミックス	46
(4) 生活保護者に対する貯蓄優遇政策とワークシェアへの期待	49
8. 4 まとめ	49
第9章 非自発的孤立・無縁ゼロ社会に向けての提言	51
参考文献	54
サブリメンタル・マテリアル	55

第1章 イントロダクション

社会からの孤立・無縁は社会的動物としての人間に様々な機能障害を引き起こし、最悪、秋葉原無差別殺傷事件のような悲劇を生み出し、社会不安を助長することが懸念される。孤立がもたらす弊害は重く、それによる社会的損失は大きい。米国でもヴァージニア工科大学銃乱射事件のように、孤立が引き金となったと考えられる悲惨な事件が多発しており、国内外において孤立の研究に関する関心は非常に高い。実際、社会的孤立や貧困に起因する社会的排除を抑止する目的でイギリスやアメリカでは、新しい社会福祉制度やセーフティネットが模索されており、安心・安全な社会のためには、孤立に至るメカニズムの検証と併せて、非自発的な孤立・無縁者を救済し、その潜在的予備軍を防止する社会制度設計が不可欠である。

特に、先の東日本大震災は未曾有の自然および人的災害として、多くの人々の生命や財産を奪い去った。阪神・淡路大震災の教訓からも明らかかなように、震災後の復興時における人々の孤立を防ぎ、心のケアを行い、鬱や自殺などの二次的な被害を抑止することが重要な課題である。以上から、人々の孤立への選好と対価および社会集団への帰属価値を計測し、それが生活習慣、社会的背景、孤独の度合いとどのように関係しているのかを探ることが急務の課題となっている。

孤立に関する国外での研究動向は、人は社会的動物であると述べたアリストテレスまで遡る。人が生きていく上で、社会的な繋がりが不可欠であることは古くより認識されてきた。近年は、仲間外れは身体的苦痛に等しいこと (Eisenberger et al., 2003)、孤独はアルツハイマーに影響を及ぼし (Wilson et al., 2007)、経済的な不公平を受け入れやすくすることが分かってきた (カシオポ等、2010)。

国内では、社会心理学においては、高橋・山岸・橋本 (1998) が日本人の協力行動は集団内での監視と制裁によって支えられていることを、経済学においては、Okada and Riedl (2005) が経済非合理的な互惠性が集団形成に強い影響を与えることを示したが、これらは社会監視の薄れた孤立・無縁な社会は社交性や協調性を減退させ、社会不安を助長させることを示唆する。一方、社会福祉学においては、岩田 (2008) は失業・離婚・疾病などが同時多発することでホームレスに陥る可能性を、藤森 (2010) は、団塊の世代の中高年齢層が社会的孤立の予備軍となっていることを示し、斎藤 (2002) はインターネットが若者のひきこもりからの脱却に有効なコミュニケーション・ツールであることを説いた。

孤立は信頼・互惠と密接に関係していると予想されるが、信頼が生産性を上げることを示した研究 (Knack and Keefer, 1997; Zak and Knack, 2001) があるのに対して、孤立が生産活動に及ぼす影響を明示的に示した研究は無い。我が国は、OECD 20カ国で「友人・同僚・その他の人々との交流頻度」が最小との報告がある。稼働年齢層 (生活保護制度上の15~64歳) における社会的孤立の増加により生産性の減退が招くのであれば、少子高齢化による労働力および資本蓄積の減少に歯止めのかからない我が国にとって、稼働年齢層の社会的孤立は経済の根幹を揺るがしかねない。

2010年には、NHKの特集番組による孤立死と孤立社会が特集され、我が国における社会的孤立状態が衝撃をもって伝えられると共に、世代を超えて、多くの人々の共感をよんだ。政府もこの深刻な事態に対応すべく、内閣府が「一人ひとりを包摂する社会」特命チームを結成し、社会的包摂政策に関する緊急政策提言を発表するに至っている。そこでは社会的排除についてのリスク

■ 第1章 イントロダクション

要因の解明と、誰もが排除されない社会への提言が書かれているが、具体的に社会的排除や社会的孤立の発生メカニズムは分かっておらず、その対策は、孤立抑止のためには自己の悩みを相談できるような人的資源の投入を行うことが書かれているだけである。これは困っていることを相談すれば社会的排除が解決のための、はじめの一步としては評価できる。しかし、社会的排除や社会的孤立はその解決策が社会・経済制度としてシステム化されなくてはならないと考える。なぜなら、人は社会で生きていく動物であり、社会のシステムの中で包摂されるべき対象だからである。よって、提言書にまとめられているようなワンストップ型の相談機会の創出は、一時的に留めるという意味でのワンストップとしての効果はあっても、永続的にその人を引きとどめるという意味でのストッパーには成りえない。社会的排除や孤立を防ぎ、その予備軍を防止するためには、永続的に社会システムとしていつ社会的孤立が起きても、いつでも社会に戻れるようなシステム作りが不可欠であると考えられる。

かつて、日本は企業が共同体的な社会としての役割を担っていたが、長引く不況による経済転換が、契約に基づく労働環境を促進し、これが稼働年齢層の社会的孤立を助長していると考えられる。安心・安全な社会創成のためには、孤立が発生するメカニズムとそれが経済に与える影響を明示的に示し、その損失を抑止するセーフティネットの模索が不可欠と考えられる。

以上の背景をもとに、本研究の目的は、非自発的孤立・無縁ゼロを目指し、1) 孤立に至る要因を解明し、2) 人が潜在的に持つ社会的繋がりに対するコスト意識の金銭的評価を行い、3) 非自発的孤立・無縁者を救済し、その潜在的予備軍を防止するための社会保障制度を検証することである。

1つ目は「孤立のメカニズムの解明」である。生産活動の中での集団形成に着目し、逆に、集団を形成しない人たちを社会から自発的に孤立する人と定義し、その孤立がどのような環境で起きるのかを経済実験を用いて検証する。そして、孤立する人と協調する人では生産性がどの程度異なるのかを検証することで、孤立が生産活動に与える影響を明示的に示す。

このサブテーマは本研究の第2章と第3章が該当する。第2章では、手紙を折り、封筒に封入し、宛名を貼り付けるというダイレクトメールを作る一連の作業をペアで行うか独りで行うかを経済実験の手法で被験者に尋ねる。そして、この作業を独りでやりたいとする人々の頻度を検証し、そこから孤立に関する選好を探る。仮説としては、コミュニケーションがより煩雑になるのは自発的に相談してペアを決める実験のため、コミュニケーション・コストが高いことを避けるために、より多くの被験者がこの実験では、独りで作業を選好すると考えられる。

第3章では、グループになってお金を分ける話し合いからいくらであれば離脱したいかを被験者に問う経済実験と、同じことを一般の市民に対して問うアンケート型の調査の2種類の調査を行った。どちらの手法においても、被験者は4人で4,000円を分けるか、そこから離脱して独りでX円を受け取るかを定めることが出来る。X円の額は実験では0～1,000円で、アンケートでは500～1,000円である。仮説としては、4,000円を4人で均等に分ける1,000円をベンチマークとして、そこにX円が近づくにつれ、独りになる人が増えると考えられる。

2つ目は「社会的繋がりへの対価」の調査である。実験経済学とアンケート調査の手法を応用し、人は孤立および社会復帰に対してどの程度のコストを費やしても良いと考えているのかを調査する。これによって、孤立・無縁者救済のために、いくら社会的投資が必要なのかを算出する。

このサブテーマは本研究の第4章・第5章・第6章・第7章が該当する。第4章では、第2章の実験デザインで考えられた、ペアでの作業を行う際の4つの実験＝ペアの決め方（自発とく

じ)×報酬の分け方(相談と均等割り)の全てを具体的に実験に導入して、比較する。その際に、第2章と異なり、労働環境を手紙から金融市場での意思決定に変える。手紙を折る作業では、ペアになって協働して作業をする際に、自分と相手での分担作業が可能であった。しかし、現実の経済においては、分業が明確に成り立つことは少なく、相手と自分との協働作業から1つの成果しか得られない事が多い。そのような状況の一例として、金融市場での意思決定がある。実験では被験者はペアとなって、ケインズの美人投票ゲームと呼ばれる金融市場を模した経済的な意思決定を2人で行う。これが嫌な人は、その前の入札ステージにおいて、独りでこの意思決定を行うために払ってもよいと思う額を入札して、落札者となれば独りで作業できる。よって、独りになる対価はそのまま入札額として表れることになる。仮説としては、くじと自発では相談の方がコミュニケーション・コスト(話し合いや人と意志疎通するための手間・時間などの費用)が高いため、自発の入札額の方が高くなるだろう。また、相談と均等割りでは相談の方がコミュニケーション・コストが高くなるので入札額は高くなると考えられる。

第5章では、孤立・孤独と信頼・互惠の相関について検証した。信頼や互惠は社会資本の基礎であり、人間がホモエコノミクスとしてではなく、ホモサピエンスとしてコミュニティを形成していく上での不可欠な資本である。一方で、孤立と孤独はこの資本に逆行する概念である。そこで、これらの変数がどのような相関を持っているのかを探ることにより、孤立や孤独が社会形成を阻害する要因となっているのかどうかを検証する。

信頼と互惠はゲーム理論に基づく経済実験とアンケートによって検証した。被験者は自分が持っている1,000円のうち、好きなだけを相手に投資する。その額は3倍となって相手にわり、相手はそのうちの好きな額を元の被験者に送る。この投資する額と、還元する額を信頼と互惠の度合いとする。仮説は孤立と孤独が高い人ほど信頼が小さい傾向にあると考えられる。なぜなら社会的孤立は協調を阻害すると考えられるからである。よって、他者への信頼コストが高くなると考えられる。

第6章では、孤立と孤独が社会背景、生活習慣、様々な社会心理尺度とどのように関連しているのかを探る。これにより、孤立や孤独に陥りやすい人、また、孤立や孤独がもたらす様々な生活面・社会面での影響を検証することを目的としている。孤立や孤独と人間の内面的な心理傾向との相関を探ることにより、鬱や自殺の原因となる要因との関連を探る。

第7章では、失業者、生活保護受給者、母子(父子)家庭、ひきこもり、不登校からなる社会的孤立度が高いと考えられるグループとそうでない一般的なグループとの集団所属の対価の比較を行う。それにより、社会的孤立や孤独が前章までで検証した所属グループのどのような属性によって誘発されるのかを検証する。また、2つのグループではその対価の傾向に差があるのかを検証する。また、社会的孤立や社会的排除を抑止するために英国や米国で考えられている低所得者向けの貯蓄優遇政策であるセイビング・ゲイトウェイ、低所得者向けの子供のための貯蓄優遇政策であるチャイルド・トラスト、そして、崩壊する国民年金の代替案として検証されるベーシックインカムについて、それらへの期待度を両群で比較した。調査手法はアンケート調査型の選択型実験法と呼ばれる手法を用いる。アンケートはインターネットによる全国規模でのサンプリングを行い、社会的孤立グループを200人、一般グループを100人集めた。なお、サンプリングに際しては、稼働年齢層で、かつ、低所得者を念頭に、15~65歳の年収400万円以下を対象とした。

3つ目は「非自発的孤立・無縁者救済のための社会保障制度設計」である。近年、英国や米国では貧困などによる社会的孤立の抑止を目的に、長期的視点に立った貯蓄推進政策としてアセットベース福祉(Sherraden, 1991)と呼ばれる新しい社会保障制度や、ベーシックインカムなどの

■ 第1章 インTRODクシヨN

社会保険制度の代替案が検討されているが、本テーマでは、これらの制度が社会的孤立をどの程度改善するのかを検証する。

該当章は第7章の後半と第8章である。第7章の結果を受けて、第8章では、比較対象として、現在労働しているサラリーマンとOLを対象に、低所得者向けの貯蓄優遇政策に対する貯蓄率を調査した。現実に働いている人では、前章の社会的孤立グループよりも価値観が異なると思われるが、彼らは社会的孤立グループに陥るリスクを持っている。社会的孤立グループに陥っていないが、陥った場合を想定して、どのようなセーフティネットが望まれているのかを探るのが本研究の主眼である。調査はアンケート方式で大阪市中央区本町のビジネス街において、近隣で勤務しているサラリーマンとOLへの質問を行った。設問は、前章のセイビング・ゲイトウェイ、チャイルド・トラスト、そして、ベーシックインカムを様々な組み合わせた仮想実験方式によって設定した。

具体的には、これらの制度単体の時の、優遇金利や貯金の取り崩せる時期を様々な設定して、その時の貯蓄率の変化を期待度の表れとして評価した。また、制度単体ではなく、これらの制度が複合的に施行されるポリシー・ミックスを前提として、そこでの、金利や貯蓄を崩せる時期を様々な変えた設問を設定した。また、生活保護時の給与所得を生活保護の減額ではなく貯蓄に回す政策における自治体によって貯蓄に回される貯蓄額の許容率とワークシェアリングにおいて減額が許される給与所得の割合についても尋ねた。

第9章では以上の実験とアンケート結果とそこからの考察をまとめて、非自発的孤立・無縁を抑止するためのセーフティネット設計に関する提言を行った。

第2章 孤立の選好

2.1 イントロダクション

本章では、手紙を折り、封筒に封入し、宛名を貼り付けるというダイレクトメールを作る一連の作業をペアで行うか独りで行うかを経済実験の手法で被験者に尋ねる。そして、この作業を独りで行いたいとする人々の頻度を検証し、そこから孤立に関する選好を探る。

ペアで作業する場合には、ペアの決め方と労働報酬の分け方がそれぞれ決まっている。本研究では、ペアの決め方を自分で相手を決める自発実験と相手がくじで決まるくじ実験の2種類を用意した。また、労働報酬の分け方は、報酬が折半される均等割り実験と、報酬を2人で相談して配分する相談実験の2種類を設定した。そして、このうち自発と相談を組み合わせた実験と、くじと均等割りを組み合わせた実験の2つを実施した。

仮説としては、コミュニケーションがより煩雑になるのは自発で相談の実験のため、コミュニケーション・コスト（話し合いや人と意志疎通するための手間・時間などの費用）が高いことを避けるために、より多くの被験者が自発で相談の実験では、独りで作業を選好すると考えられる。

実験の結果、仮説は肯定され、コミュニケーション・コストの高さが、現実世界での孤立状態や孤独に関わらず、実験室の中での孤立を生み出すことを発見した。これは、孤立が人間の内面的な事象ではなく、社会環境に起因することを示していると考えられる。

2.2 調査デザイン

本章では実験経済学の手法を用いたデザインを行う。実験室に被験者を集めて、その被験者に金銭的インセンティブを付与する。実験では、ペアの組み方と労働報酬のペア間での配分方法が孤立にどのような影響を与えるのかを探るため、次のデザインを考える。

まず、ペアの組み方としては、くじ引きと自発の2実験が考えられる。くじ引きではペアを組みたい被験者がくじ引きによって組み合わせられる。自発では、ペアを組みたい被験者が集まって、自分で相手を選ぶ。ペアを選ぶためにかかるコミュニケーションの費用はくじ引きの方が自発より少ない。よって、コミュニケーション・コストの低いくじの方がペアを選ぶ人数が増えると予測される。

次に、ペアが稼いだ報酬の分け方は、均等配分と相談の2実験が考えられる。均等配分では、ペアで稼いだ額を均等に分けあう。相談では、ペアで稼いだ額をどのように分けあうのかを2人で相談する。相談よりも均等配分のコミュニケーション・コストの方が小さい。よって、コミュニケーション・コストの低い均等配分の時の方がペアを選ぶ人数が増えると予測される。

以上のように、全部で $2 \times 2 = 4$ 実験が実験デザインとして考えられるが、本研究では、コミュニケーション・コストが最も低くなるデザインとして、ペアをくじ引きで決め、報酬を均等配分するセッションと、最も高くなるデザインとして、ペアを自発的に決定し、報酬を相談で配分す

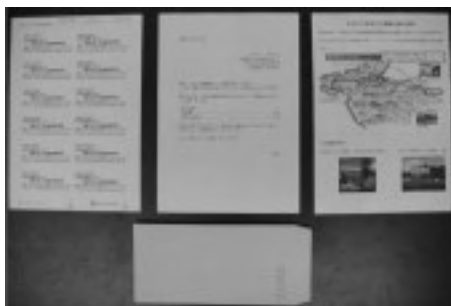
第2章 孤立の選好

るセッションの2つを実施する。両極端のデザインを実施することにより、それ以外のデザインに関しても一定の傾向を推測可能とする。

実験の具体的な進行手順は次の通りである。被験者は大阪大学の学生であり、全員チラシなどの募集によりキャンパスから集められる。各被験者はパーティションで区切られた席に独りずつ座る。各席は2人が協働作業できる十分な広さのある長机で椅子も2人分用意されている。

被験者は手紙を郵送する準備作業を行う。3枚の手紙を三つ折りにして、封筒に封入し、机の横に置かれた箱の中に投函する作業を行う。この作業が10回繰り返される。各回の報酬は合計された実験終了後に支払われる。1回の作業時間は5分である。作業終了後、実験者は手紙が正しく作られているかどうかを確認する。正しく作られ、投函された手紙1通につき100ポイントが被験者には与えられる。1ポイントは0.5円である。

左から、封筒に貼るラベルシート、封入用の用紙2種類、そして封筒



用紙の折り方（三つ折り）の見本



封筒への入れ方



ラベルの貼り方



ポストへの投函方法



実験室全体



各席の正面図（左）とパーティションの内側（右）



各回の開始時に、被験者はこの作業をペアで行うか自分だけで行うかを選択することができる。くじ引きの実験では、ペアを希望した被験者たちがくじ引きによってペアにされる。希望者が奇数の場合には、1人がペアとなれない。自発の実験では、ペアを希望した被験者たちが、実験室の中央に集められ、自分で自発的にペアとなる相手を探す。相手を選ぶときには、「一緒にやりませんか?」とだけ声をかけ、かけられた相手は承諾するならば「はい、お願いします」、断る場合には「すみません」と伝える。これ以外の会話は禁止である。相手を決める時間は1分で、時間内に相手が決まらない場合には、独りで作業をする。

各回の終了時に、独りで作業した被験者は得られた報酬がそのまま自分の報酬となる。ペアで作業した人たちは、均等配分実験では、報酬が等しく分けられる。相談実験では、2人で報酬の分け方を話し合って決める。相談時間は1分で、相談が終わらない場合にはコイン・トスでどちらかの意見を採用する。実験終了後、被験者は孤立や孤独、信頼に関するアンケートに回答する。

実験はくじで均等配分のセッションを1回、自発で相談のセッションを1回実施した。各回とも実験時間は3時間程度で、各回の被験者は重複無しで20人である。

本研究で用いる孤独尺度は UCLA 孤独感尺度を日本語に用いたものである。これは以下の質問36から55で用いられる20項目の質問事項からなり、一部逆転項目を修正し、これらの合計点数が高いほど孤独感は高くなる。本研究および以後の全ての研究においては、この値は標準化して用いる。一方で孤立感尺度は、平均的な1週間での大学内および大学外での様々な活動の合計時間である。この時間が少ないほど孤立度が高いと定義した。孤立に関しては、このほかにも人と話した時間や困ったときに頼れる人の数など、様々な尺度が考えられているが、我々は社会集団での孤立を計測するために、社会集団との関わりに注目して、集団活動での時間の少なさを孤立と定義した。

第2章 孤立の選好

質問

孤独感尺度

次の質問の当てはまる場所の数字に○をつけてください。

- | | | | |
|----------------------------------|----------|----------|------|
| 36. 私は自分の周囲の人たちと調子よくいっている。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 37. 私は、人とのつきあいが無い。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 38. 私には、頼りにできる人が誰もいない。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 39. 私は、ひとりぼっちではない。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 40. 私は、親しい仲間達のなかで書くことのできない存在である。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 41. 私は、自分の周囲の人たちと共通点が多い。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 42. 私は、今、だれとも親しくしていない。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 43. 私の興味や考えは、私の周囲の人たちとちがう。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 44. 私は、外出好きの人間である。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
| 45. 私には親密感の持てる人たちがいる。 | | | |
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

46. 私は、無視されている。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
47. 私の社会的なつながりはうわべだけのものである。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
48. 私をよく知っている人はだれもいない。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
49. 私は、他の人たちから孤立している。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
50. 私は、望むときにはいつでも、人と付き合うことができる。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
51. 私には、私を本当に理解してくれる人たちがいる。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
52. 私は、たいへん引っ込み思案なのでみじめである。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
53. 私には、知人はいるが、私と同じ考えの人はいない。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
54. 私には、話しかけることのできる人たちがいる。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
55. 私には、頼りにできる人たちがいる。	決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4

2.3 調査結果

まず、独りでの作業という意味での孤立を好んだ回数を2つの実験で比較する。くじで均等分けでは、孤立を好む回数は平均で7.8回となり、自発で相談では、9.6回となり、自発で相談の方が孤立を好む傾向が高くなった。t検定の結果、有意水準5%で差が認められた。よって、孤立はコミュニケーション・コストがより高いと考えられる自発で相談実験において、より高くなる傾向が認められた。

次に、この実験間における孤立状態と孤独感を比較する。本研究では、孤立度として、大学内での各種交流時間と大学外での各種交流時間を尋ねた。そして、それらの交流時間を合計して標準化したものが低い程孤立していると定義する孤立度を利用した。また、孤独感についてはUCLA孤独感尺度を用いて、20個の質問の答えを合計して標準化し、それが高い程孤独であるとする孤独感尺度を採用した。

孤立度の標準化後の平均値は、くじで均等割りが0.15、自発で相談が-0.15となり、t検定の結果、有意な差はなく、実験サンプルの結果が社会全体として適用可能とは言えなかった。一方で、孤独感の標準化後の平均値は、くじで均等割りは0.05、自発で相談は-0.06となり、t検定の結果、有意な差はなかった。よって、これらの差は見かけだけの差の可能性が否定できず、さらなる検証が待たれる。

最後に、どちらの実験がその後の手紙の作成作業から多くの報酬を獲得したかを比較する。くじで均等割りの被験者は8,715円を獲得し、自発で相談の被験者は10,363円の報酬を得た。t検定の結果、有意水準0.1%で差が認められた。よって、自発で相談する実験の被験者の方が稼ぎは多かった。これは、独りで作業をするインセンティブの高い作業においては、2人でペアを組むより、独りで作業する方が多く稼げる可能性があることを示している。

2.4 まとめ

本章の結果は協働作業を離脱して独りで作業するという意味での孤立が実際の孤立状態や孤独感に影響されるのではなく、社会的環境に影響されることを示した。人の孤立状態というのは既存の研究では人間の内面的な問題や心理的な問題に起因することが多々あると考えられていたが、本研究の結果は人間の孤立が社会要因や環境によって、人を問わず、導かれることを示している。

実施された実験のサンプル数は少ないが、この結果を踏まえて、次章以降では、人が集団離脱するコストの計測を2種類の実験から検証する。本研究から得られた結果と、改めて再認識させられた煩雑なコミュニケーションが人を孤立へと追いやるという仮説は、孤立は人を問わないことを示しており、それゆえに、誰もが孤立に陥る可能性があることを示している。孤立は特殊な人間の問題ではなく、社会環境によって導かれる社会問題なのであるという認識を本章は改めて提言する。そして、以下の各章の分析を通じて、孤立が社会のどのような要因によって強まり、また、それは人の所属する社会的属性に依存するのかを検証し、そこから、社会全体として孤立を抑止するためのセーフティネットをどのように整備すべきかについて議論を深める。

第3章 孤立の対価：コミュニケーションからの離脱

3.1 インTRODクシヨN

本章では、グループになってお金を分けるコミュニケーションからいくらであれば離脱したいかを被験者に問う経済実験と、同じことを一般の市民に対して問うアンケート型の調査の2種類の調査を行った。

どちらの手法においても、被験者は4人で4,000円を分けるか、そこから離脱して独りでX円を受け取るかを定めることが出来る。X円の額は実験では0~1,000円で、アンケートでは500~1,000円である。

仮説としては、4,000円を4人で均等に分ける1,000円をベンチマークとして、そこにX円が近づくとつれ、独りになる人が増えると考えられる。なぜなら、第2章より、独りになることにコストがかからないのであれば、人は出来る限り煩雑なコミュニケーションを避けて、独りになる傾向が確かめられたからである。

本章の結果、被験者が孤立することに費やしてもよいと考える対価は68円となり、アンケートでは133円となった。実験結果に比べて、アンケートの結果の方が価値は高くなる仮想バイアスと呼ばれる現象が観察された。多くの被験者も回答者もX円が1,000円となるときには独りを選んだ。人が他者とのコミュニケーションから離脱してもよいとする費用は100円程度と少ないが、コストがかからないのであれば離脱をそもそも先行するという傾向は、人が誰しも孤立を好む傾向を示していると考えられる。

3.2 調査デザイン

本章では、金銭的インセンティブに裏付けられた経済実験と金銭的インセンティブの動機が保障されないアンケートの2つの手法を用いて、コミュニケーションからの離脱としての孤立の対価を計測し、それらを比較する。

まず、実験のデザインは次の通りである。被験者は大阪大学の学生で、キャンパス内でチラシを配布することによって集められる。この実験では、各被験者は同じ部屋の他の被験者3人と無作為に組み合わせられ、4人1組のグループとなる。各被験者には以下の2つの選択肢が与えられます。選択肢A：あなたは同じグループの他の3人とで4,000円を話し合いによって分ける。選択肢B：あなたはX円を受け取り、他の3人は3,000円を話し合いによって分ける。

選択肢Aを選んだ場合には、自分のグループの他の3人と顔を合わせて、4,000円をどのような方法で誰にいくら分けるかの話し合いを行う。話し合いの時間は6分間である。6分以内に決まらない場合には4,000円は没収され、誰もお金を得ることができない。

選択肢Bを選んだ場合には、各被験者は他の3人と会うことなく、また、他の3人から特定されることもなく、1人でX円を受け取る(X円の額については後述)。一方で、それ以外の3人は3,000円を分けるための話し合いを行う。話し合いの時間は6分間で、決まらない場合には3,000円

第3章 孤立の対価：コミュニケーションからの離脱

は没収され、他の3人は誰もお金を得ることができない。話し合いの間、選択肢Bを選んだ人は他の人に分からないように待機する。同じグループの人が誰になるかは、実際に会うまで知ることとはできない。

この実験においては、全員で話し合いによってお金を分けるコミュニケーションをとるのを避けるコストを孤立の対価として定義する。そのため、X円が集団でのコミュニケーションを避けて孤立を選ぶ対価となる。実験では、何の労働や作業も無く、単に話し合いでお金を分けるという単純な作業となるため、そのときに働く配分方法は頭数による均等配分が最有力と推測される。そのため、1人頭の報酬額は1,000円となることが期待され、X円が1,000円以下のいくらまでならば、独りになることを受け入れられるかを計測するのが本研究の目的である。

実験中でのお金のやり取りは全てコンピューターを通して行われ、話し合いではどのような方法で誰にいくら額を分けるのかのみを決め、実際に被験者が現金を直に手にして、やり取りすることは無い。実験終了後、最終的に決定した報酬のみが現金で手渡される。

以上を前提として、各被験者は表1を用いて、意思決定を行う。表1の設問1から21には、選択肢Bを選んだときにもらえるX円の額が表されている。例えば、11番の設問においてはXの額は500のため、選択肢Bを選んだ被験者がもらえる額は500円となる。全ての被験者は設問1から21番までの全てにおいて、選択肢AとBのどちらを選ぶかを決める。制限時間は3分である。

全員が入力を終わると、コンピューターは次の作業を自動的に行います。まず、無作為に同室の4人の被験者を組み合わせる。次に、コンピューターは、そのうちから1人の被験者と、1～21番の設問のうちどれか1つを無作為に選びます。そして、選ばれた設問番号における、選ばれた被験者の選択肢に従って次の過程に移る。もし、無作為に選ばれた被験者がその設問で選択肢Aを選んでいたら、4人で4,000円を分ける過程に移る。一方で、その被験者が選択肢Bを選んでいたら、その被験者はX円をもらい、その他の3人の被験者で3,000円を分ける過程に移る。このとき、この被験者は選択肢Bを選んでいるため、他の3人には会うことはない。さらに、他の3人から特定されることもない。

表1

設問番号	Xの額	A	B
		あなたは同じグループの他の3人とで4000円を話し合いによって分ける	あなたはX円を受け取り、他の3人は3000円を話し合いによって分ける
1	0		
2	50		
3	100		
4	150		
5	200		
6	250		
7	300		
8	350		
9	400		
10	450		
11	500		
12	550		
13	600		
14	650		
15	700		
16	750		
17	800		
18	850		
19	900		
20	950		
21	1000		

例えば、あるグループにおいて、コンピューターによって設問番号11番が選ばれたとする。そして、このグループの中で無作為に選ばれた被験者が選択肢Aを選んでいた場合には、このグループは4人で4,000円を分ける話し合いを行う。一方で、この被験者が選択肢Bを選んでいた場合には、この被験者は他の3人とは会わずに、また、他の3人から特定されないように500円を受け取る。そして、その他の3人が3,000円を分けるための話し合いを行う。

実験終了後、被験者は孤立や孤独、信頼に関するアンケートに回答する。孤独はUCLA 孤独感尺度を用いた。平均的な1週間での大学内および大学外での様々な活動の合計時間である。この時間が少ないほど孤立度が高いと定義した。

実験は被験者グループを変えて、同一内容を5回実施した。各回とも実験時間は3時間程度で、各回の被験者は重複無しで40人で、全ての回を通して合計200人である。

アンケートのデザインは次の通りである。まず、実験の結果、500円以下での離脱があまり観察されなかったことを反映して、アンケートでは500円以上について聞くように質問紙を修正した。この理由は、後述する実験結果において、500円以下において選択肢Aの独りを選ぶ人が少なかったからである。アンケートの報酬は2,000円で一律であり、学生の被験者と比較する目的で、大阪大学付近の市民を新聞広告により大学内に集めて実施した。新聞広告は朝日、読売、毎日の主要3社に依頼した。アンケートへの参加者数は200人である。

3. 3 調査結果

(1) 実験の結果

図3-1は孤立度の平均値を基準に、平均より高いグループと低いグループに分けて、Xの額ごとに集団からの離脱である孤立を選んだ人数を集計したグラフである。また、図3-2はUCLA 孤独感尺度を基準に、同じように平均より高いグループと低いグループに分けて、孤立を選んだ人数を集計したグラフである。

図3-1 実験における孤立度別の孤立のために必要な額

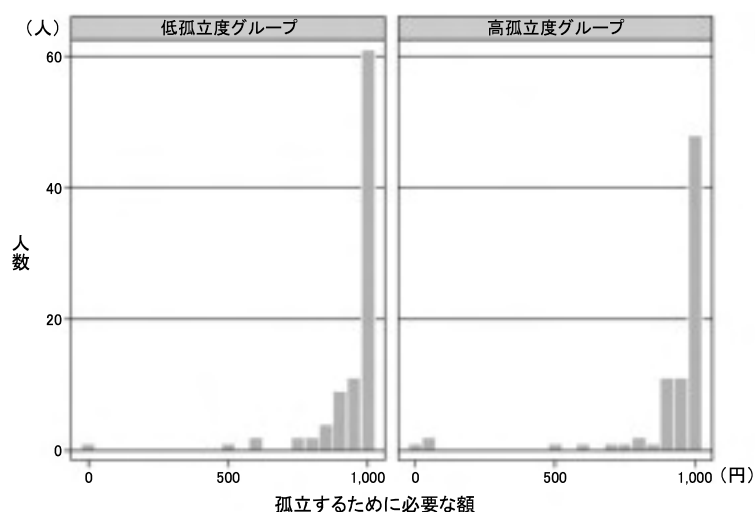
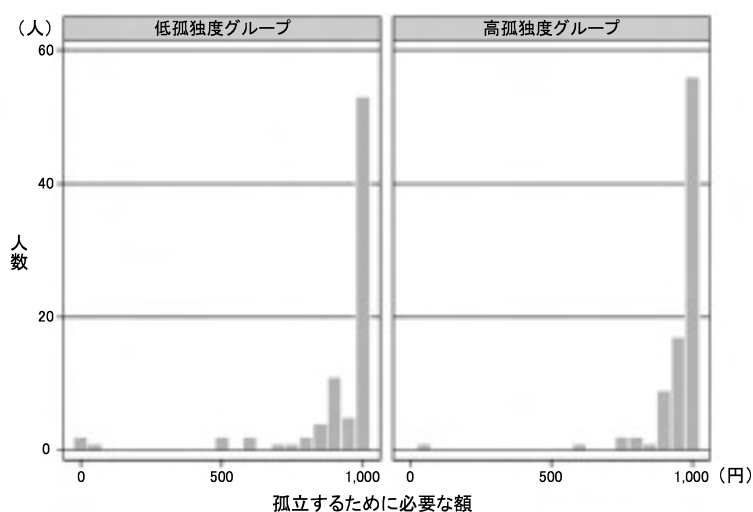


図3-2 実験における孤独度別の孤立のために必要な額



孤立度が高いグループのXの平均値は943円、低いグループは918円となった。その離脱にかけてもよいとする費用(=孤立の対価)をグループでの均等配分の額である1,000円から独りになる時に得られる報酬であるX円を差し引いた額と定義すると、孤立度が高い方が孤立の対価が低くなった。孤立している人ほど、孤立の対価が低く、集団でいたい欲求が強い傾向が観察された。また、孤独度の高いグループのXの平均値は953円、低いグループは908円となり、孤立の対価は孤独度の高いグループの方が低くなった。孤独感が強い人ほど集団でいたいと考える傾向が観察された。しかし、孤立と孤独の両者について、各グループに有意水準5%で差は認められなかった。

孤立と孤独の両面において実験では大きな違いは見られなかった。どちらのカテゴリーにおいても500円を超えると、孤立の方を好む人たちが現れる。そして、その人数は900円台で増加し、Xの額がグループになって均等分けにしたときの配分額である1,000円と同じ値になると、急激に増す。つまり、同じ額が手に入るならば、グループで相談するよりも独りの方を好む傾向が強いことが観察された。これは金背的負担がゼロに近いならば、グループでの話し合いを避けようとするインセンティブが被験者に働いていることを表している。そして、これは、孤立の選好として、前章の手紙を作成する際にペアとなるかどうかを自由に費用負担なしで選べた状況の観察結果と一致する。被験者は費用負担なしで独りになることができるのであれば、独りになることを好むことが本研究から分かった。

(2) アンケートの結果

図3-3は孤立度の平均より高いグループと低いグループのXの額ごとに孤立を選んだ人数を集計したグラフである。また、図3-4はUCLA孤独感尺度を基準に、同じように平均より高いグループと低いグループに分けて、孤立を選んだ人数を集計したグラフである。

孤立度が高いグループのXの平均値は865円、低いグループは870円となった。1,000円からX円を差し引いた差額としても止まる孤立の対価は、孤立度が高い方が高くなった。これは実験の結果と逆である。しかし、両者にt検定で有意な差は認められなかった。また、孤独度の高いグループのXの平均値は856円、低いグループは881円となり、孤立の対価は孤独度の高いグループの方が高くなった。これも実験の結果と逆である。しかし、両者にt検定で有意な差は認められなかつ

た。アンケートでは、孤立度と孤独度が高い回答者ほど高い孤立の対価を払う傾向が示されたことは実験結果と異なり興味深い結果となった。両者ともt検定の差がないため、この調査のサンプルを超えて社会全体に適応できるかに関しては保留とする。

しかし、孤立と孤独の両面において実験と同様にグループによる大きな差は見られなかった。また、実験と共通して、孤立を好む人数は900円台で増加し、1,000円で最大となる。つまり、実験と同様に、同じ額が手に入るならば、グループで相談するよりも独りの方を好む傾向が観察された。これは実験と同様に、金背的負担がゼロに近いならば、グループでの話し合いを避けようとするインセンティブが被験者に働いていることを表している。前章の実験と本章の実験が被験者を大学生としており、一般市民への拡張が危惧されたが、本アンケートの結果との比較から、両者には同じような傾向として、費用負担なしで独りになることができるのであれば、独りになることを好む定性的な傾向が認められる。

図3-3 アンケートにおける孤立度別の孤立のために必要な額

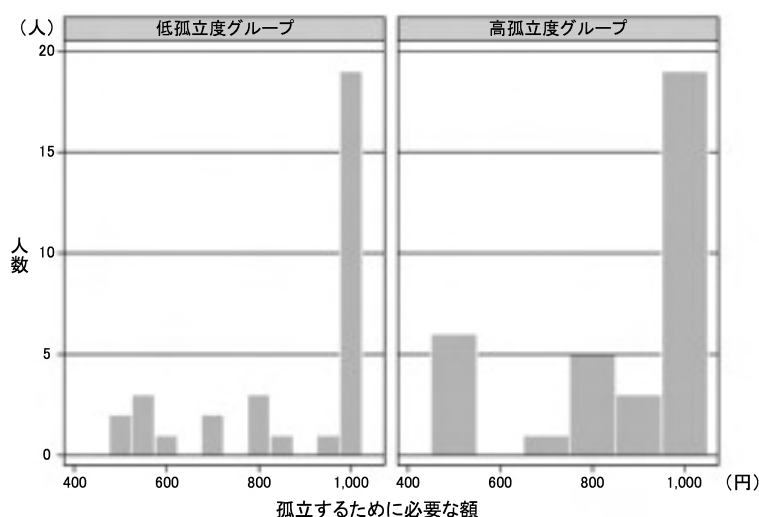
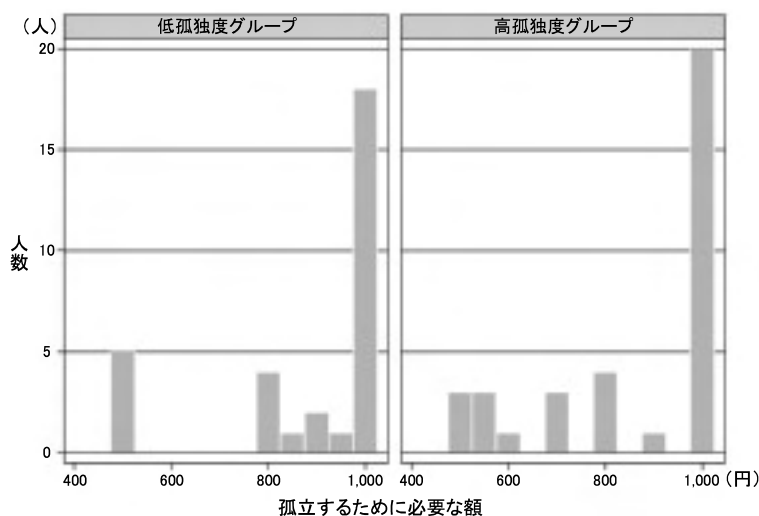


図3-4 アンケートにおける孤独度別の孤立のために必要な額



(3) 実験とアンケートの比較

実験もアンケートも定性的な孤立傾向は同じであるが、グラフに表示されたXの額の集計人数のばらつきには違いがあり、それが孤立の対価の違いとして表れている。ここでは、上記の実験とアンケートの孤立の対価を比較する。

実験の全被験者のXの平均値は932円、アンケートの全被験者のXの平均値は867円である。孤立の対価は1,000円からこの値を引いた額なので、実験が68円、アンケートが133円となり、アンケートが2倍近い値となった。この差はt検定の結果、1%水準で有意である。よって、両者の孤立の対価は異なると考えられる。

この結果は実験とアンケートでは孤立の対価に関する仮想バイアスが存在することを統計的に証明した。金銭的インセンティブのある実験の方が仮想的なアンケートよりもより現実味の高い値を示していると考えられる。しかし、被験者が実験では学生であるのに対して、アンケートでは回答者が一般市民である。この被験者の違いが金銭感覚や孤立や孤独感の違いとなって現れた可能性がある。

そこで、実験とアンケートの孤立度と孤独感を比較すると次のようになる。実験における学生被験者の孤独感の平均値は（正規化後の値で）0.02、アンケートにおける一般市民の孤独感の平均値は（正規化後の値で）-0.013である。t検定の結果、統計的に有意な差は認められなかった。よって、両者の孤独感には差がないことになる。一方で、孤立感については、実験の学生被験者が正規化後の平均値で3.53e-09、アンケートにおける一般市民の正規化後の平均値で-1.49e-09と、両者ともほぼ0に近い値である。当然、t検定の結果、統計的に有意な差は認められなかった。よって、両者の孤立感にも差がないことになる。以上から、両被験者グループに孤立度と孤独度での差がないにもかかわらず、仮想バイアスが認められたことは、孤立や孤独に起因しない他の理由があると考えられる。仮想バイアスはこの調査サンプルからは認められたが、その背後の社会全体に適應できるかはさらなる調査を必要とする。

3.4 まとめ

本章ではコミュニケーションからの逸脱という意味での孤立の対価を被験者に金銭的インセンティブを付与する実験とそれを付与しないアンケートから計測し、比較した。孤立の対価は、グループでの話し合いの結果、採用される可能性が高い均等配分の報酬額である1,000円を基準とした時、実験では100円以下、アンケートでは100円以上と差が出た。これらは統計的に有意な差が認められた。孤立度と孤独度に実験の学生被験者とアンケートの一般市民の回答者との差が認められなかったことから、孤立と孤独が同じ状態でも、調査手法の違いによって、孤立の対価に違いが出る仮想バイアスが確認された。

仮想バイアスは環境問題など抽象的で既存のマーケットに内含されない外部性やリスクを計測する際にアンケートと実験の違いとして脚光を浴びており、その差が政策決定者を度々悩ませるに至っている。本研究でも仮想バイアスが計測されたことを考慮すると、孤立と孤独の調査に至っては、金銭的インセンティブを付加した状態で、被験者がどの程度、孤立の対価を支払ってよいと考えるのかを計測することがより現実味の高い政策提言をする上で有効になってくると考える。

しかし、実験とアンケートが必ず異なるというわけではなく、本章で実施された両者には定性

的に同じ傾向が認められた。それは、孤立の対価が0円に近くなる状態、つまりは、費用なしで独りになることができるのであれば、実験の被験者もアンケートの回答者もどちらも独りになることを好むということである。この傾向は前章の手紙を作成する実験においても認められており、費用がかからないならば、知らない相手と報酬の分け方を相談するという複雑な人間関係を拒むインセンティブがあることを示している。この結果は、費用がかからないのであれば、人は複雑な人間関係を避け、孤立を好むことを示している。

第4章 孤立の対価：協働作業からの離脱

4.1 イントロダクション

本章では、第2章の実験デザインで考えられた、ペアでの作業を行う際の4つの実験＝ペアの決め方（自発とくじ）×報酬の分け方（相談と均等割り）の全てを具体的に実験に導入して、比較する。その際に、第2章と異なり、労働環境を手紙から金融市場での意思決定に変える。

手紙を折る作業では、ペアになって協働して作業をする際に、自分と相手での分担作業が可能であった。しかし、現実の経済においては、分業が明確に成り立つことは少なく、相手と自分との協働作業から1つの成果しか得られない事が多い。そのような状況の一例として、金融市場での意思決定がある。実験では被験者はペアとなって、ケインズの美人投票ゲームと呼ばれる金融市場を模した経済的な意思決定を2人で行う。これが嫌な人は、その前の入札ステージにおいて、独りでこの意思決定を行うために払ってもよいと思う額を入札して、落札者となれば2人で作業できる。よって、独りになる対価はそのまま入札額として表れることになる。

仮説としては、くじと自発では相談の方がコミュニケーション・コストは高いので、自発の入札額の方が高くなるだろう。また、相談と均等割りでは相談の方がコミュニケーション・コストは高くなるので入札額は高くなると考えられる。

実験の結果は仮説を概ね支持した。くじと自発では、自発の入札額の方が高くなった。しかし、最もコミュニケーション・コストが高いと予測された自発で相談よりも、くじで相談の方が入札額が高くなる逆転現象がみられた。これは、くじで望まぬ相手と組まされ、その相手と報酬を分ける相談をするということの方が、自ら望んだ相手と自発的に組んで、報酬をその人と相談して分けることよりも、コミュニケーション・コストが高いことを示していると考えられる。

4.2 調査デザイン

本章では入札を用いた経済実験によって、協働作業から離脱するという意味での孤立の価値を探る。被験者はペアで後述するケインズの美人投票ゲームと呼ばれる金融市場を抽象化した経済的な意思決定に参加するが、それを避けるために独りで作業する権利の入札に参加する。入札方法は複数財に対するセカンドプライスオークションを用いる。

まず、ペアの組み方としては、前述した第3章のコミュニケーションからの離脱として評価される孤立の対価のための実験で設定した2つのペアの決定方法（自発とくじ）×2つの報酬の分け方（相談と均等配分）の4つの実験を設定した。以下は繰り返しとなるが、改めて各実験について記述すると以下の通りとなる。

くじ引きではペアを組みたい被験者がくじ引きによって組み合わせられる。自発では、ペアを組みたい被験者が集まって、自分で相手を選ぶ。ペアを選ぶためにかかるコミュニケーションの費用はくじ引きの方が自発より少ない。よって、コミュニケーション・コストの高い自発実験の方が独りになるための支払価格を示す入札額は高くなる予測される。

次に、ペアが稼いだ報酬の分け方は、均等配分と相談の2実験が考えられる。均等配分では、ペアで稼いだ額を均等に分けあう。相談では、ペアで稼いだ額をどのように分けあうのかを2人で相談する。相談よりも均等配分のコミュニケーション・コストの方が小さい。よって、コミュニケーション・コストの高い相談実験の方が独りになるための支払価格を示す入札額は高くなると予測される。

第3章の実験では、コミュニケーション・コストに着目して2つの実験に特化した。有意な差は得られなかった。そのため、本研究では 2×2 の全ての実験を実施し、各環境下での孤立の対価を計測し、それらを比較する。

実験の進行手順は次の通りである。被験者は大阪大学の学生でキャンパスでチラシを配布することにより集められる。実験システムはzTreeと呼ばれるコンピューターソフトウェアによって構築される。各実験の被験者は25人ずつである。

実験は2つのパートから成ることを告げ、両方のパートの実験内容について全員にインストラクションで告知する。

インストラクション朗読中



まず、パート1では、全員が1つの実験室に集められ、全員が独りで作業する権利の入札に参加する。全員に500円が渡され、それを使って独りで作業する権利の入札を行う。入札は複数財のセカンドプライスオークション方式を採用する。落札価格は入札額の高い順に6番目の入札額とする。そして、この落札価格より高い入札額を提示している5人が落札者となる。落札者の候補が5人を超えた場合には、落札価格以上の入札額の中で最低の入札額を提出している人たちがランダムに振るい落とされて、5人に絞られる。落札者は落札価格を支払う必要があるが、非落札者はお金を払う必要はない。落札者は非落札者と会うことも無く、特定されることも無い。落札者はそのまま部屋に残るが、非落札者は別室に移動して、パート2の実験を協働で実施するためにペアを組む。

パート1が終わると、パート2に移行する。パート2では、落札者は独りで、非落札者はペアで、金融市場を抽象化したゲームとして経済学において古典的でありよく知られているケインズの美人投票ゲームと呼ばれる経済的意思決定に参加する。ペアとなる方法は前述したくじ引きと自発の2実験である。

このゲームでは、落札者1人と2組のペアが1つのグループとなり、美人投票ゲームと呼ばれる経済的な意思決定に参加する。各人もしくは各ペアは0から100の数字の中から好きな数を選ぶ。落札者は独りで1つの数字を選ぶが、ペアは2人で1つの数字しか選べない。よって、各グループにつき3つの数字が選ばれる。コンピューターが選ばれた数字の平均に $2/3$ をかけた数

第4章 孤立の対価：協働作業からの離脱

字を算出する。この数字に最も近い数字を提出した人もしくはペアが勝者となり、賞金として600円を得ることが出来る。もし、最も近い数字が複数の場合には、その数で賞金は等分される。つまり、同じ数字が2つの場合には、300円ずつ、3つの場合には200円ずつが配分されます。

このような経済的意思決定がグループ内の構成単位である1人とペア2組はそのまま、その組合せだけがランダムに変えられながら、5回繰り返される。各回の意思決定時間は2分である。独りで数字を選ぶ落札者は5回の賞金の合計額がそのまま自分の報酬として手元に入るが、ペアで意思決定する組には各回の賞金の2倍の額が一時的に与えられ、累積される。ただし、ペア内の各自の最終的な報酬は実験によって次のように変わる。まず、均等配分実験では均等に分けられる。次に、相談実験では2人の相談によって決められる。相談時間は5分で、決まらない場合にはどちらかの意見がランダムに採用される。

独りを選んだ人の実験風景



自発的にグループを形成する場合



グループになった人たちの実験室風景

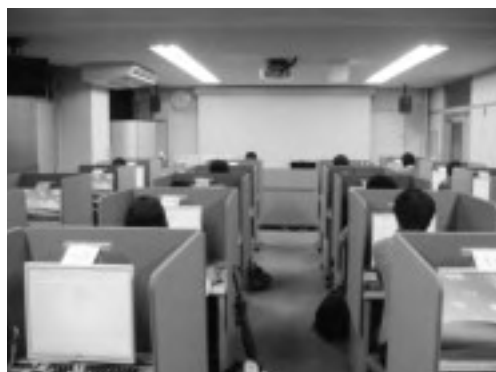


実験終了後、孤立や孤独に関するアンケートに回答する。孤独はUCLA孤独感尺度を用いた。孤立に関しては、大学生以外も対象とするため、質問を前章までと変えて、先週の1週間で親族・友人・知人・近隣の人との交流はどの程度あったかを、それぞれの人について、「毎日あった」、「1～2日ほど無かった」、「3日以上無かった」、「ほとんど無かった」の4段階評価で尋ねた。合計点数が高いほど孤立度が高くなる。全てのセッションが平均1時間半で、報酬の平均額は2,200円程度となった。

独りを選んだ人たちのアンケート時の風景



グループになった人たちのアンケート時の風景

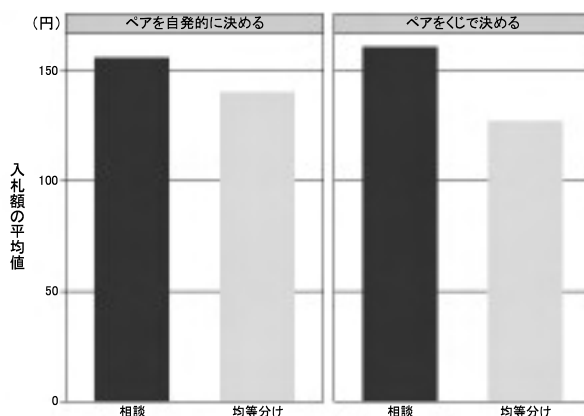


4. 3 調査結果

(1) 孤立の対価

図4-1は各実験の入札額の平均値を示している。自発で相談は156円、自発で均等分けは140円、くじで相談は161円、くじで均等分けは127円となった。ペアを自発で決める場合とくじで決める場合のそれぞれにおいて、報酬を相談で決める時の入札額の方が均等に分ける時よりも高い値を示した。しかし、どちらについてもt検定の結果5%水準で有意とならなかったため、統計的なサポートは得られず、このサンプルを代表とする母集団の結果がこのサンプルの結果と言えるに至りはしなかったが、観察結果は、ペアの決め方が同じ時には、報酬を相談で分ける方が、独りの対価を増加させることを示した。これは報酬を相談するという煩雑さが独りで作業したいという欲求を上昇させるからと考えられる。相談で報酬を決めるのに比べて、均等に分けるのは学生の被験者にとっては費用負担が少ないことが分かる。報酬というお金に関わるやり取りはそれだけ協働作業の負担を増やすことになる。

図4-1 実験ごとの入札額の平均



次に、報酬の分け方が均等分けと相談の場合における、ペアの組み方ではどちらが孤立の対価を上げることになったかを検証する。均等分けのときには、くじと自発では自発の方が入札額が高い。これは自分でペアを組むのが負担となっているため、その分だけ孤立の対価が増加したと

第4章 孤立の対価：協働作業からの離脱

考えられる。一方で、相談で分ける場合については、自発よりくじの方が入札が高くなった。これはコミュニケーション・コストが高い程、入札額が高くなるという我々の仮説に一見反しているように見える。しかし、これは実際には仮説に即した結果である。なぜなら、くじという無作為の方法で誰とも分からない人とペアにされて、その人と報酬を相談で分けるのに比べたら、自ら自発的に選んだ相手と報酬を相談で分けることの方が費用負担が少ないと考えられるからである。よって、実験結果から観察されたことは、孤立の対価を最も高めるのが、くじで相手が決まり、その相手と報酬の分け方を相談しなければならないという状況である。被験者は自ら望まずにペアを組まされた相手と報酬を相談して分けなければならない事に対する心理的負担が最も高かったことが分かる。

(2) 協働作業のパフォーマンス

ここでは落札後、独りもしくはペアに分かれて美人投票ゲームを行ったときの結果について、独りの被験者とペアの被験者の獲得賞金額を比較する。平均すると、独りの被験者の獲得額は985円で、ペアの獲得額は1,008円である。若干、ペアの獲得額が独りの獲得額を上回ったが、t検定の結果、有意な差はなかった。Kocher たちの研究 (Kocher et al., 2006) では独りよりペアの方が獲得額が高くなる結果があったが、本研究ではこの結果を統計的に支持しなかった。

実験ごとに、見たものが図4-2である。ペアの方が高い賞金を獲得したのが、自発で相談実験とくじで均等分け実験である。仮説の段階で、コミュニケーション・コストが最も高いとされた自発で相談実験と最も低いとされたくじで均等分けが同じ傾向を示したのは興味深い。各実験については独りの被験者が5人と少ないため、統計的検定は試みない。代わりに、自発くじ、相談、均等、の4つの実験ごとに分けてのそれぞれのt検定の結果を見ると、どれについても有意な差は得られなかった。このサンプルの結果をもってしても、社会全体でも差があると認めることはできないことになった。

この美人投票ゲームには、ゲーム理論で定義されるナッシュ均衡という均衡が存在し、理論的にはそこからどの被験者も逸脱するインセンティブがない。特に、本研究ではゲームをプレイする被験者の組み合わせが毎回変わるため、暗黙の協調戦略が取りづらい。このように協調戦略を測れない環境下における、1回限りの美人投票ゲームにおけるナッシュ均衡は0である。なぜなら、平均の $2/3$ に最も近づけるためには、できるだけ低い数字を他者より出すインセンティブがあるからである。

図4-2 美人投票ゲームの結果

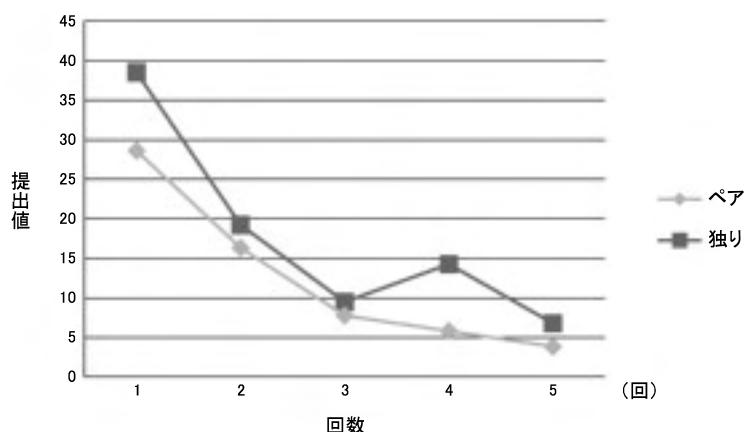


図4-2は、美人投票ゲームにおいて独りの被験者が出した数字とペアが出した数字の全実験を集約した場合の平均値の推移である。ナッシュ均衡に近い程、理論的には経済合理的に物事を考えられていることになる。独りに比べて、ペアの方が提出された数値の平均値は小さい。全実験を集計して平均した場合には、ペアの方が独りより経済合理的にゲームを勧めたことが分かる。しかし、各回の独りの被験者とペアの被験者の数値をt検定した結果は全ての回において有意な差を得られなかった。この実験サンプルからだけでは、社会全体の兆候として、独りが全体に劣るとまでは言えなかった。

経済学的には、孤立する人たちの経済パフォーマンスが協働する人たちより下がることは、孤立による経済損失を表すことになるが、本研究の報酬結果はそのような結果を導かなかった。しかし、経済合理性の観点から考えると、独りよりペアの方が合理的に意思決定できていることが分かった。

4. 4 まとめ

本章では、集団作業から離脱するという意味での孤立の対価を計測した。実験結果は協働する相手を探す手間が複雑になるほど、また、作業の報酬を分けあう手間が複雑になるほど孤立の対価が増加することを示した。具体的には、ペアとなる相手がくじで決まる場合にも、自発的に探す場合にも、報酬を自分で決める方が均等に分ける方よりも孤立の対価を上げることが分かった。また、報酬を均等に分ける場合においては、くじで相手が決まる場合よりも自発的に相手を探す場合の方が孤立の対価が高くなることが分かった。しかし、興味深いことに、報酬を相談する場合においては、当初の仮説と異なり、自発的に相手を決める場合よりもくじで相手を決める場合の方が孤立の対価が高くなった。これはくじという無作為な方法で、望まぬ相手とペアにされ、その相手と報酬を相談するというのが、自分が望む相手とペアになって報酬を相談できることに比べてよりコミュニケーション・コストが高いことを示している。

さらに、本章で実施された実験の協働作業においては、報酬の額そのものには独りでの意思決定とペアでの意思決定に差は観察された結果からも統計的結果からも一定の傾向は読み取れなかった。一方で、意思決定の経済合理性はペアの方が高い結果が観察されたが、これは統計的にサポートされなかった。

以上の結果は、協働作業におけるペアと独りの作業の経済パフォーマンスの差は明らかにしなかったが、コミュニケーション・コストが最も高くなる環境として、望まぬ相手と組みになり報酬をお互いの交渉で分けあうことという新しい発見を伴った。また、コミュニケーション・コストの高さが独りになる対価を上げる結果を導き、この値は前章の単純にお金を分ける場合のコストよりも高いことが示された。他者とのやり取りが複雑であればあるほど、人の孤立の対価は上昇することが本章で実施された実験から示された。これは複雑な人間関係が孤立を助長することを示している。

第5章 孤立・孤独と信頼・互惠の相関

5. 1 イントロダクション

本章では孤立・孤独と信頼・互惠の相関について検証した。信頼や互惠は社会資本の基礎であり、人間がホモエコノミクスとしてではなく、ホモサピエンスとしてコミュニティを形成していく上での不可欠な資本である。一方で、孤立と孤独はこの資本に逆行する概念である。そこで、これらの変数がどのような相関を持っているのかを探ることにより、孤立や孤独が社会形成を阻害する要因となっているのかどうかを検証する。

信頼と互惠はゲーム理論に基づく経済実験とアンケートによって検証した。被験者は自分が持っている1,000円のうち、好きなだけを相手に投資する。その額は3倍となって相手にわたり、相手はそのうちの好きな額を元の被験者に送る。この投資する額と、還元する額を信頼と互惠の度合いとする。

実験とアンケートの結果、孤立度や孤独度の高い人は相手への信頼や互惠は高いが、相手から得られると期待する互惠は小さいという結論が得られた。これは、孤立や孤独が、自分を他者に対してより献身的にするが、他者からの見返りには期待できないという悲観を持つ、自虐的な信頼関係に成り立っていると言える。孤立と孤独に起因する自虐的な信頼関係が長期的には信頼関係の崩壊と破棄の主要因となり、その信頼関係の崩壊が孤立と孤独をさらに募らせるという負の連鎖を導く可能性が示された。

5. 2 調査デザイン

本章では、経済実験の手法を用いて、被験者の信頼と互惠について計測する。そして、それらの変数が孤立・孤独とどのように関係しているのかを探る。実験はトラストゲームと呼ばれるゲーム理論に基づいた調査手法をもちいる。このゲームは経済学および社会心理学において非常によく多用され、膨大な結果の蓄積がある。実験の進行手順は以下の通りである。

実験は大阪大学の学生をキャンパス内においてチラシを配布することにより集められる。被験者は1つの実験室に集められる。その後、くじ引きによって、2つの部屋に半分ずつ分けられる。一方の部屋が信託者となり、もう一方の部屋が受託者となる。信託者には1,000円が実験者から渡される。信託者はそのうちの任意の額を受託者に預けることができる。受託者は預けられた金額の3倍を市場での運用から自動的に得ることができる。受託者は得た3倍の資金のうちの任意の額を信託者に還元することができるが、これは強制ではなく、受託者の意思決定に委ねられる。例えば、信託者が500円を預けた時、自動的に受託者には1,500円が手元に入る。受託者はこの額のうち任意の額を信託者に還元できるが、それは0円であっても構わない。

このような条件下においては、ゲーム理論においては、信託者の投資額は0円となる。受託者には返済義務がなく、受託者がお金のみを効用として得る個人合理的な人間ならば、受託者は返済しないからである。信託者がこのような受託者の意思決定を所与とした時、信託者は受託者が

還元を行わないため、信託するインセンティブはなくなる。よって、ゲーム理論的には信託額と還元額は共に0円となる。

しかし、過去の実験では、投資額は初期保有額の6割程度となり、還元額は3割程度となるという結果があり、理論的帰結が成り立たない事が分かっている。そして、この理論値である0からの乖離をもって、信託額を相手を信頼する度合いである信頼度、そして、還元額を相手の信頼に対する報いや礼としての互恵度と定義する。

被験者数の合計は信託者100人、受託者100人である。実験時間は1時間程度である。

また、同様の実験環境を想定したアンケート調査も行った。回答者は第3章の回答者と同一である。アンケートでは、上述した実験環境を想定してもらい、全員に信託者として1,000円のうちいくらの額を投資したいかを回答してもらった。これとあわせて、受託者がいくらの額を還元してくるかの予想も回答してもらった。

5. 3 調査結果

(1) 実験の結果

ここでは実験の結果について検証する。本研究では信頼度を1,000円の内いくらかを投資したかという割合で評価する。また、互恵度も相手からもらった額の3倍のうちいくらかを還元したかという割合で評価する。

信頼度は、孤立度の高いグループと低いグループでそれぞれ0.52と0.46となり、低いグループの方が信頼度が低くなった。しかし、t検定で有意な差はなかった。また、孤独度の高いグループと低いグループでそれぞれ0.55と0.43となり、低いグループの方が信頼度が低くなった。しかし、t検定で有意な差はなかった。孤立と孤独の両面において、高いグループが高い信頼度を表した。通常であれば、孤立度が高い人、または、孤独感が高い人は他者を信頼してお金を預けるとは考えられない。しかし、実験の結果は、孤立している人の方が、そして、孤独感が強い人の方が、逆に人を信頼しようとする傾向があることを示している。しかし、実験サンプルが社会全体の傾向として、それを示しているかを統計的に確かめると、その傾向は認められなかった。

一方で、互恵度は、孤立度の高いグループと低いグループでそれぞれ0.41と0.31となり、孤立度の低いグループが低い互恵度を示した。しかし、t検定で有意な差はなかった。また、孤独感の高いグループと低いグループでは、両方において0.35となり、両者とも同じ結果となり、t検定で有意な差はなかった。互恵度においても、信頼度と同じように孤立度が高い人が相手への還元額を多くしている。孤立度の高い人は低い人より、より相手への互恵を強める傾向が分かった。しかし、実験サンプルが社会全体の傾向として、それを示しているかを統計的に確かめると、その傾向は認められなかった。

以上の信頼度と互恵度を比較した場合、信頼度の方が高い傾向にある。信頼は相手がいくら返すか分からないという不確実性に直面した意思決定なのに対して、互恵は相手を送ってきてくれた額を見てから、相手に送り返す額を決められる不確実性が全くない状態である。上記の結果は、孤立と孤独の高低に関わらず互恵よりも信頼が強く発揮されることを示している。これは、人は孤立と孤独の度合いによらず、不確実性を乗り越えて、人として協調しようとする傾向があることを含意している。

(2) アンケートの結果

ここではアンケートの結果を分析する。信頼度に関しては、孤立度の高いグループと低いグループでそれぞれ0.77、0.70となり、低いグループが低い信頼度を示すという実験と同じ結果となった。また、孤独度の高いグループと低いグループでは、それぞれ0.76、0.71となり、こちらでも低いグループが低い信頼度を示すという実験と同じ結果となった。しかし、いずれのカテゴリでもt検定における有意な差は認められなかった。実験結果と併せて考えると、孤立度や孤独度が高い人ほど相手をより信頼しようとすると考えられる。しかし、実験サンプルが社会全体の傾向として、それを示しているかを統計的に確かめると、その傾向は認められなかった。

一方で、アンケートのみで計測した相手の互恵度に対する予測については次のようになった。まず、孤立の高いグループと低いグループではそれぞれ0.55と0.59となり、低いグループの方が相手に高い互恵を期待することが分かった。また、孤独の高いグループと低いグループでは、それぞれ0.50と0.63となり、低いグループの方が高い互恵を求めることが分かった。しかし、どちらのカテゴリにおいてもt検定で有意な差は得られなかったことは、社会全体として必ずしもこの結果が支持されないことを意味している。

実際の互恵と違い、こちらは互恵に対する期待値である。孤立や孤独が高い人ほど相手への信頼度は高い傾向にあるのだが、その相手に対する期待が小さいという興味深い結論を得られた。孤立や孤独の増加は相手への期待を下げることにつながるのかもしれない。

(3) 実験とアンケートの比較

ここでは実験の結果とアンケートの信頼度を比較する。実験の全ての結果を集計すると信頼度の平均は0.49、アンケートの全ての結果を集計すると信頼度の平均は0.73となる。アンケートの方が実験に比べて高い信頼度を示した。t検定の結果、0.1%水準で有意な差が認められた。つまり、この調査のサンプルのみではなく、社会全体として見たときに、アンケートの回答者の方が高い信頼度を表すことが分かった。これは、第3章で示された仮想バイアスが本研究でも立証されたことを示すだけでなく、調査サンプルのみならず、社会全体としても、この傾向が支持されることを意味する。

実験の被験者と回答者には第3章で示したように孤立感と孤独感の両方に置いて有意な差はない。よって、この金額の差は、実際に金銭的インセンティブが付加されないアンケートでは、実際に払った分だけお金が減る実験より過剰な投資額となることと合致している。この意味で、信頼度については仮想バイアスが認められると言える。

信頼や互恵に関しては、社会心理学や心理学などにおいて多種多様な信頼計測手法が開発されているが、仮想バイアスを前提とした場合、他者への信頼度が過剰評価されてしまう点には留意する必要がある。特に、孤立や孤独との関連から相手への信頼度や互恵度がどの程度変化するかを考える上では、実験による手法の方が過剰評価を防ぐことにつながり、政策的含意を考慮する上で有効であると考えられる。

5.4 まとめ

本章ではゲーム理論に基づく信頼計測ゲームを用いて、孤立と孤独の高低が人間の信頼と互恵に与える影響について検証した。実験とアンケートの結果、孤立や孤独の高いグループが高い信

頼度と互恵度を表すという逆説的な結果を得た。孤立であるほど、孤独であるほど人への信頼や相手への互恵を高めるという結果は統計的にはサポートされなかったが非常に興味深い。これは相手への依存度を高める傾向を示している可能性もある。さらに、アンケートでは相手に期待する互恵の度合いを尋ねたが、その結果は、孤立度や孤独度が高い人の方が、相手への互恵への期待が高いことが分かった。

これらの結果を合わせると、孤立度や孤独度の高い人は相手への信頼や互恵は高いが、相手から得られると期待する互恵は小さいという結論が得られた。これは、孤立や孤独が、自分を他者に対してより献身的にするが、他者からの見返りには期待できないという悲観を与えることを含意していると考えられる。この結果は自虐的である。他者への見返りが期待できないにも関わらず、自分から献身的に行動するという相反する行為は合理的ではなく、それゆえに自虐的である。孤立や孤独が他者との信頼関係構築に置いて、このような自虐的な関係を前提とした場合、それは長期的な視野で人に過度のストレスを付加することにもなりかねない。

今後の課題は、孤立と孤独に起因する自虐的な信頼関係が長期的には信頼関係の崩壊と破棄の主要因となり、その信頼関係の崩壊が孤立と孤独をさらに募らせるという負の連鎖を導くことを検証することである。

第6章 孤立・孤独と生活習慣および社会心理との相関

6.1 イントロダクション

本章では、孤立と孤独が社会背景、生活習慣、様々な社会心理尺度とどのように関連しているのかを探る。これにより、孤立や孤独に陥りやすい人、また、孤立や孤独がもたらす様々な生活面・社会面での影響を検証することを目的としている。

実験での被験者に様々な質問に答えてもらうアンケート方式の調査を行った結果、次のような結果を得た。孤立は UCLA 孤独感、シャイネス、独りの時間と正の相関がある。一方で、孤立は、相互独立、相談者数、話す時間、同居人数、所得、人生満足度と負の相関がある。

UCLA 孤独感、シャイネス、独りの時間、将来への不安、そして、別な尺度で計測した孤独度と正の相関を持つ。一方で、孤独感、相互依存、相互独立、相談者数、話す時間、幸福度、人生満足度と負の相関を示した。

しかし、孤立と孤独は生活習慣・健康状態・人口動態変数には孤立や孤独を強く誘発する要因は認められなかった。唯一、所得のみが孤立と負の相関があることが分かった。

この結果は、孤立や孤独は人間の内面的な心理傾向と大きく影響されあい、人生の満足度や幸福度を下げ、将来への不安を掻き立てることが分かった。孤立や孤独が心理的ダメージをヒトにもたらし、それが鬱やそれに起因する自殺や自暴自棄な衝動に駆られる可能性を示唆していることを本研究の結果は示していると考えられる。

6.2 調査デザイン

本章ではコンピューター入力によるアンケートを用いた。アンケートの詳細は巻末のサプリメント・マテリアル第6章のアンケート「アンケート」の通りである。回答者は第3章～第5章の実験の参加者である。本研究では孤立と孤独に着目して、これらの回答とその他の社会心理変数、人口動態変数、さらには生活習慣や健康状態などがどの程度関連しているのかを探る。

本章におけるアンケートで用いた変数は次の通りである。まず、孤立や孤独を計測するために利用した尺度は、各章で用いた孤立尺度、UCLA 孤独感尺度、UCLA シャイネス尺度、相互依存・相互独立尺度、WHO 利用の孤独尺度、困ったときに相談できる人の数、独りで過ごす時間、他者と話す時間である。また、過去の経験として身近な人の死の経験を尋ねた。

次に、人口動態変数として性別、年齢、所得、他者からの援助額、同居人数、親との同居の有無。健康状態として病気にかかっているか、過去に大病で1週間以上入院したことがあるかを尋ねた。生活習慣として、喫煙、飲酒、睡眠時間、BMI、ギャンブルへの投資額を利用した。また、幸福度に関して、幸福度尺度、人生の満足度尺度、将来への不安尺度を用いた。さらに、向社会的行動として、寄付額と過去の他者への手助けの度合いについて尋ねた。

6. 3 調査結果

回答者数は実験に参加した大阪大学の学生300人で、そのうち有効回答数は299となった。表6-1は各変数間でのスピアマン係数をまとめたものである。ここでは見やすさを考慮して、有意水準0.1%で有意な変数には数字を小数点4桁で表示して、星印を付けた。それ以外の変数は小数点2桁で表示した。

表6-1 変数間のスピアマン相関係数

	孤立	UCLA 孤独感	シャイネス	対人信頼	GSS	相互依存	相互独立	性別
孤立	1.00							
UCLA 孤独感	0.2758*	1.00						
シャイネス	0.2190*	0.7001*	1.00					
対人信頼	-0.01	-0.15	-0.1928*	1.00				
GSS	0.02	-0.12	-0.16	0.4362*	1.00			
相互依存	-0.14	-0.2992*	-0.12	0.08	-0.02	1.00		
相互独立	-0.3174*	-0.2821*	-0.3118*	0.00	-0.01	0.14	1.00	
性別	-0.09	-0.05	0.02	0.11	0.08	0.04	0.03	1.00
年齢	-0.04	-0.03	-0.10	0.02	-0.06	0.17	0.06	-0.10
BMI	0.02	-0.04	-0.02	-0.01	0.02	0.06	-0.05	-0.14
相談者数	-0.2399*	-0.5021*	-0.2954*	-0.03	-0.03	0.15	0.2497*	0.09
独りの時間	0.2058*	0.1980*	0.17	0.03	0.02	-0.16	-0.04	0.09
話す時間	-0.2495*	-0.3309*	-0.18	-0.05	-0.11	0.13	0.13	0.10
同居人数	-0.2293*	0.02	0.04	0.02	0.06	-0.03	-0.11	0.11
親との同居	0.02	0.07	-0.06	0.10	0.05	-0.09	-0.08	0.09
所得	-0.3095*	-0.13	-0.19	-0.01	-0.09	0.01	0.19	0.12
援助額	0.16	0.01	0.05	-0.01	-0.07	0.08	0.09	-0.03
病気	0.02	-0.03	0.00	0.02	-0.4342*	0.15	0.08	-0.03
大病経験	0.03	0.01	0.02	0.03	-0.3976*	0.14	0.02	-0.03
喫煙	0.04	-0.06	-0.08	-0.07	-0.01	-0.10	0.00	-0.14
飲酒	-0.13	-0.19	-0.15	-0.05	-0.09	0.17	0.03	-0.13
ギャンブル	-0.01	-0.12	-0.13	-0.17	-0.10	-0.04	-0.07	-0.16
身近な死	0.01	0.00	0.03	-0.08	0.18	-0.04	0.02	0.05
寄付	-0.13	-0.13	-0.14	0.06	0.07	0.12	0.09	0.18
睡眠	0.00	-0.11	-0.18	0.13	0.03	0.04	-0.05	-0.03
他者ほう助	0.03	0.03	0.00	0.12	0.2435*	-0.02	-0.01	0.07
幸福度	-0.18	-0.4331*	-0.2826*	0.14	0.07	0.14	0.1952*	0.10
人生満足度	-0.2180*	-0.5441*	-0.4085*	0.19	0.17	0.1986*	0.17	0.11
将来の不安	0.01	0.3098*	0.3498*	-0.13	-0.12	-0.08	-0.14	0.07
孤独度	0.03	0.1986*	0.1924*	-0.09	0.2873*	-0.11	-0.11	-0.01

第6章 孤立・孤独と生活習慣および社会心理との相関

	年齢	BMI	相談者数	独りの時間	話す時間	同居人数	親との同居	所得
年齢	1.00							
BMI	0.03	1.00						
相談者数	0.00	0.10	1.00					
独りの時間	-0.2339*	0.06	0.03	1.00				
話す時間	0.03	-0.11	0.17	-0.1902*	1.00			
同居人数	0.05	-0.15	-0.09	-0.2910*	0.03	1.00		
親との同居	-0.01	-0.06	-0.08	0.00	-0.15	0.02	1.00	
所得	-0.05	-0.01	0.16	-0.07	0.2317*	-0.03	-0.12	1.00
援助額	0.00	0.11	0.09	0.09	-0.02	-0.5024*	0.09	-0.16
病気	0.06	-0.04	0.09	0.00	0.08	-0.06	0.02	0.05
大病経験	0.02	-0.07	0.02	0.03	0.06	-0.10	0.02	0.09
喫煙	0.09	-0.04	0.07	0.02	-0.05	0.00	-0.01	-0.01
飲酒	0.2401*	0.07	0.12	-0.11	0.08	-0.15	0.09	0.09
ギャンブル	0.08	0.01	0.08	-0.09	0.07	-0.06	-0.02	-0.03
身近な死	-0.10	-0.08	-0.04	0.12	-0.06	-0.01	0.03	-0.01
寄付	0.07	0.01	0.16	0.02	0.08	0.00	0.05	0.09
睡眠	-0.05	0.04	0.05	0.08	-0.11	0.04	-0.07	0.03
他者ほう助	0.02	-0.02	0.03	0.00	-0.18	0.00	0.07	-0.05
幸福度	-0.05	0.06	0.2624*	-0.07	0.10	0.10	0.00	0.03
人生満足度	-0.02	0.07	0.2616*	-0.13	0.2030*	0.09	0.01	0.08
将来の不安	-0.03	-0.07	-0.18	0.2164*	-0.04	0.04	-0.01	-0.06
孤独度	-0.06	-0.04	-0.13	0.03	-0.09	0.09	0.06	-0.11

	援助額	病気	大病経験	喫煙	飲酒	ギャンブル	身近な死	寄付
援助額	1.00							
病気	0.10	1.00						
大病経験	0.09	0.7094*	1.00					
喫煙	-0.05	0.02	0.00	1.00				
飲酒	0.09	0.08	0.09	0.17	1.00			
ギャンブル	0.08	0.08	0.00	0.17	0.12	1.00		
身近な死	-0.04	-0.3108*	-0.2538*	0.03	-0.06	0.03	1.00	
寄付	0.02	0.00	-0.03	0.05	0.10	0.04	-0.04	1.00
睡眠	-0.02	0.03	0.06	0.04	-0.03	-0.01	0.05	0.01
他者ほう助	-0.07	-0.2809*	-0.1988*	0.00	-0.09	-0.06	0.2228*	-0.05
幸福度	-0.04	-0.01	-0.04	0.01	-0.01	0.04	0.00	0.08
人生満足度	0.02	-0.03	-0.01	0.01	0.05	0.03	-0.04	0.08
将来の不安	-0.10	-0.07	-0.02	-0.04	-0.07	-0.11	0.11	-0.09
孤独度	-0.08	-0.6260*	-0.5453*	-0.06	-0.09	-0.04	0.3018*	-0.07

	睡眠	他者ほう助	幸福度	人生満足度	将来の不安	孤独度
睡眠	1.00					
他者ほう助	-0.01	1.00				
幸福度	0.16	-0.01	1.00			
人生満足度	0.16	-0.02	0.7066*	1.00		
将来の不安	-0.08	0.08	-0.2767*	-0.4128*	1.00	
孤独度	-0.08	0.2835*	-0.10	-0.06	0.15	1.00

まず、孤立について着目する。孤立は UCLA 孤独感、シャイネス、独りの時間と正の相関がある。つまり、孤立が高い人は孤独感が高く、内向的で、独りの時間が多いことが分かる。一方で、孤立は、相互独立、相談者数、話す時間、同居人数、所得、人生満足度と負の相関がある。つまり、孤立している人は独立の心理度合いも低く、困った時に相談できる人が少なく、人と話す時間が少なく、同居人数が少なく、所得が少なく、人生の満足度が少ないことが分かった。これから孤立が孤独やシャイネスと深く関連し、また、人との接点の少なさに関わっていることが明確に読み取れている。そして、注目すべきは人生の満足度を低く感じるようになるということである。これは孤立が鬱や自殺に結び付く動機となり得ることを示している。

次に、UCLA 孤独感について着目する。孤独感は、シャイネス、独りの時間、将来への不安、そして、別な尺度で計測した孤独度と正の相関を持つ。つまり、孤独感が高い人は内向的で、独りの時間が多く、将来への不安が高いことを示している。また、その孤独感はその他の心理尺度の傾向とも一致している。孤立と違って、人間の心理的側面を計測している孤独感が他の心理尺度とも一定の正の傾向を得ていることはこの孤独感の信憑性を上げている。一方で、孤独感、相互依存、相互独立、相談者数、話す時間、幸福度、人生満足度と負の相関を示した。つまり、孤独感の高い人は、他者への依存する傾向が弱くなり、人から独立する傾向も弱くなる。孤独が高いと他者への依存度が高くなると予測されたが、この結果は予測に反する。他者へ依存できないが故に孤独感が増しているものと推察される。また、孤独感の強い人は、困った時に相談できる人が少なく、人と話す時間も少ない。孤立の結果と合わせて考えても、他者からの孤立が孤独感を募らせることになっていることが分かる。そして、最も重要なことは、孤独感が強い人は幸福度と人生の満足度が低いということである。

以上の点をまとめると、孤立は孤独感を高め、孤立と孤独は幸福度と人生の満足度を下げることが分かった。また、孤独感はその将来への不安を高める。これは孤立と孤独が、人生への満足度や幸福度合いを下げ、将来への不安を下げるメカニズムを明確に示している。孤立と孤独から人々が鬱などの精神障害や、それを起因とした自殺に追いやられてしまう理由には、このような心理的ダメージを孤立と孤独が伴うからであると考えられる。

次に、生活習慣に着目するために以下の変数との関連を探る。まず、うつ病診断でもよく用いられる睡眠時間であるが、これは孤立とも孤独ともその他のどの変数とも有意水準0.1%では相関がなかった。この結果は、睡眠不足が必ずしも、心理的ダメージにつながらないという一つの反証を示している。

現在病気を患っている人と過去に1週間以上の入院を伴う大病を患ったことのある人に着目すると、これらの経験者は GSS が下がることがわった。つまり、他者への信頼度が低いことになる。また、現在病気である人は過去に大病を患っていることが分かる。そして、これらの変数で注目

第6章 孤立・孤独と生活習慣および社会心理との相関

すべきは、他者へのほう助と UCLA ではない尺度での孤独感が負の相関を示していることである。GSS が低いことと同様に、過去見知らぬ人を助けたかどうかに関する質問で負の係数が推定されたため、この人たちは他者への信頼度が比較的低い傾向にあることが分かる。しかし、UCLA 尺度ではない孤独感が負のため、病気の経験が孤独感を高めるとは限らないことが分かる。

生活習慣病で着目される BMI もどの変数とも相関は認められなかった。次に、喫煙・飲酒・ギャンブルという習慣性が強く、近年、経済学において着目されている変数に着目する。このうち、喫煙とギャンブルには何の相関もない。飲酒も年齢との正の相関があり、これは自然なことである。これらの嗜好性が有意水準0.1%という厳しい水準に置いて、孤立や孤独などに関連することがないことが分かった。

最後に、性別・年齢・所得などの人口動態変数に着目する。まず、性別と相関のある変数は無かった。次に、年齢は独りの時間と正の相関があった。これは大学生であることを考慮すると、年齢が高くなるほど親元を離れて、独り暮らしをしたり、学年が高くなるとサークル・部活・バイト等を辞めて就職活動や院生となるため、独りで過ごす時間が増えることを意味している。特に、対象となる大阪大学にはこの傾向が強いため自然な結果である。所得は孤立と負の相関を持ち、人と話す時間と正の相関を持っていた。つまり、所得が高い人は孤立の度合いが低く、人と話す時間が増える。これは非常に整合的な結果である。近年、低所得者の孤立と孤独の問題が注目されているが、学生と言えども所得が高いと孤立が減ることが分かる。この背景には、所得を得るために学内や学外でバイトを行うため、自然と人と接する時間が増えることが考えられる。そして、それゆえに人と話す時間も自然と増えることが分かる。所得を増やすための労働が孤立を減少させることにつながっていると考えられる。

以上をまとめると、生活習慣・健康状態・人口動態変数には孤立や孤独を強く誘発する要因は認められなかった。唯一、所得のみが孤立を抑止し、他者との接点を労働を解することで増加させる点は、今後の経済政策において、労働を介した所得の増加が孤立の抑止につながることを含意していると考えられる。

6.4 まとめ

メタ分析から得られた結果は孤立と孤独がもたらす心理的ダメージを浮き彫りにした。孤立は孤独を強め、また、それらは人生の満足度と幸福度を減らす。そして、孤独は将来への不安を募らせる。孤立や孤独が鬱などの精神疾患とそれに起因する自殺とどのように関連しているのかは未だ明確に解明されておらず、経験則的に孤立や孤独の防止が鬱や自殺を止めることにつながることを主張されている。これに対して、本研究の結果は、孤立や孤独が明らかに人間の心理状態に負の影響を与えること、そして、鬱や自殺との関連項目で重要であると考えられる人生の満足度、幸福度、および将来への不安と関連していることを示した。本研究は鬱や自殺を防ぐためには孤立や孤独の防止が改めて重要な課題であることを如実に示している。

本章においてのアンケートの分析では有意水準として0.1%という経済学や心理学が用いる尺度より強い水準を用いた。これを1%水準にした場合、当たり前だが相関を示す変数は増える。本研究ではここまで強い水準であるにも関わらず、孤立や孤独が強い心理負担を人に与えていることを示したことに、その学術的・社会的意義があると考えられる。

第7章 集団への所属の対価

7.1 イントロダクション

本章では、失業者、生活保護受給者、母子（父子）家庭、ひきこもり、不登校からなる社会的孤立度が高いと考えられるグループとそうでない一般的なグループとの集団所属の対価の比較を行う。それにより、社会的孤立や孤独が前章までで検証した所属グループのどのような属性によって誘発されるのかを検証する。また、2つのグループではその対価の傾向に差があるのかを検証する。また、社会的孤立や社会的排除を抑止するために英国や米国で考えられている低所得者向けの貯蓄優遇政策であるセイビング・ゲイトウェイ、低所得者向けの子供のための貯蓄優遇政策であるチャイルド・トラスト、そして、崩壊する国民年金の代替案として検討されるベーシックインカムについて、それらへの期待度を両グループで比較した。

セイビング・ゲイトウェイとはイギリスのブラウン政権の基軸として掲げられたイギリス国民の貯蓄を上げるための政策であり、セイビング・ゲイトウェイ法案が論拠となっている。低所得層800万人を対象に、貯蓄に対して政府が一定割合で拠出金を与えることで、貯蓄促進を図ることが、その目的とされている。本研究では、低所得者、特に年間300万円以下の所得に対する補助政策として着目し、生活保護との比較から、様々な制度試案を検討する。

一方、チャイルド・トラストとは2005年4月に、イギリス政府により導入された子供の教育を目的とした貯蓄優遇政策である。制度として、子供の生後1年以内、7歳の誕生日にそれぞれ250ポンドが政府から支給され、この口座での運用に係る税金は、全て非課税とされる。さらに、年間1,200ポンドまで、この口座に毎年拠出することが可能である。本研究では、子供手当などの一時点での現金支給と比較する意味合いも兼ねて、長期の貯蓄推進を子供の教育に充填するという意味での様々なチャイルド・トラストの可能性を検証する。

最後に、ベーシックインカムは近年崩壊の兆しを取りざたされている年金制度の代替案として着目されている案であり、年金のような積み立て型ではなく、毎月一定の額を支払う制度である。積み立て型は所得が低い人には可処分所得の減少を伴うため、限界があり、さらにその日暮らしが精一杯な低所得者には困難を極める。ベーシックインカムはそれを解決する手法として着目されており、さらに、一定額の支給を伴うため、生活保護の代替案としても注目を浴びている。しかしながら、ギャンブルなどに過度にのめりこみ、貯蓄を伴わず、消費に大部分が費やされ、結局は低所得からの離脱につながらないという指摘もある。そこで、本研究では、上記2案とベーシックインカムを組み合わせたポリシー・ミックス案を検討し、それらの案が貯蓄率にどのような影響を与えるかを検証する。

調査手法はアンケート型の選択型実験法と呼ばれる手法を用いる。アンケートはインターネットによる全国規模でのサンプリングを行い、社会的孤立グループを200人、一般グループを100人集めた。なお、サンプリングに際しては、稼働年齢層で、かつ、低所得者を念頭に、15～65歳の年収400万円以下を対象とした。

アンケートの結果、一般グループの集団への選好は集団の人数が少ないこと、そして家からの近さを重視していることが分かった。さらに、結婚や高齢化によって、親族以外の付き合いを行

第7章 集団への所属の対価

わなくなる傾向にあることが分かった。次に、社会的孤立グループと呼ぶ人々は、匿名性と、親族の付き合いに対して近所・近隣の付き合いの回避を重視していることが分かった。また、結婚によって、一般グループとは逆に、社会的距離感を縮める傾向があることが分かった。

また、社会的孤立グループの孤立度は非常に高く、特に、困った時に相談できる人数が3人いないという深刻な状況が分かった。また、一般グループと比べて孤立度も高く、幸福度は低く、将来への不安度は高いことが分かった。そして、社会的孤立グループは、セイビング・ゲイトウェイ、チャイルド・トラスト、そして、ベーシックインカムに対して期待度が高いことが分かった。このグループは自分たちが活用できる貯蓄や資金源を如何に将来への不安や孤立から発生するリスクに備えるために積極的に活用しようとしていることが分かった。

7. 2 調査デザインと推定モデル

(1) 調査デザイン

第4章までの研究では学生および市民の幅広い層が対象となっていたが、本章では孤立・孤独を考える上では、失業者、生活保護者、母子家庭、ひきこもりという孤立や孤独を感じやすいと推察される人たちにターゲットを絞り、これらに該当しない一般の人々との社会集団への帰属価値を計測し、それらを比較する。

調査はクロスマーケティング社へ依頼して、全国からサンプルを集めた。アンケートは全国の年収400万円以下の2万人に配布し、失業者、生活保護者、母子家庭、ひきこもりの各グループについて50サンプルずつ回収した。また、彼らの価値を評価するベンチマーク・コントロールとして、同じく年収400万円以下の、上記に該当しないサンプルを男女それぞれ50名ずつ入手した。つまり、合計サンプル数は300である。

アンケートは、様々な種類の社会集団への帰属価値を計測するために、仮想的な経済環境を想定した質問から回答者の潜在的な支払意志額を推計するチョイスメソッド(選択型実験法)、孤立感に関する質問、そして個人属性への質問の3つの調査項目からなる。

1つ目は、チョイスメソッドを用いた仮想的な集団選択である。1つのチョイスセットには2つの選択肢として集団AとBという社会集団形式がある。各集団の属性を集団と個人の「関係性」、「コミュニケーション方法」、「参加にかかる費用」、「家からの所要時間」、「集団の人数」、「匿名性」の有無からなる6種類とした。「関係性」は集団と回答者との関係を表している。例のように、「親族との付き合い」「学校・職場との付き合い」と、例にはないが、「近所・近隣地域との付き合い」が含まれる。「コミュニケーション方法」は回答者が所属したいと思う集団の人々とのようにコミュニケーションをとるかを表しており、「直接会って」コミュニケーションをとる場合と「インターネットで」とる場合の2つがある。「参加にかかる費用」は回答者が所属したいと思う集団と関わり合いを持ったり、付き合いをするために、毎回かかる費用を表す。例えば、交通費・会費・参加費などが含まれる。「家からの所要時間」は回答者が所属したいと思う集団に参加するために家からかかる時間であり、電車・バスなどの公共交通機関を利用した場合の時間を表す。「匿名性」は集団の中で回答者の本名が秘密にされるのかどうかを表しており、「あり」なら名前は秘密で、「なし」なら名前は公開される。これらの属性のレベルを示しているのは表7-1である。

属性の種類と各レベルより、 $432 (= 4 \times 3^3 \times 2^2)$ 通りのチョイスセットの作成が可能となる。このすべてのチョイスセットを回答してもらうことは困難であるため、このアンケートでは

Design Expert (version 7) の D-optimal design を用い、チョイスセット数を32個へ縮小させ、さらにこれを2ブロックに分け、回答者一人当たりのチョイスセット数を16セットと設定した。表7-2はチョイスセットの一例である。各回答者はこの表と同じような質問形式で16個の質問のそれぞれにおいて、AとBのどちらのタイプの社会集団に所属したいかを選んでいく。

表7-1 チョイスセットの属性

	レベ ル
関係性	親族との付き合い、学校・職場との付き合い、 近所・近隣地域との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って、インターネットで
参加にかかる費用 (円)	0、1,000、2,000、3,000
家からの所要時間 (分)	0、30、60
集団の人数 (人)	5、15、25
匿名性	あり、なし

表7-2 チョイスセットの例

	集 団 A	集 団 B
関係性	親族との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	インターネットで
参加にかかる費用 (円)	0円	0円
家からの所要時間 (分)	0分	30分
集団の人数 (人)	5人	10人
匿名性	あり	なし

2つ目は、孤立と孤独感に関する質問である。孤独は UCLA 孤独感尺度を用いた。先週の1週間で親族・友人・知人・近隣の人との交流はどの程度あったかを、それぞれの人について、「毎日あった」、「1～2日ほど無かった」、「3日以上無かった」、「ほとんど無かった」の4段階評価で尋ねた。合計点数が高いほど孤立度が高くなる。質問内容はサプリメンタル・マテリアルで確認することができる。3つ目は、年齢、性別、家族構成などの個人属性の質問である。

(2) 推定モデル

本章で用いる選択型実験法の推定モデルは、コンディショナルロジットモデルである。選択型実験法は、回答者の効用関数をランダム効用関数であると仮定する。ランダム効用関数は、意思決定者は与えられた選択肢集合の中から選び出したある選択肢によって効用を最大化すると仮定する。ある個人は選んだ選択肢による効用 (U) を直接観察することはできない。しかし、その効用は、直接観察できる要素 (V) と観察できないランダムエラー要素 (ϵ) から構成されると仮

第7章 集団への所属の対価

定する。これにより、個人 q の選択 i に対する効用は $U_{iq} = V_{iq} + \varepsilon_{iq}$ と表すことができる。そして、個人 q が選択肢 j からなる選択肢集合 J から選択肢 i を選択する確率は(1)式のように表すことができる。

$$P_{iq} = P(U_{iq} > U_{jq}; \text{ for all } j(\neq i) \in J) = P(\varepsilon_{jq} < \varepsilon_{iq} + V_{iq} - V_{jq}; \text{ for all } j(\neq i) \in J) \quad (1)$$

ランダム効用関数を選択型実験法で利用可能にするために、ここではランダムエラー要素の同時分布に関して、ランダムエラー要素は第一種極値分布に従い、かつ、どの選択肢に対しても誤差は独立で、同じ分布であると仮定する。これにより、コンディショナルロジットモデル(McFadden, 1974)を用いることができる。コンディショナルロジットモデルを用いた場合の直接観察できる要素 (V) は線形であり、 $V_{iq} = \beta' X_{iq}$ と表記される。よって、(1)式の確率は以下のように示される。

$$P_{iq}(\beta'_q) = \frac{\exp(\mu\beta' X_{iq})}{\sum_{j=1}^J \exp(\mu\beta' X_{jq})} \quad (2)$$

この式における、 μ は直接観察できる要素 (V) へのパラメータであり、観察できないランダムエラー要素 (ε) の分布との違いの割合を示し、一般的に1で標準化される。 X_{iq} は V_{iq} の説明変数を示し、選択肢 i に対する属性の alternative-specific constants (ASCs) や個人 q の個人属性を含む。 β' は X_{iq} へのパラメータである。

これらをもとに、モデル1のメインエフェクトと、属性を含めた結果であるモデル2をコンディショナルロジットモデルより推定する。モデル1とモデル2の間接効用関数は以下のように示される。

$$\begin{aligned} \text{モデル1} : V_{iq} &= \beta_1 \text{School}_i + \beta_2 \text{Kinjo}_i + \beta_3 \text{Communication}_i + \beta_4 \text{Cost}_i \\ &+ \beta_5 \text{Time}_i + \beta_6 \text{Number}_i + \beta_7 \text{Anonymity}_i \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{モデル2} : V_{iq} &= \beta_1 \text{School}_i + \beta_2 \text{Kinjo}_i + \beta_3 \text{Communication}_i + \beta_4 \text{Cost}_i \\ &+ \beta_5 \text{Time}_i + \beta_6 \text{Number}_i + \beta_7 \text{Anonymity}_i + \sum_{k=1}^K \sum_{m=1}^7 \delta_k \text{Attribute}_{im} \times \text{Socio}_{kq} \end{aligned}$$

School_i と Kinjo_i は、選択肢 i に対して、親族との付き合いをベースとした場合に、それぞれを選んだ場合を1とするダミー変数である。 Communication_i は選択肢 i に対してコミュニケーションの方がネットの場合を1とするダミー変数である。 Cost_i は選択肢 i に対して参加費用レベルである。 Time_i は選択肢 i に対しての家からの所要時間のレベルである。 Number_i は選択肢 i に対しての集団の人数レベルである。 Anonymity_i は選択肢 i に対しての匿名性の場合を1とするダミー変数である。そして、 Attribute_{im} は Cost_i 以外の選択肢 i の7属性を示している。 $\text{Attribute}_{im} \times \text{Socio}_{kq}$ は Cost_i 以外の選択肢 i の7属性と個人 q の個人属性 k の変数からなる交差効果を示している。 $\beta_1, \beta_2, \beta_3, \beta_4, \beta_5, \beta_6, \beta_7, \delta_{km}$ は推定されるパラメータである。

7.3 調査結果

(1) 集団所属の対価

表7-3は回答者の内訳をまとめたものである。

表7-3 回答者の内訳

全 体		回答数	割合(%)
		300	100.0
1	失業中で求職活動中	58	19.3
2	失業中で求職活動をしていない	26	8.7
3	生活保護受給中	42	14.0
4	生活保護申請中	4	1.3
5	過去3年以内に生活保護を受給したことがある方	9	3.0
6	子供が独立していない母子(父子)家庭の子供	21	7.0
7	子供が独立していない母子(父子)家庭の親	38	12.7
8	不登校中	4	1.3
9	ひきこもり中	54	18.0
10	どれにもあてはまらない	100	33.3

上記の1から9に該当する人たちを孤立グループ、10に該当する人たちを一般グループとする。まず、これらのグループは有意に等しいとする仮説は、LRテストの結果、1%有意水準において棄却される(カイ2乗(2)=14.2、p値<0.000)。よって、これ以降は、各グループの結果を説明する。

表7-4 メインエフェクトの推定結果

変 数	定 義	一般グループ		孤立グループ	
		推定値	支払意志額(円)	推定値	支払意志額(円)
関係性の場合で、学校・職場の付き合い	学校・職場の付き合いを1としたダミー変数	0.16 (0.10)	—	0.02 (0.07)	—
関係性の場合で、近所・近隣地域の付き合い	近所・近隣地域の付き合いを1としたダミー変数	-0.10 (0.09)	—	-0.18*** (0.06)	332.1
コミュニケーション方法	インターネットを1としたダミー変数	0.01 (0.08)	—	0.08 (0.06)	—
参加に掛かる費用	0、1,000、2,000、3,000円	-0.00*** (0.00)	—	-0.00*** (0.00)	—
家からの所要時間	0、30、60分	-0.01*** (0.00)	17.8	-0.00*** (0.00)	16.5
集団の人数	5、15、25人	-0.02*** (0.00)	33.9	-0.02*** (0.00)	37.5
匿名性	ありを1としたダミー変数	0.12 (0.07)	—	0.38*** (0.05)	702.9
Log likelihood		-934.0		-1926.8	
R ²		0.15		0.13	
観察データ数		1600		3200	

注) 関係性の場合、親族の付き合いをベースとしている。

第7章 集団への所属の対価

表7-4はLIMDEP9.0 NLOGIT4.0による、コンディショナルロジットモデルによる属性のみを説明変数とするモデル1のメインエフェクトの推定結果である。一般グループは、参加に掛かる費用、家からの所要時間、集団の人数において、負で有意であった。このことから、一般グループの帰属したい集団は、参加費用や所要時間などの参加がしやすいことや、少人数制を好む傾向があることが分かった。一方、孤立グループは近所・近隣の付き合い、参加に掛かる費用、家からの所要時間、集団の人数、匿名性において、負で有意であった。つまり、孤立グループの帰属したい集団は、親族のように近所・近隣に比べて社会的距離感が短いこと、参加費用や所要時間などの参加がしやすいこと、少人数制、匿名性を好む傾向があることが分かった。

次に、これらの結果をグループ間で比較するために、各属性に対する支払意志額を計算した。孤立グループの関係性に着目すると、親族の付き合いに対して、近所・近隣の付き合いを重視していない。これは、一般グループは集団への選択にどの関係性も影響を受けなかったことに対して、孤立グループは近所・近隣地域との付き合いをしないことへ332円の価値を置いていることから、孤立グループが身近なつながりを重視して社会的つながりを軽視していることを示している。家からの所要時間に着目すると、一般グループのほうが孤立グループに比べて、家からの近さを重視していることが分かる。集団の人数に着目すると、一般グループよりも孤立グループのほうが、より多くの人との付き合いに価値を置かないことが分かる。そして、孤立グループの匿名性に着目すると、匿名性であることに一番高い価値を置いている。これは、一般グループは集団への選択に匿名性の有無の影響を受けなかったことに対して、孤立グループは匿名性であることへ702円の価値を置いていることから、孤立グループは現在の自分を隠せ、別の自分を創出できる匿名性の環境を事のほか重要視していることを示している。以上の結果より、孤立グループは、帰属する集団を選ぶ際に、自分を偽ることができる匿名性の環境を一番重視し、次に、自分を良く知る身近な人との付き合いを求めることから、一般グループよりも、自分への意識を敏感に感じていると考えられる。

ここでは、モデル1のメインエフェクト結果にスクリーニングで質問した個人属性を追加して、その推定結果から、孤立しやすい環境にいる人々の帰属したい集団への選択に対する選好を再考する。表7-5はメインエフェクトおよび有意な結果を示した個人属性との交差効果をまとめたものである。表7-4と表7-5のモデルの説明力の高さを示すR²を比較すると表7-5の方が高く、個人属性を含めたモデルの説明力の方が高いことが分かる。

表7-5において、各グループのメインエフェクトへの選好を示すパラメータの正と負の符号や桁数は、関係性を示す変数以外に変化が見られなかった。個人属性を含めた場合のメインエフェクトの推定結果で、親族の付き合いに対して学校・職場の付き合いをより好む傾向が見られたことは、個人属性の違いによって集団への選好に大きな違いが生まれることを示している。この結果を各交差効果より詳細に見ていく。

一般グループの場合、学校・職場の付き合い×既婚者と学校・職場の付き合い×年齢は共に負で有意なことから、既婚者、あるいは年齢の高い人ほど、親族との付き合いに対して学校・職場の付き合いを嫌う傾向があることが分かる。さらに、年齢の高い人は、近所・近隣の付き合い×年齢は負で有意なことから、近所・近隣との付き合いも嫌う傾向がある。孤立環境ではない人たちでさえも、結婚という家族構成の変化や年を取ることで、親族以外の人達との社会的距離感を増し、自ら孤立に進む可能性を秘めている。一方、孤立グループは、学校・職場の付き合い×既婚者と近所・近隣の付き合い×既婚者が共に正で有意なことから、結婚することによって、一般グループとは逆に、親族の付き合いよりも社会的な付き合いを好む傾向があることが分かる。し

かし、一般グループと同様に、年齢の高い人は、近所・近隣の付き合い×年齢は負で有意なことから、近所・近隣との付き合いも嫌う傾向もある。これらのことから、孤立グループにとっての結婚は、今までの社会的に閉鎖環境を開放的にする要因となっていることを示している。さらに、人数×女性は負で、匿名性×女性は正で有意なことから、女性は、男性に比べて、少人数制であることや、匿名性を好む傾向があることが分かった。これは、表7-4のモデル1の結果と同じである。

表7-5 社会属性を加えた推定結果

変数	定義	一般グループ	孤立グループ
関係性の場合で、学校・職場の付き合い	学校・職場の付き合いを1としたダミー変数	1.40*** (0.42)	0.80*** (0.27)
関係性の場合で、近所・近隣地域の付き合い	近所・近隣地域の付き合いを1としたダミー変数	0.49 (0.38)	-0.20 (0.25)
コミュニケーション方法	インターネットを1としたダミー変数	0.00 (0.08)	0.09 (0.06)
参加に掛かる費用	0、1,000、2,000、3,000円	-0.00*** (0.00)	-0.00*** (0.00)
家からの所要時間	0、30、60分	-0.01*** (0.00)	-0.00*** (0.00)
集団の人数	5、15、25人	-0.01** (0.00)	-0.01** (0.00)
匿名性	ありを1としたダミー変数	0.07 (0.11)	0.18** (0.08)
関係性(学校・職場)×既婚	学校・職場の付き合いを1とし、かつ既婚者の場合を1とした交差ダミー変数	-0.42* (0.24)	0.34** (0.16)
関係性(近所・近隣)×既婚	近所・近隣地域の付き合いを1とし、かつ既婚者の場合を1とした交差ダミー変数	0.16 (0.21)	0.56*** (0.14)
関係性(学校・職場)×年齢	学校・職場の付き合いを1とし、かつ年齢の交差	-0.02** (0.01)	-0.02*** (0.00)
関係性(近所・近隣)×年齢	近所・近隣地域の付き合いを1とし、かつ年齢の交差	-0.01* (0.00)	-0.00 (0.00)
人数×女性	人数に女性を1とした場合の交差	-0.00 (0.01)	-0.01* (0.00)
匿名性×女性	匿名性ありを1とし、かつ女性を1とした場合の交差ダミー変数	0.10 (0.15)	0.33*** (0.11)
Log likelihood		-925.4	-1906.5
R ²		0.16	0.14
観察データ数		1600	3200

注) 関係性の場合、親族の付き合いをベースとしている。

(2) 孤立・孤独・幸福・不安・信頼

まず、孤立の度合いについて検証する。孤立の度合いは社会的孤立グループと一般グループでそれぞれ正規化後の平均値は0.09と-0.19となり、社会的孤立グループの方が高かった。t検定の結果、有意水準5%で差が認められた。実験サンプルだけではなく、社会全体として見たときに、社会的孤立グループは予想通り、それに該当しない一般グループよりも高い孤立状態にあることが立証された。

さらに、孤立を測るもう一つの尺度として、困った時の相談人数を尋ねたところ、社会的孤立グループは平均で2.73人、一般グループは4.27人で、社会的孤立グループは3人を下回った。t検定の結果、有意水準で0.1%で差が認められ、社会全体として見たときにも、社会的孤立グループが困った時に相談できる人数が極端に少ない状態であることが立証された。上記の孤立状態と合わせて、このグループに属する人たちの孤立度は高いと言える。

次に、孤独の度合いについて UCLA 孤独感尺度を検証する。社会的孤立グループが0.18で、一般グループが-0.37となり、社会的孤立グループの方が高かった。t検定の結果、有意水準1%で差が認められた。社会的孤立グループは予想通り、それに該当しない一般グループよりも、実験サンプルを超えて、その背後にある社会全体として高い孤独状態にあることが立証された。

幸福度については、社会的孤立グループが2.43で、一般グループが2.91で、社会的孤立グループが低くなった。これはt検定の結果、有意水準0.1%で差が認められた。また、将来への不安度は、社会的孤立グループは3.42、一般グループは3.19となり、社会的孤立グループがやはり高い値を示した。この結果は、t検定で有意水準5%で差が認められた。社会的孤立グループは、実験サンプルを超えて、その背後の社会全体として見たときにも、一般グループに比べて幸福度が低く、将来への不安が高いことが立証された。

また、第5章で実施した信頼計測ゲームを仮想的なアンケートで尋ねた。社会的孤立グループは0.63、一般グループは0.67となり、社会的孤立グループが低い値を示した。しかし、t検定の結果、有意な差は認められなかった。第5章の実験の結果とアンケートでは、実験の信頼度の平均は0.49、アンケートの信頼度の平均は0.73となった。これと比較すると、アンケートに近い数字が出ているが、それよりも低い数字となった。しかし、これは統計的にはサポートされなかったため、本調査を超えて社会全体に言えるかどうかはさらなる調査を待たねばならない。

(3) 低所得者政策への反応

ここでは低所得者への貯蓄政策であるセイビング・ゲイトウェイとチャイルド・トラストを念頭に、そのような政策が施行された時の貯蓄率を社会的孤立グループと一般グループで比較する。

まず、低所得者向けの非課税の貯蓄推進政策であるセイビング・ゲイトウェイを念頭として、次のような質問をした。

「もしあなたが生活保護を受給しているとします。このとき、稼いだ給与のうち一部が自治体によって貯蓄に回され、利息を付けて、あなたが生活保護を受給を終え、自立したときに支給されるとしたら、あなたは給与のうち何%を貯蓄に回されることを許せますか。1~100%の間でお答えください。」

この結果、貯蓄率は社会的孤立グループが20%で、一般グループが18%となり、社会的孤立グループが高い値を示した。社会的孤立グループの方が、上記のような貯蓄優遇政策に対して貯蓄を増やそうという動機が強いことが分かる。しかし、t検定の結果、有意な差は認められなかったため、この結果が実験サンプルを超えて社会全体にも認められるかはさらなる調査が必要である。

次に、非課税の子供のための貯蓄推進政策であるチャイルド・トラストを念頭として次のような質問をした。

「子どものために自治体が代わりにあなたの給与の一部を貯蓄に回し、利息を付けて、あなたの子どもが高校進学時に支給されるとしたら、あなたは給与のうち何%を貯蓄に回されることを許せますか。1～100%の間でお答えください。」

実際にイギリスで導入されているチャイルド・トラストは大学進学時に支給される形で、また利子優遇ではなく、金額が政府によって上乘せされるボーナス方式であるが、昨今の日本の財政状況と日本での進学状況を考慮して、上記の質問に変換した。

この結果、貯蓄率は社会的孤立グループが16.9%で、一般グループが15.9%となり、社会的孤立グループが高い値を示した。社会的孤立グループの方が、子供の高校進学のための貯蓄優遇政策に対して貯蓄を増やそうという動機が強いことが分かる。しかし、t検定の結果、有意な差は認められなかった。これは本調査のサンプルを超えて社会全体として言えることとは限らない。

最後に、破綻が懸念される国民年金の代替案として、毎月一定額を政府が支給して、年金を廃止するというベーシックインカムに関する期待度を計測するために、次のような質問をした。

「年金の代わりに、毎月一定額を政府が支給して、年金の積み立てをしないとする案があります。あなたはこの案で毎月もらえるお金が最低いくらであれば、この案に賛成しますか。1万円～10万円の間でお答えください。」

この結果、回答額は社会的孤立グループが72,105円で、一般グループが70,450円となり、社会的孤立グループが高い値を示した。社会的孤立グループの方が、ベーシックインカムに要求する支給額が高いことが分かる。しかし、t検定の結果、有意な差は認められなかった。ベーシックインカムに、両者の間に社会全体として差は見いだせなかったが、逆に、これはどちらの集団においても、ベーシックインカムが7万円前後の期待として持たれていることを示している。

7. 4 まとめ

モデル1のメインエフェクトの結果より、一般グループの集団への選好に、まず、集団の人数が少ないこと、そして家からの近さを重視していることが分かった。次に、失業者、生活保護受給者、母子（父子）家庭、ひきこもり、不登校からなる、本章で実施されたアンケートが社会的孤立グループと呼ぶ人々では、まず、匿名性であること、次に、親族の付き合いに対して近所・近隣の付き合いの回避を重視していることが分かった。

しかし、個人属性を含めた推定結果では、一般グループは、結婚や高齢化によって、親族以外の付き合いを行わなくなる傾向にあることが分かった。これは、低所得や失業などの一般的に社会的に孤立しやすいと考えられている要因以外にも、結婚という生活環境の変化や年を取ることによる生理的变化により、自ら社会的距離感を取り始める傾向を示唆している。

一方で、孤立グループは、結婚によって、一般グループとは逆に、社会的距離感を縮める傾向があることが分かった。単純に、結婚することが社会的孤立を防ぐことを意味しているのではなく、結婚という生活環境の変化が、社会的に孤立しやすい人たちの環境を彼らにとって好ましい方向に変えるという意味で重要であることを示唆している。ただし、一般グループによる結婚への結果を考慮すると、結婚によって孤立を脱却できた人でも、これは一時的な状況の可能性もある。孤立した環境に戻る可能性もあるため、結婚への解釈は慎重に考える必要がある。

第7章 集団への所属の対価

次に、社会的孤立グループの孤立度は非常に高く、特に、困った時に相談できる人数が3人居ない状態は深刻である。また、このグループはそうでない一般グループと比べて孤立度も高く、幸福度は低く、将来への不安度は高い。経験則的に、このグループにはこのような傾向がみられると考えられていたが、今回の調査でエビデンスベースでそれが立証されたことになる。

社会的孤立グループの低所得者向けの貯蓄政策に目を向けると、セイビング・ゲイトウェイやチャイルド・トラスト、そして、ベーシックインカムに対する期待度が高いことがうかがわれる。孤立度が高く、将来への不安が高い、社会的孤立グループにとっては自分たちが活用できる貯蓄や資金源を如何に将来への不安や孤立から発生するリスクに備えるために用いるかが重要な課題となる。その意味で、このグループの人たちは将来へのリスクを減らすために、活用可能な優遇政策に対して高い貯蓄率を示す傾向があることが実施されたアンケート結果から示された。この結果を、次章では、サラリーマンやOLなどの労働者と比較する。そして、低所得者向けの貯蓄政策やベーシックインカム、これらのポリシー・ミックスを含むアセットベース福祉政策について検証する。

第8章 孤立抑止のための社会福祉制度

8.1 イントロダクション

本章では、現在労働しているサラリーマンとOLを対象に、低所得者向けの貯蓄優遇政策に対する期待度を調査した。現実には働いている人では、前章の社会的孤立グループよりも価値観が異なると思われるが、彼らは岩田（2008）が指摘するように、失業、離婚、疾病の発生により、社会的孤立グループに陥るリスクを持っている。社会的孤立グループに陥っていないが、陥った場合を想定して、どのようなセーフティネットが望まれているのかを探るのが本研究の主眼である。

調査はアンケート方式で大阪市中央区本町のビジネス街において、近隣で勤務しているサラリーマンとOLへの質問を行った。設問は、前章のセイビング・ゲイトウェイ、チャイルド・トラスト、そして、ベーシックインカムを様々に組み合わせた仮想実験方式によって設定した。

具体的には、これらの制度単体の時の、優遇金利や貯金の取り崩せる時期を様々に設定して、その時の貯蓄率の変化を期待度の表れとして評価した。また、制度単体ではなく、これらの制度が複合的に施行されるポリシー・ミックスを前提として、そこでの、金利や貯蓄を崩せる時期を様々に変えた設問を設定した。

アンケートの結果、セイビング・ゲイトウェイとしては、貯蓄を崩せる時期が3年と5年の方式および所得が300万を超えた時と結婚時のボーナス方式が貯蓄率が相対的に高くなる。チャイルド・トラスト方式の場合には、義務教育開始の小学校入学時より大学入学時に貯蓄を崩せる方式の方が貯蓄率が上がった。

また、ベーシックインカムでは8万円で回答者の現状の平均貯蓄率15%を上回る貯蓄が行われることが分かった。また、ベーシックインカムと低所得者向けの貯蓄推進政策を組み合わせると、ベーシックインカムが無い状態に比べて、同じ優遇金利でも、ベーシックインカムがある時の方が、失業時に備えた貯蓄や子供の大学進学に備えた貯蓄が増えることが分かった。

一方で、生活保護時の給与所得を生活保護の減額ではなく貯蓄に回す政策については、自治体によって貯蓄に回される許容率は、前節の社会的孤立グループに近い値を示すが、それよりも低くなった。また、ワークシェアリングにおいて減額が許される給与所得の割合は22%となり、現状の貯蓄率である15%を超えることが分かった。

8.2 調査デザイン

本章では、実際に働いているサラリーマンやOLを対象としたアンケート方式を行った。これによって、前節の所得が400万以下のサンプルの比較を行う。アンケートでは、低所得者向けの貯蓄推進政策と子供向けの貯蓄推進政策およびベーシックインカムが試作された場合の貯蓄率を検証する。また、これらの政策のポリシー・ミックスを考える。調査手法は無記名封入提出型のアンケート方式を用いる。対象は大阪本町で働く会社員の男女である。調査票に対して記入した回答者は密閉型の封筒にアンケートを封入して提出する。これによって、自身がどのような回答をし

第8章 孤立抑止のための社会福祉制度

ているかを秘匿することが可能となり、その分、より正直な回答を引き出すことが期待される。

アンケートでは、まず、年齢、婚姻状態、所得、貯蓄率、孤立状態についての社会的背景について尋ねる。次に、低所得者向けの貯蓄優遇政策であるセイビング・ゲイトウェイを想定して、次のような質問をする。

「年収が300万円を下回る人を限定に、現在の社会保障（年金は健康保険）とは別に、自治体が給与の一部を非課税の定期預金の形で貯蓄に回してくれるとします。このとき、以下の「貯蓄を崩せる時期」の各条件の中の普通金利に対する「追加金利」の各条件の全てに対して、自治体があなたの給与のうち何%を貯蓄に回すことを許容できますか？ 許容できる割合に✓をつけてください。」

回答は表8-1のように追加利子率に対して各貯蓄率を選ぶ方式で回答する。

表8-1 回投票の一例

追加利子率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%	✓					
0.50%		✓				
0.70%		✓				
1.00%			✓			
1.20%			✓			
1.50%				✓		
1.70%				✓		
2.00%					✓	

貯蓄を崩せる時期は最初の貯蓄開始から3年後の任意の時期、最初の貯蓄開始から5年後の任意の時期、年収が300万円を上回った後の任意の時期、失業した時、結婚した時、子供が小学校に進学する時、子供が大学に進学する時のそれぞれである。

次に、年金に対してベーシックインカムが導入されたと想定して、毎月1万円から5千円刻みで8万円までの支給額に対する貯蓄率を5%刻みでそれぞれ選んでもらった。

その後、ベーシックインカムと低所得者向けの貯蓄優遇政策のポリシー・ミックスを考えるために、両者を合わせた政策について以下のような質問を行った。

「低所得者向けの貯蓄優遇政策と5の年金の代わりにベーシックインカムが合わさった場合を想像して下さい。年金の代わりに政府から支給される額と自分の給与の額の合計のうち、今度は自治体ではなく、あなた自身が何%を貯蓄に回すかを決定できる時、あなたが以下の各条件で貯蓄に回す割合を塗りつぶして下さい。例えば、自分が5%以下を貯蓄に回したい場合には⑤を塗りつぶして下さい。質問には、「毎月支給される額」と「普通預金に+される金利」からなる全ての組み合わせ（全ての升目）において、⑤～⑳の1つを必ず塗りつぶして下さい。」

回答は表8-2のように各支給額と利子率の組み合わせについて各貯蓄率を選ぶ方式である。

貯蓄を崩せる時期は、セイビング・ゲイトウェイ方式として最初の貯蓄開始から3年後の任意の時期、年収が300万円を上回った後の任意の時期、失業した時を用い、チャイルド・トラスト方式としては子供が大学に進学する時を用いた。

最後に、これらと併せて、セイビング・ゲイトウェイの一つとしての生活保護時の給与所得の一部の自治体による自立時までの貯蓄推進を目的とした政策で給与の何割を貯蓄に回すのを許容できるかについての質問、ワークシェアリング導入時に給与が何割減額されるのまで我慢できるのかについての質問、孤立と孤独感に関する質問を行った。孤独はUCLA孤独感尺度を用いた。

孤立は、先週の1週間で親族・友人・知人・近隣の人との交流はどの程度あったかを、それぞれの人について、「毎日あった」、「1～2日ほど無かった」、「3日以上無かった」、「ほとんど無かった」の4段階評価で尋ねた。合計点数が高いほど孤立度が高くなる。

表8-2 回投票の一例

		普通預金に+される金利											
		0.70%			1.00%			1.20%					
毎月支給される額	¥10,000	●	10	15	20	⑤	●	15	20	⑤	●	15	20
	¥20,000	●	10	15	20	⑤	●	15	20	⑤	●	15	20
	¥30,000	⑤	●	15	20	⑤	●	15	20	⑤	10	●	20
	¥40,000	⑤	●	15	20	⑤	●	15	20	⑤	10	●	20
	¥50,000	⑤	●	15	20	⑤	●	15	20	⑤	10	●	20
	¥60,000	⑤	10	●	20	⑤	10	●	20	⑤	10	●	20
	¥70,000	⑤	10	●	20	⑤	10	●	20	⑤	10	15	●
	¥80,000	⑤	10	●	20	⑤	10	●	20	⑤	10	15	●

8. 3 調査結果

(1) セイビング・ゲイトウェイとチャイルド・トラスト

アンケート配布数は300で回収数は77（うち有効回答数は77）となった。回答者の年齢の平均は42歳（22—62歳）である。回答者の53%が結婚しており、世帯人数は平均3.00人（1—6人）。平均所得は①300万円未満、②300万円—500万円未満、③500万円—700万円未満、④700万円—1,000万円未満、⑤1,000万円—1,500万円未満、⑥1,500万円以上の区分で、3.2であるので500—700万程度となる。これは今回の回答者の所属する会社を考慮した場合には一般的なサラリーマンの所得と同額である。そして、平均貯蓄率は15.2%である。

以上を念頭に、各低所得者向けの貯蓄優遇政策における貯蓄率を検証する。図8-1は低所得者向けの各貯蓄優遇政策における各優遇金利に対する貯蓄率の変化を表したものである。3年間と5年間の定期方式と所得が300万円を上回った場合と結婚した時のボーナス方式と失業した時を比べると、失業した時の貯蓄率が低いことが分かる。これは現在労働している人は失業保険による補填を念頭にしているため、自らの貯蓄を崩してまで失業に備える動機が少ないことを示している。一方で、通常定期と同じ方式での優遇金利は貯蓄を崩せる時期が比較的緩いため、貯蓄を促進すると考えられる。また、結婚したときも一時出費が増えると考えられるため、将来設計の一環として貯蓄が促進される。現在の貯蓄率を上回るのは優遇金利が2.0%のときである。

一方で、チャイルド・トラストファンドを念頭においた、子供の進学時における貯蓄の取り崩しは貯蓄率をあまり上げない。現在の平均貯蓄率が15%であることを考えると、子供のためにさらに10%以上貯蓄するのは難しいと考えられ、優遇利子率が1.5%を超えないと、子供のための貯蓄率は10%を超えない。子供に関しては、結婚したからと言って生まれるわけではなく、不確実性が多い。よって、自分を対象としているセイビング・ゲイトウェイ方式による貯蓄優遇政策に対して、子供を対象とするチャイルド・トラスト方式の貯蓄優遇政策の貯蓄率が低く見積もられることは合理的である。しかし、同じチャイルド・トラスト方式においては、子供が小学校に進学する時に崩せるよりも子供が大学に進学する時に崩せる方式の方が、優遇金利の上昇とともに、

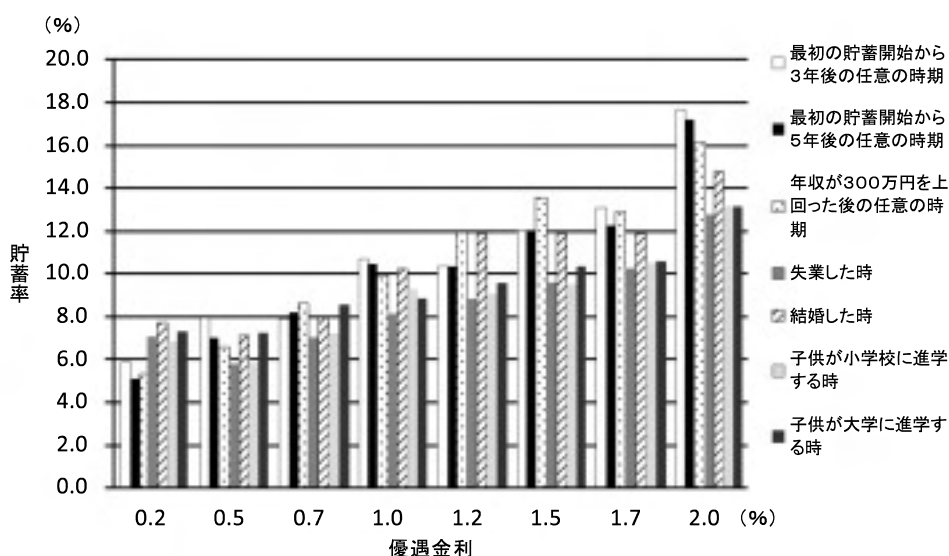
第8章 孤立抑止のための社会福祉制度

貯蓄率は上昇する。義務教育の開始と大学の進学を比べた場合、大学進学にかかる費用の方が高いと考えられ、それゆえに、大学進学に備えようとする動機が回答者にはあることになる。

前章の所得400万円以下の回答者とこの結果を比較する。前章では、優遇金利が1%で、高校進学時に貯蓄を崩せる場合を想定したが、その時の貯蓄率は社会的孤立グループが16.9%で、一般グループが15.9%となった。本研究での優遇金利1%での貯蓄率は小学校進学時および大学進学時に貯蓄を崩せる場合と、前章と異なるものの、両方とも10%を切っている。本章の回答グループの所得対が500—700万であることを考えると、低所得者や生活保護者に比べて、子供の進学を自身の所得から補うことができる財力が余分に有ると考えられるため、優遇政策への反応が、前章の低所得者に比べて鈍化していると考えられる。これは、前章の低所得者、特に社会的孤立グループが通常の労働者と比べても、子供の進学支援政策に対して、非常に高い期待を寄せており、また、その優遇政策を利用して子供に対する備えである貯蓄を多くする傾向を如実に示していると考えられる。

これらをまとめると、低所得者向けの貯蓄優遇政策であるセイビング・ゲイトウェイは通常の定期型および一定程度の年収を突破した際のボーナス方式および結婚祝い金としてのボーナス方式が貯蓄率を上げることに貢献すると考えられる。一方で、チャイルド・トラスト方式では、子供の小学校進学時より大学進学時に備えようとする動機の方が高いことが分かった。

図8—1 各種優遇政策での貯蓄率

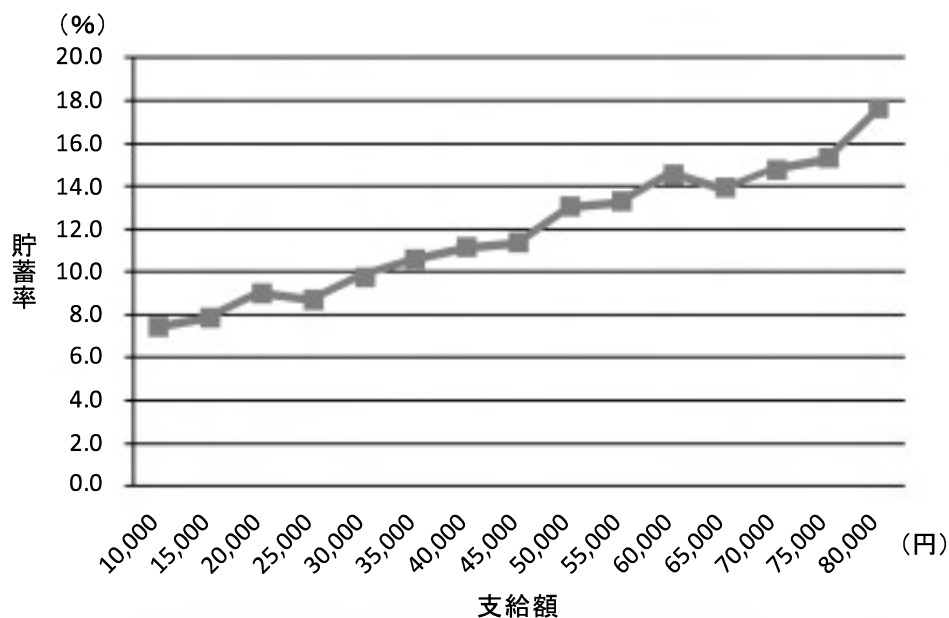


(2) ベーシックインカムと貯蓄率

ここではベーシックインカムの支給額と貯蓄率の関係を検証する。図8—2は支給額に対する貯蓄率を示している。貯蓄率が現在の平均貯蓄率である15%を超えるのは支給額が7万円を超える額である。ベーシックインカムについては支給額として7—8万円が提案されることが多いが、その程度の額であれば、現状と同じ貯蓄水準を維持できると考えられる。また、質問紙における最大支給額である8万円の場合には、貯蓄率は18%に届き、現在の貯蓄率を上回る。これは支給額が8万円になると生活の消費を増やすよりも貯蓄率を増やす傾向になることを示している。グラフからは、支給額の増加と貯蓄率の増加には比例関係があり、このアンケートからだけならば、ベーシックインカムが浪費や消費の過度の増大につながるとされる危惧は見受けられない。しか

し、この回答者の属性が定職についているサラリーマンやOLであり、実際の低所得者でないことを考慮する必要はあるだろう。

図8-2 ベーシックインカムと貯蓄率



(3) ベーシックインカムと貯蓄優遇政策のポリシー・ミックス

ここでは新しい社会保障制度の枠組みとして、現行の年金の代わりとしてベーシックインカムを導入し、さらに、上述した低所得者向けの貯蓄優遇政策であるセイビング・ゲイトウェイとチャイルド・トラストを導入した場合の貯蓄率の状況を検証する。図8-3から図8-5は各貯蓄優遇政策における優遇金利が0.7%、1.0%、1.2%のそれぞれの場合をまとめたものである。

どの金利においても、前節の分析と同じように3年後に取り崩せる場合と、所得が300万突破後に取り崩せる場合の貯蓄率が高い。一方で、失業と子供の大学進学時にと崩せる場合の貯蓄率は低い。失業に対する貯蓄は、0.7%、1.0%、1.2%の各金利では前節では貯蓄率はそれぞれ7%、8%、9%であった。各金利の下、この貯蓄率を超えるベーシックインカムの支給額はそれぞれ5万、4万、3万であり、ベーシックインカムの一つの目安となる7万以下であっても、現行の失業対策に対する貯蓄率を上回ることが分かった。なお、目安としての7万では貯蓄率は各金利ではそれぞれ10%、11.8%、13%となり、いずれも高い水準を示した。この結果から、年金に対してベーシックインカムは将来的な失業に備えるための貯蓄を増やす傾向があることが分かる。

また、子供の大学進学のための貯蓄率が前節では同じ金利においては10%の貯蓄率を切っていたのに対して、ベーシックインカムを導入すると優遇金利が0.7%でも7万円以上では10%以上となる。さらに、優遇金利が1%では5万以上で、1.2%のときは4万円以上で、10%に達する。これらの結果からは、年金に対してベーシックインカムは将来世代である子供に対する投資としての意味合いの貯蓄を増やす効果が認められる。

ただし、一部データが回答者から取得できない支給額（図8-3の1万円と2万円など）があるため、今後のさらなるサンプリングをもって、より頑健な結論とする必要がある。

図8-3 優遇金利が+0.7%のときの貯蓄率

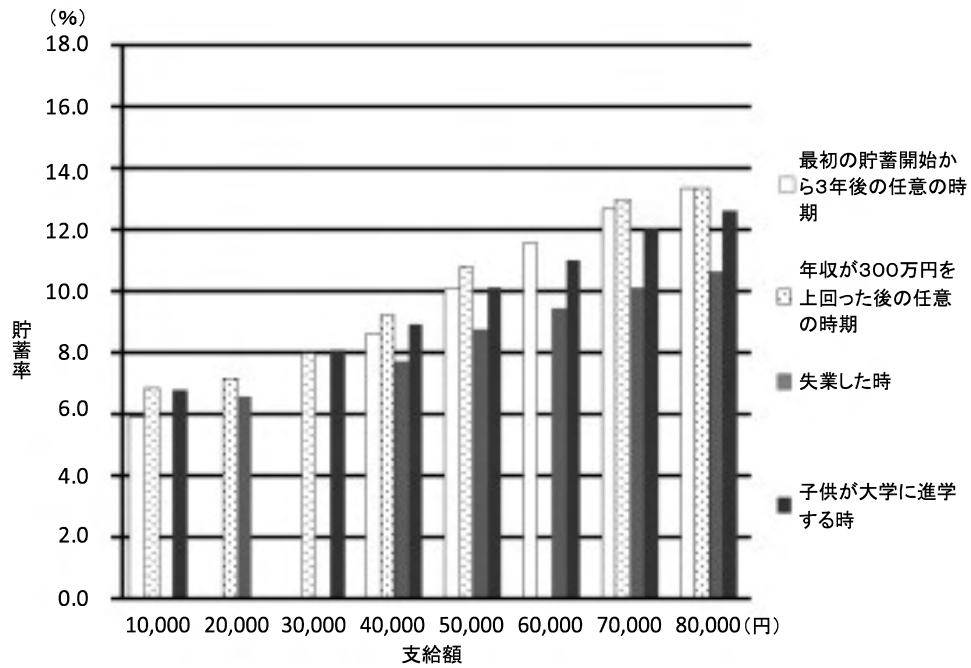


図8-4 優遇金利が+1%のときの貯蓄率

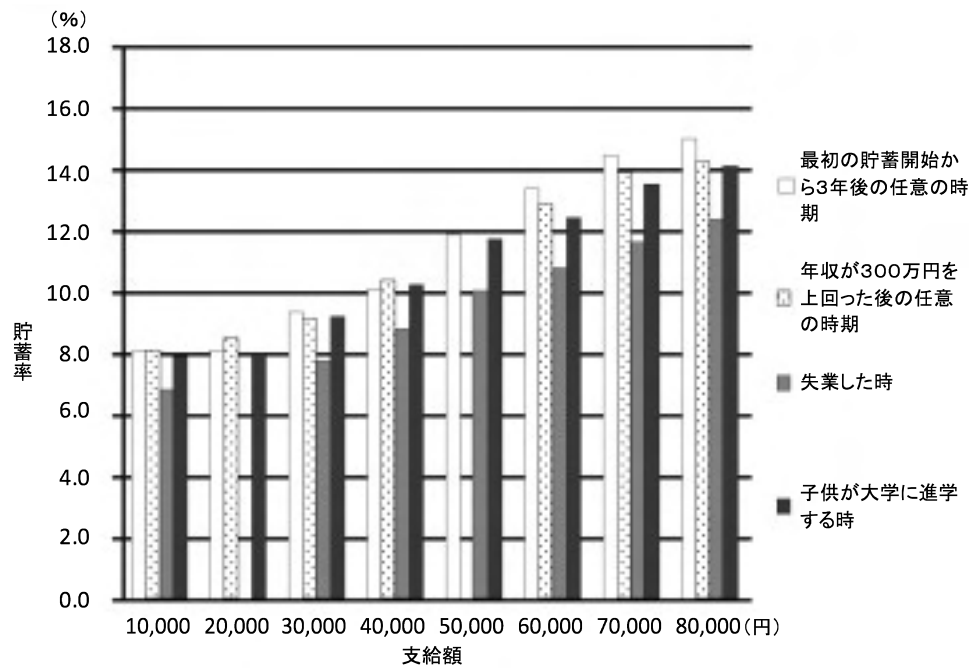
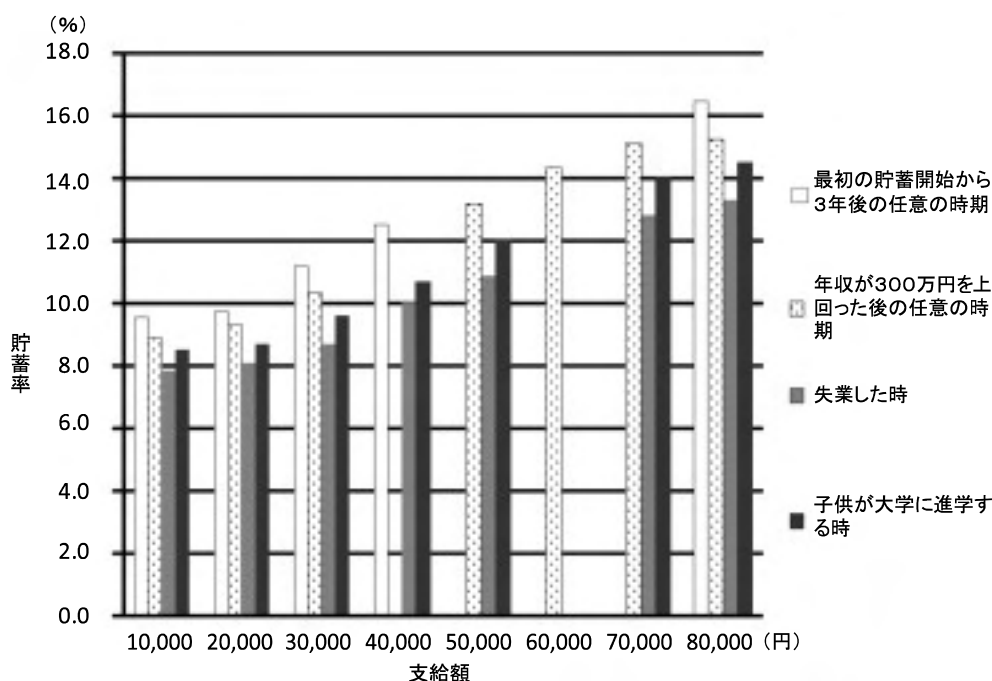


図 8-5 優遇金利が+1.2%のときの貯蓄率



(4) 生活保護者に対する貯蓄優遇政策とワークシェアへの期待

現在定職についている人たちに対して生活保護をもし受給する場合を想定してもらい、稼いだ額のうちの一部分が生活保護の給付金の減額ではなく、将来の積立として利用可能で、それが優遇金利1%で運用され、生活保護から脱して、自立した時に払われるとした場合に、自治体が所得の内の何%を貯蓄に回すことを許せるかを尋ねた。その結果は、平均して、19.4%の貯蓄を許容できるとなった。この値は、前章における所得400万円以下の人へのアンケートの中の社会的孤立グループの20%より少なく、また、一般グループの18%より多い。本研究の回答者の所得階層が500—700万であることを考慮すると、前章の回答グループよりも所得が高い分、貯蓄への動機が強い傾向があるかもしれない。それを考慮した場合、前章の社会的孤立グループの貯蓄率が20%に達していることは、それだけ社会的孤立グループが生活保護時の貯蓄優遇に高い期待を抱いていることを表していると考えられる。

また、アンケートでは実際に労働している人がワークシェアに期待する度合いも尋ねるために、ワークシェアを実施した際に、所得の減少をどの程度までなら受け入れられるかも尋ねた。平均して、22.8%までの所得減少が受け入れられた。自身の未来の貯蓄に回す分よりも、他者への現在の所得補填に回す率の方が高いことは、今後、ワークシェアリングを実施していく上での一つの目安となるだろう。

8. 4 まとめ

所得500—700万の現役のサラリーマンとOLを対象としたアンケートから低所得者向けの貯蓄優遇政策であるセイビング・ゲイトウェイと彼らの子供のための貯蓄優遇政策であるチャイルド・トラストについて検証した。その結果、セイビング・ゲイトウェイに比べてチャイルド・トラストの貯蓄率は同じ金利でも低くなった。セイビング・ゲイトウェイとしては自己のために使

■ 第8章 孤立抑止のための社会福祉制度

える利便性が高い、貯蓄を崩せる時期が3年と5年の方式および所得が300万を超えた時と結婚時のボーナス方式が貯蓄率が相対的に高くなる。これに対して、失業時に貯蓄を崩せる場合は、貯蓄率が低く抑えられた。これは現役の会社員には失業保険があることが理由と考えられる。チャイルド・トラスト方式の場合には、義務教育開始の小学校入学時より大学入学時に貯蓄を崩せる方式の方が貯蓄率が上がった。しかし、前節の所得が400万以下の社会的孤立グループと比べると、チャイルド・トラストでの貯蓄率は低くなった。

また、ベーシックインカムでは8万円で回答者の現状の平均貯蓄率15%を上回る貯蓄が行われることが分かった。また、ベーシックインカムと低所得者向けの貯蓄推進政策を組み合わせると、ベーシックインカムが無い状態に比べて、同じ優遇金利でも、ベーシックインカムがある時の方が、失業時に備えた貯蓄や子供の大学進学に備えた貯蓄が増えることが分かった。年金に代わるベーシックインカムの導入は現役世代が自身の将来や子供の将来に備えて貯蓄する率を上げることが分かった。

一方で、生活保護時の給与所得を生活保護の減額ではなく貯蓄に回す政策については、自治体によって貯蓄に回される許容率は、前章の社会的孤立グループに近い値を示すが、それよりも低くなった。また、ワークシェアリングにおいて減額が許される給与所得の割合は22%となり、現状の貯蓄率である15%を超えることが分かった。自身の将来に対する貯蓄よりも、現状の他人に対して割ける割合が高くなったことは、今後ワークシェアリングを進めていく上での基礎データとなることが期待される。

第9章 非自発的孤立・無縁ゼロ社会に向けての提言

本研究では自発的孤立や無縁がなぜ起きるのかを社会的背景から探るために、被験者に金銭的インセンティブを与えて労働させる経済実験型の調査手法と仮想的な環境を想定して答えてもらう仮想実験型と選択実験型のアンケート調査の手法を用いて、大学生や一般市民を対象とした調査を行い、多くのデータを入手し、孤立と孤独の観点に基づく分析を行った。

第2章と第4章の実験結果は、協働作業を離脱して独りで作業するという意味での孤立が実際の孤立状態や孤独感に影響されるのではなく、社会的環境に影響されることを示した実験室実験の結果は示し、また、人間の孤立が社会要因や環境によって導かれることを示した。また、人は孤立状態や孤独状態に依らず、コストをかけずに独りになれるのであれば、独りを選ぶことが、第3章のコミュニケーションからの離脱実験から分かった。コストがかからない社会離脱など現実には考えられない。何らかのコストを払って人は現実社会では孤立を選んでいると考えられる。実験結果はそれが、個人の心理的資質によるものではなく、集団を形成する社会制度や社会環境によって導かれていることを示した。人は自発的に孤立するのではなく、社会の一員であるがために、社会制度によって非自発的に孤立へと苛まされるのである。

第5章では、孤立度や孤独度の高い人は相手への信頼や互恵は高いが、相手から得られると期待する互恵は小さいという結論が得られた。これは、孤立や孤独が、自分を他者に対してより献身的にするが、他者からの見返りには期待できないという自虐的信頼の上に成り立っていることを示した。他者への見返りが期待できないにも関わらず、自分から献身的に行動するという相反する行為は合理的ではなく、それゆえに自虐的である。孤立や孤独が他者との信頼関係構築に置いて、このような自虐的な関係を前提とした場合、それは長期的な視野で人に過度のストレスを付加することにもなりかねない。

実際、この現象は第7章の社会的孤立グループにおいて非常に似た現象が見てとれ、社会的孤立グループは孤立状態が非常に高く、困った時に相談できる人数が3人未満という非常に孤立した状態に置かれており、人生の満足度も低く、将来への不安も非常に高かった。各章の実験の被験者となった大学生のメタ分析から得られた第6章の結果は、孤立は孤独を強め、また、それらは人生の満足度と幸福度を減らし、孤独は将来への不安を募らせることを示した。孤立や孤独は将来の不安と人生の満足度の低下と相関があり、これは孤立と孤独が鬱や精神疾患、何らかの心理ダメージを人に与えていることに他ならない。孤立や孤独に端を発する鬱やそれを起因とする自殺を防ぐためにも、孤立や孤独の防止、特に、失業者、生活保護受給者、母子（父子）家庭、ひきこもり、不登校からなる社会的孤立グループを救済することが、これらの予備群を防止することにつながる。

このような社会的孤立グループを救うために考えられているセーフティネットのデザインとして本研究では低所得者向けの貯蓄優遇政策について検証した。このアイデアは近年のイギリスとアメリカで導入が試験的に始まっている。低所得者向けの貯蓄優遇政策をセイビング・ゲイトウェイと呼び、彼らの子供たちの進学補助のための貯蓄優遇制度をチャイルド・トラストと呼ぶ。また、崩壊の兆しのある年金の代替策としてのベーシックインカムと呼ばれる、政府が積み立てを行わず、代わりに、毎月一定額を現金支給する制度と、これらの制度のポリシー・ミックスを、貯蓄率の観点から第8章で検証した。

第9章 非自発的孤立・無縁ゼロ社会に向けての提言

所得500—700万の現役の会社員を対象としたアンケート結果から、セイビング・ゲイトウェイに比べてチャイルド・トラストの貯蓄率は同じ金利でも低くなった。セイビング・ゲイトウェイとしては自己のために使える利便性が高い、貯蓄を崩せる時期が3年と5年の方式および所得が300万を超えた時と結婚時のボーナス方式が貯蓄率が相対的に高くなるのに対して、失業時に貯蓄を崩せる場合は、貯蓄率が低く抑えられた。この結果を社会的孤立グループと比べると、チャイルド・トラストでの貯蓄率は低くなり、社会的孤立グループが自身の子供の進学のためにより貯蓄にお金を回すことが分かった。

一方で、生活保護時の給与所得を生活保護の減額ではなく貯蓄に回す政策については、自治体によって貯蓄に回される許容率は、社会的孤立グループが最も高い値を示し、生活保護からの自立のために貯蓄にお金を回す意思が一番高いことが分かった。これは、彼らが自身の生活から自分の労働努力で抜け出したいと考えており、また、自分の環境に屈することなく子供に高等教育を受けさせるための準備にお金を投資したいと考えていることを表している。

一方で、現役の会社員は既存の社会保障で守られているため、生活保護や失業時の貯蓄政策には、現状で窮している社会的孤立グループよりも貯蓄率は低くなった。しかし、既存の会社員からは、貯蓄優遇政策のみのときには貯蓄率が低く抑えられた失業時に備えた貯蓄と子供の大学進学に備えた貯蓄が、ベーシックインカムとこれらの貯蓄優遇政策が年金に代わって運用され、その支給額が5万円以上の時に、単体運用よりも大きく伸びることが分かった。年金に代わるベーシックインカムの導入は現役世代が自身の将来や子供の将来に備えて貯蓄する率を上げるとは、年金が自身の将来への貯蓄に対して、ベーシックインカムが自分で現在の消費と将来への自分と子供の貯蓄の割合を選べるオプションを提供してくれることを示している。

孤立は、自ら望むものであって、孤独を伴わないものであれば、問題ないという意見も聞かれるが、本研究の成果は、孤立が孤独と密接に関係しており、そして、孤立は個人の心理的資質ではなく、社会制度や環境によって導かれることを示した。そして、孤立は鬱や自殺の起因となる将来への不安や人生の満足度や幸福と信頼の減退を招いて、社会的動物としての人々に心理的負担をかける。そして、この傾向は社会的に孤立している人々に特に強い。彼らは現状打破のために必要な貯蓄優遇政策を最大限活用して、よりよい生活を得ようとする傾向にあり、その貯蓄率を増やす傾向にある。特に、自分自身の生活だけではなく、自分の子供の進学に対してその傾向が著しい。ベーシックインカムは年金に代わるものではなく、浪費を生み出し、計画的な貯蓄を推進しないという意見もあるが、現役の会社員を対象としたアンケート結果は、むしろ、自分と子供のための将来投資である貯蓄を、ベーシックインカムからの所得増加の一部を割り当てる形で、増加させることが分かった。年金が自己の将来貯蓄にしかならないのに対して、ベーシックインカムは自分（現役世代）と子供（将来世代）の貯蓄を自分で決定できるという側面を持っていることが本研究から示された。

以上の結果をまとめると、孤立と孤独を抑止し、社会的孤立グループを孤立から脱却させるためには、低所得者向けの貯蓄優遇政策は非常に有効であると考えられる。優遇利子率は1%であっても十分効果はあり、そのときの貯蓄率は、現役の会社勤めの人々などよりも高い。ベーシックインカムは7～8万が期待されており、その額であれば、現役の会社員達がいざという失業や結婚のときのために備える貯蓄率や自分の子供の進学のために備える貯蓄率をも十分にあげられる。また、現役の会社勤めの人々がワークシェアで奪われても致し方ないと考える割合は22%と自己の現在の貯蓄率よりも高く、自身に向ける将来投資額よりも、他者の現在を指させることに向ける投資額の方が高いことを示している。これを応用するならば、ワークシェアを利用して、

社会的孤立グループに仕事を分け与え、その給与の一部を自治体が優遇利子率で非課税で貯蓄に回し、彼らが生活保護を脱したり、所得が300万円などの一定額に達したり、子供が高校もしくは大学に進学したりした時に還元する方式が、彼らの労働意欲と社会的孤立脱出の手助けとなることが期待される。そして、このシステムは、所得が減ることから既存の労働者に嫌悪されがちなワークシェアの概念を変え、社会共存の新しいセーフティネットとして社会に許容され、共有されるシステムとなるだろう。人は社会的動物として他者を支え、助ける動機があり、本研究はそれを示しており、そして、人は社会的動物として、孤立から抜け出し、社会に復帰しようとする動機がある。人の社会への包摂は、孤立に陥っている人の社会復帰のコスト負担を社会としてどのように請け負うかにかかっている。本研究の結果は、それに対する一つの道筋を示すものと考ええる。

参考文献

- 岩田正美 (2008) 『社会的排除—参加の欠如・不確かな帰属』 有斐閣 Insight、有斐閣。
斎藤環 (2002) 『「ひきこもり」救出マニュアル』 PHP 研究所。
ジョン・T・カシオポ、ウィリアム・パトリック、(翻訳：柴田裕之) (2010) 『孤独の科学—一人はなぜ寂しくなるのか』 河出書房新社。
高橋知里・山岸俊夫・橋本博文 (2009) 「集団からの排除と相互協調的自己呈示」『社会心理学研究』 25(2)、113-120
藤森克彦 (2010) 『单身急増社会の衝撃』 日本経済新聞出版社。

- Akira Okada, Arno Riedl, (2005). “Inefficiency and social exclusion in a coalition.” *Games and Economic Behavior* 50, 278-311.
Knack, S., Keefer, P., (1997), “Does social capital have an economic payoff?” *Quarterly Journal of Economics* 112, 1251-1273.
Martin Kocher, Sabine Strauß, Matthias Sutter, (2006). “Individual or team decision-making —Causes and consequences of self-selection.” *Games and Economic Behavior* 56, 259-270.
McFadden, D. (1974). “Conditional logit analysis of qualitative choice behavior.” *Frontiers in Econometrics* (P. Zarembka, Ed.), 105-142, Academic Press, New York.
Naomi I. Eisenberger, Matthew D. Lieberman¹ and Kipling D. William, (2003). “Does Rejection Hurt? An fMRI Study of Social Exclusion.” *Science* 302 (5643), 290-292.
Robert S. Wilson, Kristin R. Krueger, Steven E. Arnold, Julie A. Schneider, Jeremiah F. Kelly, Lisa L. Barnes, Yuxiao Tang, David A. Bennett, (2007). “Loneliness and Risk of Alzheimer Disease.” *Archives of general psychiatry* 64(2), 234.
Sherraden, M (1991). “Asset and the Poor : A New American Welfare Policy,” M.E. Sharpe, Inc.
Zak, P.J., Knack, S., (2001), “Trust and growth,” *Economic Journal* 111, 295-321.

Web サイト

- 内閣府「一人ひとりを包摂する社会」特命チーム (2011)
「第1回会合から第7回会合議事録」
「社会的包摂政策を進めるための基本的考え方」
「社会包摂政策に関する緊急政策提言」
<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/housetusyakai/>

サプリメント・マテリアル

第2章の実験インストラクション

インストラクション

1. 実験の概要

この実験では皆さんは手紙を郵送する準備に関わる作業を行います。皆さんはこの作業を一人で行うのか、他の人と二人で行うのかを決めます。作業終了後、作成した手紙の枚数に応じて報酬が支払われます。

2. 被験者番号

皆さんには被験者番号が割り当てられます。被験者番号はこのインストラクションの右上に書かれています。この被験者番号は皆さんの意思決定を追跡することのみに使われます。皆さんは他の被験者の被験者番号を知ることができませんし、他の被験者も皆さんの被験者番号を知ることが出来ません。

3. 作業内容

このインストラクションの後で、皆さんは手紙を郵送する準備に関わる作業をします。実験者は皆さんに一人で作業をするのか、他の人と二人で作業をするのかを尋ねます。皆さんは実験者から配られた意思決定用紙に、どちらを希望するのかを記入してください。

次に、実験者は二人での作業を希望した人を集めて、くじを使って一緒に作業する相手を決めます。ただし、希望者が奇数の場合には、くじで外れた1名には、一人で作業をしてもらいます。

次に、実験者は二人での作業を希望した人を集めます。二人での作業を希望する人はこの集められた人の中から一緒に作業したい相手を選んでください。相手を選ぶときには、「一緒にやりませんか?」とだけ声をかけてください。かけられた相手は承諾するならば「はい、お願いします」、断る場合には「すみません」とだけ伝えて下さい。これ以外の会話は禁止します。相手を決める時間は1分です。相手が決まらない場合には、一人で作業をしてもらいます。

4. 手紙の作り方

手紙の作り方の詳細について説明します。別紙の作業説明書を見てください。

(ここから再開) 手紙を作るための時間は5分です。実験者が「止めてください」と言ったとき、皆さんは全ての行動を中断し、残った全ての紙や封筒を机の上において下さい。「止めてください」と言われたときに箱に入れられていない手紙は無効となります。

作業に入る前に、手紙の作り方について作戦を練る時間を1分間与えます。二人で作業する人はお互いに話し合っても構いませんし、お互いの座る席を変えても構いません。ただし、どの被験者も手紙を作るための下準備や練習、および、箱の位置の変更は禁止します。

二人で手紙を作っている間に、作業に必要なならば会話をしても構いません。ただし、必要以上

■ サプリメンタル・マテリアル

に大きな声での会話などは禁止します。

5. 報酬

作業終了後、実験者は箱に入っている手紙が正しく作られているかどうかを確認します。正しく作られた手紙1通につき100ポイントが与えられます。1ポイントは0.5円なので、正しい手紙1枚につき50円が得られます。一人で手紙を作った人は、正しく作った手紙の枚数×100ポイントをそのまま受け取ることができます。自分が正しく作った手紙の数と報酬ポイントが書かれた報酬決定用紙が実験者から配られますので、確認してください。

二人で手紙を作った人は、この報酬として与えられたポイントを二人でちょうど半分ずつ分け合います。自分たちが正しく作った手紙の数と各自に分けられた報酬ポイントが書かれた報酬決定用紙が実験者から各自に配られますので、それを確認したら、各自、報酬決定用紙を持って、自分の元の席に戻ってください。

二人で手紙を作った人は、自分たちが正しく作った手紙の数と報酬ポイントが書かれた報酬決定用紙が実験者から各自に配られますので、この報酬ポイントをどうやって分けるかを二人で相談して決めてください。報酬は余りなく整数で分けて下さい。相談が終わったら、報酬決定用紙に各自の報酬ポイントを記入してください。また、報酬ポイントをどのように分けたかについても記入してください。記入を終えたら、各自、報酬決定用紙を持って自分の元の席に戻ってください。なお、1分以内に相談が終わらない場合にはコイン・トスで決めます。

実験は以上と同じ流れで10回繰り返されます。あなたは各回の初めに、この作業を一人であるのか、二人であるのかを毎回決めます。10回の作業で稼いだ合計額があなたの報酬総額となります。報酬は実験終了後にまとめて現金で支払われます。

以上が実験の説明です。被験者の皆さんは実験者が指示しない限り、お互いにコミュニケーションをとらないでください。実験中に何か問題が起きた場合は静かに手を挙げてください。なお、実験の目的や実験中に取りべき行動などに関する質問、また、これらを誘導するような質問は禁止します。

第3章の実験インストラクション

実験に関する説明

会話の禁止

被験者の皆さんは実験者が指示しない限り、お互いに会話したりコミュニケーションをとったりしないでください。また、実験者には私的に話しかけないで下さい。体調不良や緊急の用件がある場合のみ静かに挙手して下さい。

実験内容

今から行う実験は、同じ部屋の被験者との間で行われます。あなたはこの部屋の他の3人の被験者と無作為に組み合わせられ、グループが作られます。そして、あなたには以下の2つの選択肢が与えられます。

選択肢A：あなたは同じグループの他の3人とで4000円を話し合いによって分ける。

選択肢B：あなたはX円を受け取り、他の3人は3000円を話し合いによって分ける。

選択肢Aを選んだ場合には、自分のグループの他の3人と顔を合わせて、4000円をどのような方法で誰にいくら分けるかの話し合いを行います。話し合いの時間は6分間です。6分以内に決まらない場合には4000円は没収され、誰もお金を得ることができません。

選択肢Bを選んだ場合には、あなたは他の3人と会うことなく、また、他の3人から特定されることもなく、一人でX円を受け取ります(X円の額については後で説明します)。一方で、あなた以外の3人は3000円を分けるための話し合いを行います。話し合いの時間は6分間です。6分以内に決まらない場合には3000円は没収され、あなた以外の3人は誰もお金を得ることができません。話し合いの間、選択肢Bを選んだ人は他の人にわからないように待機します。

同じグループの人が誰になるかは、実際に会うまで知ることはできません。ただし、あなたが選択肢Bを選んだ場合、あなたは他の3人に会うことはありません。また、他の3人も選択肢Bを選んだ人が誰であるのかを知ることはできません。

実験中でのお金のやり取りは全てコンピューターを通して行われます。話し合いではどのような方法で誰にいくら額を分けるのかのみを決め、実際に皆さんが現金を直に手にして、やり取りすることはありません。実験終了後、最終的に決定した報酬のみが現金で皆さんに手渡されます。

今から皆さんは表1を用いて、以上の意思決定を行います。表1を見て下さい。表1の設問1から21には、選択肢Bを選んだときにもらえるX円の額が書かれています。例えば、11番の設問においてはXの額は500ですので、選択肢Bを選んだときに、あなたがもらえる額は500円です。

あなたは設問1から21番までの全てにおいて、選択肢AとBのどちらを選ぶかを決めなければなりません。実験者が「始めて下さい」と言ったら、表1がコンピューター画面に表示されますので、全ての設問において、どちらの選択肢を選ぶのかをコンピューターの画面に入力して下さい。制限時間は3分です。

全員が入力を終わると、コンピューターは次の作業を自動的に行います。まず、無作為に同室の4人の被験者を組み合わせます。次に、コンピューターは、そのうちから1人の被験者と、1～21番の設問のうちどれか1つを無作為に選びます。そして、選ばれた設問番号における、選ば

■ サプリメンタル・マテリアル

れた被験者の選択肢に従って次の過程に移ります。もし、無作為に選ばれた被験者がその設問で選択肢Aを選んでいたら、4人で4000円を分ける過程に移ります。一方で、その被験者が選択肢Bを選んでいたら、その被験者はX円をもらい、その他の3人の被験者で3000円を分ける過程に移ります。このとき、この被験者は選択肢Bを選んでいるため、他の3人には会うことはありません。さらに、他の3人から特定されることもありません。

例えば、あるグループにおいて、コンピューターによって設問番号11番が選ばれたとします。そして、このグループの中で無作為に選ばれた被験者が選択肢Aを選んでいた場合には、このグループは4人で4000円を分ける話し合いを行います。一方で、この被験者が選択肢Bを選んでいた場合には、この被験者は他の3人とは会わずに、また、他の3人から特定されないように500円を受け取ります。そして、その他の3人が3000円を分けるための話し合いを行います。

以上で実験の説明は終わりです。それでは実験を開始します。

表 1

設問番号	Xの額	A	B
		あなたは同じグループの他の3人とで4000円を話し合いによって分ける	あなたはX円を受け取り、他の3人は3000円を話し合いによって分ける
1	0		
2	50		
3	100		
4	150		
5	200		
6	250		
7	300		
8	350		
9	400		
10	450		
11	500		
12	550		
13	600		
14	650		
15	700		
16	750		
17	800		
18	850		
19	900		
20	950		
21	1000		

第4章の実験インストラクション

インストラクション

会話の禁止

被験者の皆さんは実験者が指示しない限り、お互いに会話したりコミュニケーションをとったりしないでください。また、実験者には私的に話しかけないで下さい。体調不良や緊急の用件がある場合のみ静かに挙手して下さい。

実験の概要

この実験は2つのパートから成ります。パート1では皆さんは独りで実験に参加する権利の入札を行います。パート2では、パート1の落札の結果に従って、経済的な意思決定を独りもしくはペアで実施します。パート2の経済的な意思決定の勝者は賞金を得ることができます。皆さんの最終的な報酬はパート1とパート2の報酬に、実験への参加報酬額を加えた額となります。

パート1

このパートでは、皆さんは次のパート2における経済的意思決定をペアではなく独りで行う権利の入札を行います。この権利を落札した人のみが、次のパート2で、ペアではなく独りで経済的意思決定を行うことができます。落札できなかった人は、この経済的意思決定をペアとなって二人で行います。パート2の経済的意思決定の方法は後で詳しく説明します。

入札の方法は次の通りです。パート1の開始時に皆さんには500円が実験者から渡されます。ただし、この500円は皆さんに直接渡されず、実験者の手元に保管されます。皆さんはこの500円を用いて、パート2での経済的意思決定を独りで行うための入札に参加します。

皆さんはパート1が始まりましたら、パート2の経済的意思決定をペアではなく独りで行うために払ってもよいと考える額を1から500円の間から選んで、自分のコンピューターに入力して下さい。それがあなたの入札額となります。入札は2分以内に行ってください。

落札者は次のように決まります。まず、本日は25人（20人）が集まりましたので、落札者となることができるのは5人（4人）です。コンピューターは皆さんの入札額を高い順に並べます。そして、上から6番目（5番目）の入札額を落札価格とします。この落札価格以上の入札額を入力している5人（4人）が落札者となります。落札価格以上の入札額を提示している人が5人（4人）を超える場合、それらの価格の中で最も低い入札額を提示している人達のうち誰かがコンピューターによってランダムに振るい落とされ、落札者は5人（4人）に絞られます。全ての落札者が落札価格を支払います。落札者とならなかった人はお金を支払う必要はありません。

落札者はこのままこの部屋に留まり、独りでパート2の経済的意思決定に参加します。落札者とならなかった人は、この部屋を出て隣の部屋に行き、そこでペアを組んで、二人で経済的意思決定に参加します。落札者と落札しなかった人は、このパート終了後に会うことはありません。また、誰が落札者であったのかが他の人に知られることはありません。

パート2

まず、このパートではパート1で落札者とならなかった人はペアとなります。皆さんはペアを自分で決めます。実験者は皆さんを一カ所に集めますので、皆さんは自分でペアの相手を選んで下さい。話したりしても構いません。ただし、報酬に関する提案はしないでください。また、無

■ サプリメンタル・マテリアル

理強い禁止です。相手を決める時間は5分です。

皆さんが行う経済的意思決定は次の通りです。皆さんは目の前のコンピューターに0から100の中から数字を選んで入力します。数字を選ぶ時間は2分です。落札者は自分独りで数字を決めることができますが、ペアの人は二人で1つの数字しか選ぶことができません。つまり、1つのグループにおいては3つの数字が提出されます。

コンピューターはこの3つの数字の平均に2/3をかけた数字を出力します(小数点以下2桁は四捨五入されます)。この出力された数字に最も近い数字を出した人(もしくはペア)が勝者となり、600円の賞金を受け取ることができます。もし、この出力された値に近い数字が複数あった場合には、600円はその数で割られ、賞金はその数字を出している人(もしくはペア)に均等に配分されます。つまり、同じ数字が2つの場合には、300円ずつ、3つの場合には200円ずつが配分されます。

このような経済的意思決定がグループ内の構成単位である1人とペア2組はそのまま、その組合せだけがランダムに変えられながら、5回繰り返されます。独りで数字を選ぶ落札者は5回の賞金の合計額がそのまま自分の報酬として手元に入ります。ペアで意思決定する組には各回の賞金の2倍の額が一時的に与えられ、累積されますが、ペア内の各自の最終的な報酬は次のように決まります。

ペア内の各自の報酬額は、二人で相談して決めてください。相談時間は5分です。賞金は余りなく整数で分けて下さい。相談が終わったら、コンピューターに各自の報酬を記入してください。5分以内に決まらない場合にはランダムにどちらかの意見が採用されます。

皆さんには、1回目の開始前に、戦略を練る時間として3分が与えられます。この間に落札者の人は独りで戦略を練ります。ペアの人は相談しても構いません。

この実験で支払われる報酬は、パート1の報酬とパート2の報酬の合計額に、実験を最後まで行った謝礼としての1000円を加えた合計額です。

以上が実験の説明です。この説明には嘘・偽りは一切ありません。実験中に何か問題が起きた場合は静かに手を挙げて下さい。なお、実験の目的や実験中に取りべき行動などに関する質問、また、これらを誘導するような質問は禁止します。

第5章の実験インストラクション

実験に関する説明

会話の禁止

被験者の皆さんは実験者が指示しない限り、お互いに会話したりコミュニケーションをとったりしないでください。また、実験者には私的に話しかけないで下さい。体調不良や緊急の用件がある場合のみ静かに挙手して下さい。

被験者

被験者の皆さんには被験者番号が自動的に割り当てられます。被験者番号は自分のパソコンの右上の部分に表示されます。この被験者番号は皆さんの意思決定を追跡することのみに使われます。被験者の皆さんは他の被験者の被験者番号を知ることができませんし、他の被験者も皆さんの被験者番号を知ることが出来ません。

他の部屋にもこの実験に参加している被験者がいます。実験者は一方の部屋を部屋Xと呼び、もう一方の部屋を部屋Yと呼びます。どちらの部屋がXもしくはYになるかは実験開始時に決められます。部屋Xにいる被験者の被験者番号はXから始まり、部屋Yの被験者の被験者番号はYから始まります。実験者はどちらの部屋の被験者に対しても同じ説明書を用いて実験の説明を行います。

実験内容

実験開始時に、コンピューターは部屋Xの人と部屋Yの人をそれぞれ一人ずつ無作為に組み合わせます。そして、部屋XとYの両方の人に1000円が与えられます。部屋Xの人はこの与えられた1000円のうちいくらでも好きな額を同じ組の部屋Yの人に送ることができます。送る額は0円以上で1000円以下の1円単位で決めて下さい。

部屋Xの人が送った額は3倍にされ、同じ組の部屋Yの人に渡されます。部屋Yの人は、この渡された額（部屋Xの人が送った額の3倍）のうち、いくらでも好きな額を部屋Xの人に送り返すことができます。送り返す額は0円以上で部屋Xの人が送った額の3倍以下の1円単位で決めて下さい。部屋Yの人が部屋Xの人に送り返した額は3倍にはなりません。また、部屋Yの人は自分が実験開始時に与えられた1000円を使うことはできません。

部屋Xの人の報酬は、最初の1000円のうち部屋Yの人に送らずに、自分の手元に残した額と部屋Yの人から送り返されてきた額の合計額です。一方で、部屋Yの人の報酬は、部屋Xの人に送り返さずに、自分の手元に残した額と、実験開始時に与えられた1000円との合計額となります。

実験中でのお金のやり取りは全てコンピューターを通して行われ、皆さんが現金を直に手にすることはありません。実験終了後、最終的に決定した報酬のみが現金で皆さんに手渡されます。皆さんの意思決定は自分の組の中の人だけに影響し、自分の組以外の人には無関係です。自分が誰と組んでいるのかについては知らされません。実験終了後、どちらの部屋の被験者も顔を合わせることがないように、時間差を設けて、実験室から退席します。

実験者が「始めて下さい」と言ったら、部屋Xの人は、0円以上で1000円以下の範囲で、部屋Yの人に送る額をコンピューターに入力して下さい。制限時間は3分です。部屋Yの人はそのまま静かにお待ち下さい。

部屋Xの人の入力が終わると、部屋Yの人の手番になります。部屋Yの人には部屋Xの人から

■ サプリメンタル・マテリアル

送られてきた額とその3倍の額がコンピューターに表示されます。部屋Yの人は0円から送られてきた額の3倍以下の範囲で、部屋Xの人に送り返したい額を入力してください。制限時間は3分です。部屋Xの人はそのまま静かにお待ち下さい。

以上で実験の説明は終わりです。それでは実験を開始します。

第6章のアンケート

アンケート

以下の質問に教えてください。なお、時間は十分にありますのであわてずに良く読んで全ての質問に答えて下さい。なお、回答は学術研究に使われますので正直に回答して下さい。

あなた自身について

- あなたの性別は？ 1. 男 2. 女
- あなたの年齢は？ _____ 歳
- あなたの血液型は？ _____ 型
- あなたの知り合いはこの中に何人いましたか？ _____ 人
- あなたはこの実験の参加に際して、何人の人を誘いましたか？ _____ 人
- この大学に入学するために何浪しましたか？（してない人は0と書いてください）
_____ 浪

あなたの大学生活について

- あなたの大学での所属は？ _____ 学部・研究科（修士・博士） _____ 年
- あなたが大学で所属している部活・サークルの種類と、そこでのあなたの1ヶ月間での平均的な活動時間を記入してください。

文科系サークル _____ 時間

体育会系サークル（部） _____ 時間
- あなたが大学の友人や関係者などと授業時間とサークル活動以外で過ごす時間は1日どのくらいですか？
_____ 時間
- 上記の大学の活動も含めて、下記の各活動の1ヶ月間での平均的な活動時間を記入してください。参加していない場合には0と記入してください。

アルバイト _____ 時間

スポーツ活動 _____ 時間

音楽・芸術活動 _____ 時間

■ サプリメンタル・マテリアル

ボランティア _____ 時間

政治活動 _____ 時間

宗教活動 _____ 時間

旅行 _____ 時間

11. あなたは困ったときに相談できる人が何人いますか？ _____ 人

12. あなたは一人である時間は一日どのくらいですか？ ただし、睡眠時間を除いて下さい。

_____ 時間

13. あなたが一日にメールやインターネットをする時間はどのくらいですか？

_____ 時間

14. あなたが一日に携帯電話で話す時間はどのくらいですか？

あなたと家族の繋がり

15. 高校卒業までどこで暮らしていましたか？ _____ 県 _____ 市・町・村

16. 大学入学まで両親と暮らしていましたか？ 1. はい 2. いいえ

17. 今、自分の家族と暮らしていますか？ 1. はい 2. いいえ

18. 今、何人で生活していますか？ _____ 人

19. あなたの家族構成についてお尋ねします。現在、家族の中にいる人に○を付けてください。

- | | |
|-------|-------|
| 1. 祖母 | 2. 祖父 |
| 3. 父 | 4. 母 |
| 5. 兄 | 6. 姉 |
| 7. 弟 | 8. 妹 |

20. あなたはどのくらいの頻度で家族の人と話しますか？（電話やメールなどでのやり取り時間も含めます）

- | | |
|-------------|------|
| 1 毎日 | 2 毎週 |
| 3 毎月 | 4 毎年 |
| 5 年に1度より少ない | |

21. どのくらいの頻度で親に会いますか？

- | | |
|----------------|--------------|
| 1 毎日もしくは毎週 | 2 だいたい毎月 |
| 3 だいたい2ヶ月に1回程度 | 4 1年に数回 |
| 5 1年に1, 2回 | 6 1年に1回より少ない |

あなたの経済的背景

22. あなたの両親あるいは保護者の総所得はいくらぐらいですか？

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1 300万円未満 | 2 300万円－500万円未満 |
| 3 500万円－700万円未満 | 4 700万円－1000万円未満 |
| 5 1000万円－1500万円未満 | 6 1500万円以上 |

23. あなたは1ヶ月にいくらぐらい稼ぎますか？

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1万円未満 | 2 1万円－5万円未満 |
| 3 5万円－10万円未満 | 4 10万円－15万円未満 |
| 5 15万円－20万円未満 | 6 20万円以上 |

24. あなたが家族や親類から受けている経済的援助の額は1ヶ月間でいくらですか？

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1万円未満 | 2 1万円－5万円未満 |
| 3 5万円－10万円未満 | 4 10万円－15万円未満 |
| 5 15万円－20万円未満 | 6 20万円以上 |

25. あなたが家族や親類以外から受けている経済的援助の額は1ヶ月間でいくらですか？

- | | |
|---------------|---------------|
| 1 1万円未満 | 2 1万円－5万円未満 |
| 3 5万円－10万円未満 | 4 10万円－15万円未満 |
| 5 15万円－20万円未満 | 6 20万円以上 |

あなたの政治的・宗教的背景

26. あなたの支持する政党は？

- | | |
|-------|--------|
| 1 民主党 | 2 自民党 |
| 3 社民党 | 4 国民新党 |
| 5 公明党 | 6 共産党 |
| 7 その他 | 8 特に無し |

27. あなたの信じる宗教は？

- | | |
|---------|---------|
| 1 仏教 | 2 キリスト教 |
| 3 イスラム教 | 4 神道 |
| 5 その他 | 6 特に無し |

■ サプリメンタル・マテリアル

健康・ギャンブル・喫煙

28. 今何かの病気にかかっていますか？ はい いいえ

29. 大きな病気で過去に1週間以上入院したことがありますか？ はい いいえ

30. あなたは1日にどのくらい喫煙しますか？（なければ0と記入してください）

_____本

31. あなたは1週間にどのくらいの頻度で飲酒しますか？

1. 毎日飲酒している
2. 週間に2～3回は飲酒している
3. 週間に1回かそれより少ない
4. 飲酒はしない

32. あなたは1ヶ月にいくらぐらい賭け事にお金を賭けますか？（なければ0と記入してください）

_____円

33. 身近な人の死に直面したことはありますか？ はい いいえ

34. あなたは慈善活動に一年間でどのくらい寄付しますか？

_____円

35. ここ1週間の間、眠れていますか？

1. よく眠れている
2. あまり眠れていない
3. 全く眠れていない

孤独感尺度

次の質問の当てはまるところの数字に○をつけてください。

36. 私は自分の周囲の人たちと調子よくいっている。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

37. 私は、人とのつきあいがいい。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

38. 私には、頼りにできる人が誰もいない。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
39. 私は、ひとりぼっちではない。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
40. 私は、親しい仲間達のなかで欠くことのできない存在である。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
41. 私は、自分の周囲の人たちと共通点が多い。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
42. 私は、今、だれとも親しくしていない。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
43. 私の興味や考えは、私の周囲の人たちとちがう。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
44. 私は、外出好きの人間である。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
45. 私には親密感の持てる人たちがいる。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |
46. 私は、無視されている。
- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

■ サプリメンタル・マテリアル

47. 私の社会的なつながりはうわべだけのものである。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

48. 私をよく知っている人はだれもない。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

49. 私は、他の人たちから孤立している。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

50. 私は、望むときにはいつでも、人と付き合うことができる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

51. 私には、私を本当に理解してくれる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

52. 私は、たいへん引っ込み思案なのでみじめである。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

53. 私には、知人はいるが、私と同じ考えの人はいない。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

54. 私には、話しかけることのできる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

55. 私には、頼りにできる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

シャイネス

次の質問の当てはまる場所の数字に○をつけてください。

56. 初対面の人と会うことが、たびたびつらくなる。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

57. たびたび、落ち込んだり、悲しくなったりする。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

58. 人前で、自分の意見を言うことが、非常にむずかしいときがある。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

59. たとえ友達でも、自分のことをあまり知ってほしくないと思う。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

60. 自分は周囲の人達とはなじめない人間であると見られているように思う。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

61. 他人のいるところで、何か考えることは難しい。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

62. 自意識過剰である。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

63. 新しい友達をつくることは、困難である。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いえない	はい	
1	2	3	4	5

■ サプリメンタル・マテリアル

64. 周囲の人たちから孤立していると思うことが、たびたびある。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いけない	はい	
1	2	3	4	5

65. たとえ自分の意見を言うことが必要なときでも、そうすることはむずかしい。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いけない	はい	
1	2	3	4	5

66. 周囲の人たちのほとんどは、本当の自分を知らないと思う。

いいえ	どちらかといえば	どちらとも	どちらかといえば	はい
	いいえ	いけない	はい	
1	2	3	4	5

対人信頼

次の質問の当てはまる場所の数字に○をつけてください。

67. たいていのセールスマンは、自分が売ろうとする製品の良い点と悪い点を正直に言う。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

68. 大多数の学生は、カンニングをして見つからないことがわかっている場合でも、カンニングはしない。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

69. 私たちの社会では、みせかけの善意や善行がふえている。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

70. もっとすぐれた人物に政治をまかせないと、わが国の将来は暗いものになる。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

71. 親は、たいてい、約束したことは必ず守る。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

72. 法廷は、だれもが公正な扱いを受けることのできる場所である。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

73. 試験のときに監督者がいなければ、おそらく、カンニングがふえるだろう。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

74. 国際連合は、世界平和を守る有効な力には決してならないだろう。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

75. 自分たちが見たり聞いたりしているニュースがどんなにゆがめられたものであるかを知ったら、みんな不快に思うだろう。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

76. 親は、罰すると言ったことは、必ず罰する。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

77. たいていの修理屋は、客が修理の内容について無知であっても、不当に高い代金を請求することはない。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

78. 新聞、ラジオ、テレビなどの報道では、世の中の出来事の正確な説明は行われていない。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

79. 世の中は、この先、バラ色である。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

■ サプリメンタル・マテリアル

80. ほとんどの政治家は、選挙のときに約束したことを忠実に実行する。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

81. 専門家というものは、自分が知らないことはすなおに知らないと認めるものである。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

82. 保険会社に対する事故賠償請求の内容の大部分はいんちきなものである。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

83. ほとんどのスポーツ競技大会は、はじめから、だれが勝つかは決まっている。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

84. 競争時代の現代では、だれかが自分を利用しようとしているので、ゆだんしてはいけない。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

85. 理想主義者は、誠実で、自分の主張をたいてい実行する。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

86. 国際政治の舞台裏で行われていることを知ったら、だれもが今以上に驚くのはもっともなことである。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

87. 大多数の人々は、世論調査には正直に回答している。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

88. たいていの人は、口先ではうまいことを言っても、結局は自分の幸せにのみ関心があるものである。

そう思わない	やや	どちらとも	やや	そう思う
	そう思わない	いけない	そう思う	
1	2	3	4	5

89. たいていの人は、自分がすると書いたことは、まちがいに実行する。

そう思わない	やや そう思わない	どちらとも いけない	やや そう思う	そう思う
1	2	3	4	5

90. 初対面の人には、その人が信頼できることがはっきりとするまでは、用心深くしたほうがよい。

そう思わない	やや そう思わない	どちらとも いけない	やや そう思う	そう思う
1	2	3	4	5

91. ほとんどの人々が法律を破らないのは、良心のためというよりも社会的な非難や罰を受けるのがこわいからである。

そう思わない	やや そう思わない	どちらとも いけない	やや そう思う	そう思う
1	2	3	4	5

相互依存

次の質問の当てはまるどころの数字に○をつけてください。

92. 自分が関係している権威ある人々に対して、尊敬心を抱いている

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いけない	やや あてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

93. 自分のグループ内の調和を保つことは重要である

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いけない	やや あてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

94. 自分が幸せかは、周りの人が幸せかどうかで決まる

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いけない	やや あてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

95. バスの中では教授に席を譲る

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いけない	やや あてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

96. 謙虚な人を尊敬する

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いけない	やや あてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

■ サプリメンタル・マテリアル

97. 所属するグループのためなら、自分の利益を犠牲にする

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

98. 自分の成績より、他の人との関係の方が大事だと感じることもある

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

99. 教育や職業について計画する時は、両親の助言を考慮すべきである

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

100. グループで決めたことを尊重するのは大切なことである

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

101. 自分がグループに必要とされている場合、そのグループに不満があっても、抜けたりしない

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

102. 自分の兄弟姉妹が失敗したら、責任を感じる

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

103. グループのメンバーの意見に強い異論を持っていても、議論は避ける

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

104. 誤解されるおそれがあるなら、「ノー」と言う方がいい

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

105. 授業中はっきりと発言することに抵抗はない

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

106. 生き生きとした想像力を持つことは、私にとって重要である

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

107. 特別に選ばれて褒められたり褒美を受けたりすると満足感を覚える

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

108. 学校での私は家での私と何ら変わらない

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

109. 自立できるようになることが、私の最大の関心事である。

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

110. 誰と付き合うときでも同じように振舞う

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

111. 人と知り合いになったら、それが自分より年上の人でも、すぐにファーストネームで呼びたくなる

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

112. 知り合ったばかりの人でも、遠慮せず率直に付き合うのが好きだ

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

113. 色々な面で、他の人と違った「ユニークな人」でいるのが好きだ

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

114. 他人に左右されない自分自身のアイデンティティは、私にとって非常に重要である

あてはまらない	あまり	どちらとも	やや	あてはまる
	あてはまらない	いけない	あてはまる	
1	2	3	4	5

■ サプリメンタル・マテリアル

115. 健康でいることは何よりも大切だ

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも いけない	やや あてはまる	あてはまる
1	2	3	4	5

次の質問のうち当てはまると思うものに○をつけてください。

116. 大抵の人は、隙あらばあなたを利用しようとしていると思いますか、それとも公平であろうとしていると思いますか？

1：自分を利用しようとしている 2：公平であろうとしている

117. 人は大抵の場合、協力しようとするでしょうか、それとも自分ことだけ考えようとするでしょうか？

1：協力しようとする 2：自分のことだけ考えようとする

118. 一般的に言って、大抵の人は信頼できると思いますか？ それとも人と付き合うときは、用心するに越したことはないですか？

1：大抵の人は信頼できる 2：用心するに越したことはない

次の設問に答えてください

119. あなたはある実験に参加していると想像してください。その実験では、あなたは見知らぬ誰かと二人一組になります。あなたは、実験者から与えられた1000円を二人の間で分ける役割を実験者から与えられました。相手はあなたが分けた額を断ることはできません。あなたはこの1000円をどのように分けますか？ 余りがでないように分けてください。

あなた _____ 円 相手 _____ 円

120. あなたはある実験に参加していると想像してください。その実験では、あなたは見知らぬ誰かと二人一組になります。あなたの相手は、実験者から与えられた1000円を二人の間で分ける役割を実験者から与えられました。ただし、あなたは相手が分けた額を断ることができます。あなたが断った場合、実験者はこの1000円を取り上げて、あなたも相手もお金を得ることはできません。このとき、あなたに配分される額がいくら以上ならあなたは承諾しますか？

あなたが承諾する限界の額 _____ 円

121. あなたはある実験に参加していると想像してください。その実験では、あなたは見知らぬ誰かと二人一組になります。あなたは、実験者から1000円が与えられます。あなたは、0円以上で1000円以下のいくらでも好きな額を相手に送ることができます。あなたが送った額は実験者によって3倍にされ、相手に渡されます。相手は0円以上であなたが送ってきた額の3倍以下のいくらでも好きな額をあなたに送り返すことができます。このときあなたは相手にいくら額を送りますか？ また、相手からいくら送られてくることを期待しますか？

あなたが送る額 _____ 円 相手が送り返してくると期待する額 _____ 円

122. あなたはある実験に参加していると想像してください。その実験では、あなたは見知らぬ誰かと二人一組になります。あなたの相手は次の2つの選択肢のどちらかを選びます。そして、あなたの相手が選んだ選択肢によって二人の報酬が決まります。

選択肢1：あなたは500円を受け取り、相手は1500円を受け取る。

選択肢2：あなたは1500円を受け取り、相手は500円を受け取る。

ただし、あなたの相手は上の選択肢に何が書いてあるのかわかりません。相手を知ることができるのは、唯一あなたから伝えられたメッセージです。あなたが相手に送れるメッセージは次の2つのどちらかです。

メッセージ1：役割Bの報酬は、選択肢1の方が選択肢2よりも高いです。

メッセージ2：役割Bの報酬は、選択肢2の方が選択肢1よりも高いです。

このとき、あなたはどちらのメッセージを送りますか？ 当てはまるものに○をつけてください。

あなたが送るメッセージ 1 2

123. もう一度このような実験に参加したいですか？ 1. はい 2. いいえ
124. この実験の報酬に満足していますか？ 1. はい 2. いいえ

以上でアンケートは終了です。記入漏れがないかもう一度見直して下さい。

ご協力ありがとうございました。

■ サプリメンタル・マテリアル

第7章のアンケート

アンケート

スクリーニング用

あなたの現在に当てはまるもの全てに○をつけてください。複数選択可

1. 失業中で求職活動中
2. 失業中で求職活動をしていない
3. 休職中
4. 生活保護中（申請中含む）
5. 過去3年以内に生活保護を受給したことがある方
6. 子供が独立していない母子（父子）家庭の子供
7. 子供が独立していない母子（父子）家庭の親
8. 不登校中
9. ひきこもり中
10. ニート
11. どれにもあてはまらない

本調査

1. 次の設問では、あなたはある実験に参加し、見知らぬ誰かと二人一組にされていると想像して、答えてください

あなたには、実験者から1000円が与えられます。あなたは、0円以上で1000円以下のいくらでも好きな額を相手に送ることができます。あなたが送った額は実験者によって3倍にされ、相手に渡されます。相手は0円以上であなたが送ってきた額の3倍以下のいくらでも好きな額をあなたに送り返すことができます。このときあなたは相手にいくら額を送りますか？

あなたが送る額 _____ 円

以下では、あなたが関わり合いを持ったり、付き合いをしても良いと思う集団についておたずねします。質問は下記の例のような表形式で、全部で16問あります。各質問において、AとBの2つの集団の中から、自分が関わり合いを持ったり、付き合いをしても良いと思う集団を一つ選んでください。以下では、下記の例を用いて、各質問の表の見方は以下の通りです。

[例] 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団を一つ選んでください

	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	インターネットで
参加にかかる費用（円）	0円	0円
家からの所要時間（分）	0分	30分
集団の人数（人）	5人	10人
匿名性	あり	なし

注意点

- ・「関係性」は集団とあなたとの関係を表しています。例のように、「親族との付き合い」「学校・職場との付き合い」と、例にはありませんが、「近所・近隣地域との付き合い」が含まれます。
- ・「コミュニケーション方法」はあなたが所属したいと思う集団の人々とどのようにコミュニケーションをとるかです。「直接会って」コミュニケーションをとる場合と「インターネットで」とる場合の2つがあります。
- ・「参加にかかる費用」はあなたが所属したいと思う集団と関わり合いを持ったり、付き合いをするために、毎回かかる費用です。例えば、交通費・会費・参加費などがこの中には含まれます。
- ・「家からの所要時間」はあなたが所属したいと思う集団に参加するために家からかかる時間です。ここでは電車・バスを利用した場合の時間を考えて下さい。
- ・「匿名性」はあなたの本名が秘密にされるのかどうかを表しています。「あり」ならあなたの名前は秘密です。「なし」ならあなたの名前は公開されます。

2. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

1	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	親族との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	直接会って
参加にかかる費用 (円)	0	0
家からの所要時間 (分)	0	30
集団の人数 (人)	5	5
匿名性	あり	あり

3. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

2	集団A	集団B
関係性	学校・職場との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	直接会って
参加にかかる費用 (円)	3000	1000
家からの所要時間 (分)	30	60
集団の人数 (人)	25	15
匿名性	なし	なし

4. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

3	集団A	集団B
関係性	学校・職場との付き合い	近所・近隣地域との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	インターネット上で
参加にかかる費用 (円)	2000	3000
家からの所要時間 (分)	60	30
集団の人数 (人)	15	15
匿名性	なし	なし

■ サプリメンタル・マテリアル

5. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

4	集団A	集団B
関係性	近所・近隣地域との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	直接会って
参加にかかる費用 (円)	1000	2000
家からの所要時間 (分)	60	0
集団の人数 (人)	5	15
匿名性	なし	なし

6. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

5	集団A	集団B
関係性	近所・近隣地域との付き合い	親族との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	インターネット上で
参加にかかる費用 (円)	3000	2000
家からの所要時間 (分)	0	60
集団の人数 (人)	15	25
匿名性	なし	あり

7. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

6	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	近所・近隣地域との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	直接会って
参加にかかる費用 (円)	0	0
家からの所要時間 (分)	30	0
集団の人数 (人)	25	5
匿名性	あり	なし

8. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

7	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	近所・近隣地域との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	インターネット上で
参加にかかる費用 (円)	0	0
家からの所要時間 (分)	30	60
集団の人数 (人)	25	15
匿名性	なし	あり

9. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

8	集団A	集団B
関係性	近所・近隣地域との付き合い	親族との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	インターネット上で
参加にかかる費用 (円)	1000	1000
家からの所要時間 (分)	30	30
集団の人数 (人)	25	25
匿名性	あり	なし

10. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

9	集団A	集団B
関係性	近所・近隣地域との付き合い	近所・近隣地域との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	直接会って
参加にかかる費用 (円)	3000	0
家からの所要時間 (分)	60	60
集団の人数 (人)	5	25
匿名性	あり	あり

11. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

10	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	直接会って
参加にかかる費用 (円)	2000	1000
家からの所要時間 (分)	30	30
集団の人数 (人)	15	25
匿名性	なし	あり

12. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

11	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	親族との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	インターネット上で
参加にかかる費用 (円)	3000	1000
家からの所要時間 (分)	0	0
集団の人数 (人)	5	15
匿名性	なし	なし

■ サプリメンタル・マテリアル

13. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

12	集団A	集団B
関係性	学校・職場との付き合い	近所・近隣地域との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	インターネット上で
参加にかかる費用（円）	2000	1000
家からの所要時間（分）	0	0
集団の人数（人）	15	5
匿名性	あり	あり

14. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

13	集団A	集団B
関係性	学校・職場との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	直接会って	直接会って
参加にかかる費用（円）	0	3000
家からの所要時間（分）	0	0
集団の人数（人）	25	25
匿名性	あり	なし

15. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

14	集団A	集団B
関係性	親族との付き合い	親族との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	インターネット上で
参加にかかる費用（円）	0	2000
家からの所要時間（分）	60	60
集団の人数（人）	15	15
匿名性	あり	あり

16. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

15	集団A	集団B
関係性	学校・職場との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	インターネット上で
参加にかかる費用（円）	1000	0
家からの所要時間（分）	30	0
集団の人数（人）	15	15
匿名性	あり	あり

17. 以下の2つの集団の中から、関わりや付き合いをしても良い集団の一つを選んでください

16	集団A	集団B
関係性	近所・近隣地域との付き合い	学校・職場との付き合い
コミュニケーション方法	インターネット上で	直接会って
参加にかかる費用 (円)	0	0
家からの所要時間 (分)	0	30
集団の人数 (人)	15	5
匿名性	なし	なし

次の質問に答えて下さい

18. もしあなたが生活保護を受給しているとします。このとき、稼いだ給料のうち一部が政府によって貯蓄に回され、利息を付けて、あなたが生活保護を受給を終え、自立したときに支給されるとしたら、あなたは給与のうち何割を貯蓄に回されることを許せますか？ なお、利息は普通の銀行預金よりも優遇されて+1%の利息がつくとします。

1~100%のうちから選んでください _____

19. 子供のために政府が代わりにあなたの給与の一部を貯蓄に回し、利息を付けて、あなたの子供が高校に進学する時に支給されるとしたら、あなたは給与のうち何割を貯蓄に回されることを許せますか？ なお、利息は普通の銀行預金よりも優遇されて+1%の利息がつくとします。

1~100%のうちから選んでください _____

20. 年金の代わりに、毎月一定額を政府が支給して、年金の積み立てをしないとする案があります。あなたはこの案で毎月もらえるお金が最低いくらであれば、この案に賛成しますか？

1万円~10万円で千円刻みで選んでください _____

21. あなたは困ったときに相談できる人が何人いますか？ _____人

22. 先週の1週間で親族・友人・知人・近隣の人との交流はどの程度ありましたか？

- 1 毎日あった 2 1~2日ほど無かった
3 3日以上無かった 4 ほとんど無かった

23. あなたはどのくらい幸せを感じますか？

- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

■ サプリメンタル・マテリアル

24. あなたは将来についてどのくらい不安を感じますか？

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

以下の文章に述べられているそれぞれのことから、日頃あなたはどれくらい感じていますか。当てはまる
ところの数字に○をつけてください。

25. 私は自分の周囲の人たちと調子よくいっている。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

26. 私は、人とのつきあいがいい。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

27. 私には、頼りにできる人が誰もいない。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

28. 私は、ひとりぼっちではない。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

29. 私は、親しい仲間たちの中で欠くことのできない存在である。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

30. 私は、自分の周囲の人たちと共通点が多い。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

31. 私は、今、だれとも親しくしていない。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

32. 私の興味や考えは、私の周囲の人たちとちがう。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

33. 私は、外出好きの人間である。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

34. 私には親密感の持てる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

35. 私は、無視されている。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

36. 私の社会的なつながりはうわべだけのものである。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

37. 私をよく知っている人はだれもない。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

38. 私は、他の人たちから孤立している。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

39. 私は、望むときにはいつでも、人と付き合うことができる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

40. 私には、私を本当に理解してくれる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

■ サプリメンタル・マテリアル

41. 私は、たいへん引っ込み思案なのでみじめである。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

42. 私には、知人はいるが、私と同じ考えの人はいない。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

43. 私には、話しかけることのできる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

44. 私には、頼りにできる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

45. あなたの性別は？ 男 女

46. あなたの年齢は？ _____ 歳

47. あなたは仕事をしていますか？ はい いいえ

48. あなたは結婚していますか？ はい いいえ

49. 今、何人で生活していますか？ _____ 人

以上でアンケートは終了です。記入漏れがないかもう一度見直して下さい。
ご協力ありがとうございました。

第8章のアンケート

アンケート

1. あなたの性別は？ 男 女
2. あなたの年齢は？ _____ 歳
3. あなたは仕事をしていますか？ はい いいえ
4. あなたは結婚していますか？ はい いいえ
5. 今、何人で生活していますか？ _____ 人
6. お宅に住んでいるご家族全体の去年1年間の収入（ボーナス含む、税込み）は？
 - ①300万円未満
 - ②300万円—500万円未満
 - ③500万円—700万円未満
 - ④700万円—1000万円未満
 - ⑤1000万円—1500万円未満
 - ⑥1500万円以上

7. あなたの預貯金などの貯蓄率はどの程度ですか？ 任意の数字でお答え下さい

_____ %

8. 次の設問では、あなたはある実験に参加し、見知らぬ誰かと二人一組にされていると想像して、答えてください

あなたには、実験者から1000円が与えられます。あなたは、0円以上で1000円以下のいくらでも好きな額を相手に送ることができます。あなたが送った額は実験者によって3倍にされ、相手に渡されます。相手は0円以上であなたが送ってきた額の3倍以下のいくらでも好きな額をあなたに送り返すことができます。このときあなたは相手にいくら額を送りますか？ また、相手からいくら送り返されると期待しますか？

あなたが送る額 _____ 円

相手が送り返してくると期待する額 _____ 円

9. 次の設問では、あなたはある実験に参加し、見知らぬ誰かと、ある条件の下で、四人一組にされるかもしれないと想像して、答えてください。あなたには以下の2つの選択肢が与えられます。

選択肢A：あなたはX円を受け取り、他の3人は3000円を話し合いによって分ける

選択肢B：あなたは同じ組の他の3人とで4000円を話し合いによって分ける

■ サプリメンタル・マテリアル

選択肢Aを選んだ場合には、あなたは他の3人と会うことなく、一人でX円を受け取ります（X円の額については後で説明します）。一方で、あなた以外の3人は3000円を分けるための話し合いを行います。

選択肢Bを選んだ場合には、他の3人と顔を合わせて、4000円をどのような方法で誰にいくら分けるかの話し合いを行います。

今から皆さんは下の表を用いて、以上の意思決定を行います。表を見てください。表の設問1から11には、選択肢Bを選んだときにもらえるX円の額が書かれています。例えば、4番の設問においてはXの額は¥650ですので、選択肢Aを選んだときに、あなたがもらえる額は650円です。全ての設問に対して、選ぶ方の選択肢に丸を付けてください。

設問	Xの額	A	B
		あなたはX円を受け取り、他の3人は3000円を話し合いによって分ける	あなたは他の3人とで4000円を話し合いによって分ける
1	¥500		
2	¥550		
3	¥600		
4	¥650		
5	¥700		
6	¥750		
7	¥800		
8	¥850		
9	¥900		
10	¥950		
11	¥1,000		

低所得者用の支援制度として次のような状況を考えて下さい。以下ではあなたの年収が300万円を下回っていると考えて下さい。年収が300万円を下回る人を限定に、現在の社会保障(年金は健康保険)とは別に、自治体が給与の一部を非課税の定期預金の形で貯蓄に回してくれるとします。このとき、以下の「貯蓄を崩せる時期」の各条件の中の普通金利に対する「追加金利」の各条件の全てに対して、自治体があなただの給与のうち何%を貯蓄に回すことを許容できますか？ 許容できる割合に✓をつけてください。

例

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%	✓					
0.50%		✓				
0.70%		✓				
1.00%			✓			
1.20%			✓			
1.50%				✓		
1.70%				✓		
2.00%					✓	

以下のそれぞれの設問についてお答え下さい。

10. 貯蓄を崩せる時期：最初の貯蓄開始から3年後の任意の時期

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

11. 貯蓄を崩せる時期：最初の貯蓄開始から5年後の任意の時期

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

12. 貯蓄を崩せる時期：年収が300万円を上回った後の任意の時期

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

13. 貯蓄を崩せる時期：失業した時

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

■ サプリメンタル・マテリアル

14. 貯蓄を崩せる時期：結婚した時

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

15. 貯蓄を崩せる時期：子供が小学校に進学する時

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

16. 貯蓄を崩せる時期：子供が大学に進学する時

追加利率	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
0.20%						
0.50%						
0.70%						
1.00%						
1.20%						
1.50%						
1.70%						
2.00%						

17. 年金の代わりに、毎月一定額を政府が支給して、年金の積み立てをしないとする案（通称：ベーシックインカム）があります。以下では、このもらえるお金とあなたが毎月行っている貯蓄率の関係についてお尋ねします。あなたはこの案で毎月もらえるお金の額が以下の表のように変化するとき、現在の普通預金金利の下で、自分の給与と給付額の合計額のうち自分で貯蓄に回してもよいと思う割合に✓をつけてください。

毎月の給付額	5%以下	10%以下	15%以下	20%以下	25%以下	30%以下
¥10,000						
¥15,000						
¥20,000						
¥25,000						
¥30,000						
¥35,000						
¥40,000						
¥45,000						
¥50,000						
¥55,000						
¥60,000						
¥65,000						
¥70,000						
¥75,000						
¥80,000						

上でお答えいただいた10～16の低所得者向けの貯蓄優遇政策と17の年金の代わりにベーシックインカムが合わさった場合を想像して下さい。年金の代わりに政府から支給される額と自分の給与の額の合計のうち、今度は自治体ではなく、あなた自身が何%を貯蓄に回すかを決定できる時、あなたが以下の各条件で貯蓄に回す割合を塗りつぶして下さい。例えば、自分が5%以下を貯蓄に回したい場合には⑤を塗りつぶして下さい。質問には、「毎月支給される額」と「普通預金に+される金利」からなる全ての組み合わせ（全ての升目）において、⑤～⑳の1つを必ず塗りつぶして下さい（塗りつぶすのが大変な場合には✓をわかるように付けて下さい）。

例

		普通預金に+される金利											
		0.70%			1.00%			1.20%					
毎月支給される額	¥10,000	●	⑩	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳
	¥20,000	●	⑩	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳
	¥30,000	⑤	●	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳	⑤	⑩	●	⑳
	¥40,000	⑤	●	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳	⑤	⑩	●	⑳
	¥50,000	⑤	●	⑮	⑳	⑤	●	⑮	⑳	⑤	⑩	●	⑳
	¥60,000	⑤	⑩	●	⑳	⑤	⑩	●	⑳	⑤	⑩	●	⑳
	¥70,000	⑤	⑩	●	⑳	⑤	⑩	●	⑳	⑤	⑩	⑮	●
	¥80,000	⑤	⑩	●	⑳	⑤	⑩	●	⑳	⑤	⑩	⑮	●

以下のそれぞれの設問についてお答え下さい。

■ サプリメンタル・マテリアル

18. 貯蓄を崩せる時期：最初の貯蓄開始から3年後の任意の時期

		普通預金に+される金利											
		0.70%			1.00%			1.20%					
毎月支給される額	¥10,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥20,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥30,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥40,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥50,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥60,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥70,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥80,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20

19. 貯蓄を崩せる時期：年収が300万円を上回った後の任意の時期

		普通預金に+される金利											
		0.70%			1.00%			1.20%					
毎月支給される額	¥10,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥20,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥30,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥40,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥50,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥60,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥70,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥80,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20

20. 貯蓄を崩せる時期：失業した時

		普通預金に+される金利											
		0.70%			1.00%			1.20%					
毎月支給される額	¥10,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥20,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥30,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥40,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥50,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥60,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥70,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥80,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20

21. 貯蓄を崩せる時期：子供が大学に進学する時

		普通預金に+される金利											
		0.70%			1.00%			1.20%					
毎月支給される額	¥10,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥20,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥30,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥40,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥50,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥60,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥70,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20
	¥80,000	5	10	15	20	5	10	15	20	5	10	15	20

22. あなたが生活保護を受給することを想像して下さい。このとき、現行法であれば、仕事をして給料を得ると、稼いだ給料分が生活保護から差し引かれます。しかし、もし、稼いだ給料の一部が自治体によって貯蓄に回され、その貯蓄に回した分については生活保護の額を減額せず、利息を付けて、あなたが生活保護の受給を終え、自立したときに支給されるということになったとしたら、あなたは給与のうち何%を貯蓄に回されることを許せますか？ なお、利息は普通の銀行預金よりも優遇されて+1%の利息がつき、非課税とします。

1～100%のうちから選んでください _____%

23. あなたは自分の仕事を人と分け合えるならば、自分の給料が何%までなら減っても我慢できますか？

1～100%のうちから選んでください _____%

以下ではあなた自身のことについてお尋ねします

24. あなたは困ったときに相談できる人が何人いますか？ _____人

25. 先週の1週間で親族・友人・知人・近隣の人との交流はどの程度ありましたか？

親族

- | | |
|------------|--------------|
| 1 毎日あった | 2 1～2日ほど無かった |
| 3 3日以上無かった | 4 ほとんど無かった |

友人

- | | |
|------------|--------------|
| 1 毎日あった | 2 1～2日ほど無かった |
| 3 3日以上無かった | 4 ほとんど無かった |

知人

- | | |
|------------|--------------|
| 1 毎日あった | 2 1～2日ほど無かった |
| 3 3日以上無かった | 4 ほとんど無かった |

近隣の人

- | | |
|------------|--------------|
| 1 毎日あった | 2 1～2日ほど無かった |
| 3 3日以上無かった | 4 ほとんど無かった |

26. あなたはどのくらい幸せを感じますか？

- | | | | |
|------|----------|----------|------|
| 決して | どちらかといえば | どちらかといえば | たびたび |
| 感じない | 感じない | 感じる | 感じる |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

■ サプリメンタル・マテリアル

27. あなたは将来についてどのくらい不安を感じますか？

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

以下の文章に述べられているそれぞれのことから、日頃あなたはどれくらい感じていますか。当てはまる
ところの数字に○をつけてください。

28. 私は自分の周囲の人たちと調子よくいっている。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

29. 私は、人とのつきあいがいい。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

30. 私には、頼りにできる人が誰もいない。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

31. 私は、ひとりぼっちではない。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

32. 私は、親しい仲間たちの中で欠くことのできない存在である。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

33. 私は、自分の周囲の人たちと共通点が多い。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

34. 私は、今、だれとも親しくしていない。

決して 感じない 1	どちらかといえば 感じない 2	どちらかといえば 感じる 3	たびたび 感じる 4
------------------	-----------------------	----------------------	------------------

35. 私の興味や考えは、私の周囲の人たちとちがう。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

36. 私は、外出好きの人間である。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

37. 私には親密感の持てる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

38. 私は、無視されている。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

39. 私の社会的なつながりはうわべだけのものである。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

40. 私をよく知っている人はだれもいない。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

41. 私は、他の人たちから孤立している。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

42. 私は、望むときにはいつでも、人と付き合うことができる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

43. 私には、私を本当に理解してくれる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

■ サプリメンタル・マテリアル

44. 私は、たいへん引っ込み思案なのでみじめである。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

45. 私には、知人はいるが、私と同じ考えの人はいない。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

46. 私には、話しかけることのできる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

47. 私には、頼りにできる人たちがいる。

決して	どちらかといえば	どちらかといえば	たびたび
感じない	感じない	感じる	感じる
1	2	3	4

以上でアンケートは終了です。記入漏れがないかもう一度見直して下さい。
ご協力ありがとうございました。

〈執筆者略歴〉

青木 恵子 (あおき けいこ)

大阪大学社会経済研究所・特任研究員

専門は、実験経済学とアンケート調査を用いた安心・安全な社会・経済制度および人間行動・心理研究。

大阪大学大学院経済学研究科博士課程修了。日本学術振興会特別研究員、大阪大学社会経済研究所 GCOE 特任助教を経て、現職。

〈主な論文〉

- ・ (共同論文) “A Choice Experiment for Air Travel Services,” Proceedings of APMS 2012 International Conference Advances in Production Management Systems, September 2012.
- ・ (共同論文) 「看護師免許保有者の再就職時における職場選択—選択型実験法を用いた選好調査—」(『医療経済研究』 vol. 23 No. 2、p. 111-127、2012年6月所収)
- ・ (共同論文) “Consumer Reaction to Information on Food Additives: Evidence from an Eating Experiment and a Field Survey”, Journal of Economic Behavior and Organization 73, p. 433-438, March 2010.

赤井 研樹 (あかい けんじゅ)

東京大学大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻・特任研究員

専門は、実験経済学とアンケート調査を用いた社会・経済制度設計および人間行動・心理研究。

大阪大学大学院経済学研究科博士課程修了。東京工業品取引所市場構造研究所、日本学術振興会特別研究員、大阪大学社会経済研究所特任研究員等を経て、現職。

〈主な論文〉

- ・ (共同論文) “Prediction of photovoltaic and solar water heater diffusion and evaluation of promotion policies on the basis of consumers’ choices,” Applied Energy. vol. 102, p. 1148-1159, February 2013.
- ・ (共同論文) “Trust and reciprocity among international groups: Experimental evidence from Austria and Japan,” Journal of Socio-Economics 41(2), p. 266-276, February 2012.
- ・ (共同著書) 「国内排出権取引制度設計のための実験」『地球温暖化対策：排出権取引の制度設計』(日本経済新聞社、p. 218-235、2006年1月所収)

等多数。

非自発的孤立・無縁ゼロ社会創成のための
セーフティネット設計

2013年5月

発行 ■ 財団法人全国勤労者福祉・共済振興協会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-11-17
ラウンドクロス新宿5階
TEL：03-5333-5126
FAX：03-5351-0421

印刷 ■ 株式会社プライムステーション

全労済協会「公募研究シリーズ」既刊報告誌

(所属・役職は発行当時です。)

⑳ 『インターネット上の社会関係資本に基づく地域社会政策』 2013年1月

早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程 軍司 聖詞

- 絆のほころびが社会問題となっている現代、特に深刻であるのが地域社会で孤立しやすいとされている若者である。多くの若者は現実社会ではなく、インターネット上に絆を広げているという現状がある。本研究では、インターネット上に絆を広げる若年層の交流状況を分析し、若年層も巻き込んだ地域づくりを行うための地域社会政策を考察する。

㉑ 『福祉NPOと地域自治組織の連携システムに関する調査研究』 2012年12月

大阪市立大学都市研究プラザ特別研究員 栗本 裕見、関西大学社会学部教授 橋本 理

- 行政が供給する「行政サービス」ではなく、行政とともに地域住民やNPO、企業を担い手とする「公共サービス」充実のための「地域自治組織」が注目されている。「地域自治組織」における自治体と住民組織の関係、地域組織間の関係の現状を調査を基に分析することにより、地域自治組織の課題と展望を明らかにする。

㉒ 『地域通貨を活用したコミュニティ・ドックによる地域社会の活性化』 2012年10月

研究代表者：北海道大学大学院経済学研究科教授 西部 忠

- グローバル化が急進する現在、経済的・社会的・文化的な諸問題を解決する媒体として、地域通貨が注目されている。本研究では、地域通貨を活用したコミュニティ・ドックの手法を採り、地域経済・社会の現状を多面的に把握し、改善に向けた処方箋を提示する。そして、地域通貨の実践的な導入と活用、総合的かつ内発的な地域診断手法について提言する。

㉓ 『社会的企業の社会的包摂機能の戦略的社会基盤整備の制度化に関する日英比較研究』 2012年8月

明治大学経営学部教授 塚本 一郎

- 社会的企業に期待されている役割には、社会的排除下にあるグループを対象とする雇用機会の創出等がある。しかし、わが国では労働統合型といわれる社会的企業の制度化は発展途上であり課題が山積している。本研究はわが国の労働統合型社会的企業が社会的包摂機能を発揮するための課題と展望について、英国の先進事例との比較により明らかにする。

㉔ 『次世代育成支援行動計画における地域子育て支援事業の評価に関する研究』 2012年6月

滋慶医療科学大学院大学専任講師 小野セレストア摩耶

- 次世代育成支援事業のうち近年事業拡大と充実の傾向が著しい「地域子育て支援に関する事業」について、地域住民による事業評価の実施を目指して、事業の各利用者に対する有効性や効果・満足度等を評価する方法を研究し、利用者評価ツールを開発・作成した。利用者評価を推進する上での留意点、評価結果の活用の意義と重要性について考察する。

- ② 『女性ホワイトカラーの保育環境としての地域社会の課題と展望 ～企業福祉との役割分担～』 2012年 5月
奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程 川上 千佳
- 日本の保育は地域社会の認可保育所が主流だったが、近年、保育サービスは公共部門だけでなく、企業内保育所など多様な主体と共に担っていく流れにある。本研究では、女性ホワイトカラーの家庭と仕事の両立を調査し、企業等のインタビュー調査により子育て支援活動の実態と意識を紹介し、今後の地域における子育て支援のあり方について考察する。
- ① 『地域福祉を支える寄付の仕組みに関する研究』 2012年 1月
(独)国立高等専門学校機構明石工業高等専門学校一般科目・講師 石田 祐、大阪大学社会経済研究所特任助教 奥山 尚子
- 地域社会では福祉需要の多様化により、財政事情等を抱える行政に代わり、地域課題に取り組むNPOや自治会等諸団体の活動に期待が高まっているが、財政基盤が脆弱なため、寄付・会費を促進する方策が求められる。本研究ではアンケート調査を通して、寄付行動に影響を与える要因を分析し、寄付等の仕組みづくりへの可能性について述べる。
- ② 『保育サービスを中心とする子育て支援政策の国際比較行財政論
～スウェーデン、イギリスの実態と日本の改革論議への示唆～』 2011年12月
新潟県立大学国際地域学部准教授 高端 正幸、横浜国立大学経済学部准教授 伊集 守直、東北学院大学経済学部講師 佐藤 滋
- 1990年代以降日本では少子化対策を中心に子育て支援政策が進められてきたが、本研究では、スウェーデン、イギリスとの国際比較を通して、子育て支援政策の展開や行財政論についての基本的論点を考察する。そして日本における子育て支援政策とその改革論議一政策意図や地域における子育て支援一へ向けた視座を示す。
- ③ 『自主防災組織活性化による福祉コミュニティ再生の課題と展望』 2011年12月
高知大学総合教育センター准教授 玉里 恵美子、高知大学人文学部准教授 霜田 博史、高知大学総合教育センター准教授 大槻 知史
- 各地域で自主防災組織活動が展開されているが、住民意識が高いとはいえない。本研究は、高知県下の自主防災組織活動へ取り組みを実践研究し、コミュニティにおいて「防災・減災」を起点として地域の日常の福祉へと繋げ広げていく視点の重要性を述べ、今後の自主防災活動とコミュニティ再生を展望する。
- ④ 『日本における中山間地域の活性化に関する地域マネジメント研究
～経営学・マーケティング・ケアの視点から～』 2011年 7月
立命館大学経営学部教授 守屋 貴司、教授 佐藤 典司、立命館大学スポーツ健康科学部教授 三浦 正行
- 現在中山間地域では、過疎化の進行により様々な資源の喪失の危険が高まっている。本研究では中山間地域の活性化のため、①中核となる地方自治体・農協等の組織とリーダーの分析、②地域ブランド構築の過程での問題点、③子供たちの健康づくりのヒアリング調査によるケアとコミュニティの考察、の3つの視点から分析を進め、課題と展望を述べる。
- ⑤ 『社会連帯組織としての非営利・協同組織（協同組合）の再構築』 2011年 5月
関西大学商学部教授 杉本 貴志
- ⑥ 『ポスト福祉国家の時代における共生社会の可能性とベーシック・インカム論』 2010年12月
神戸大学大学院法学研究科教授 飯田 文雄
- ⑦ 『高齢化及び人口移動に伴う地域社会の変動と今後の対策に関する学際的研究』 2010年12月
研究代表者：日本大学生物資源科学部准教授 高橋 巖

全劳济协会